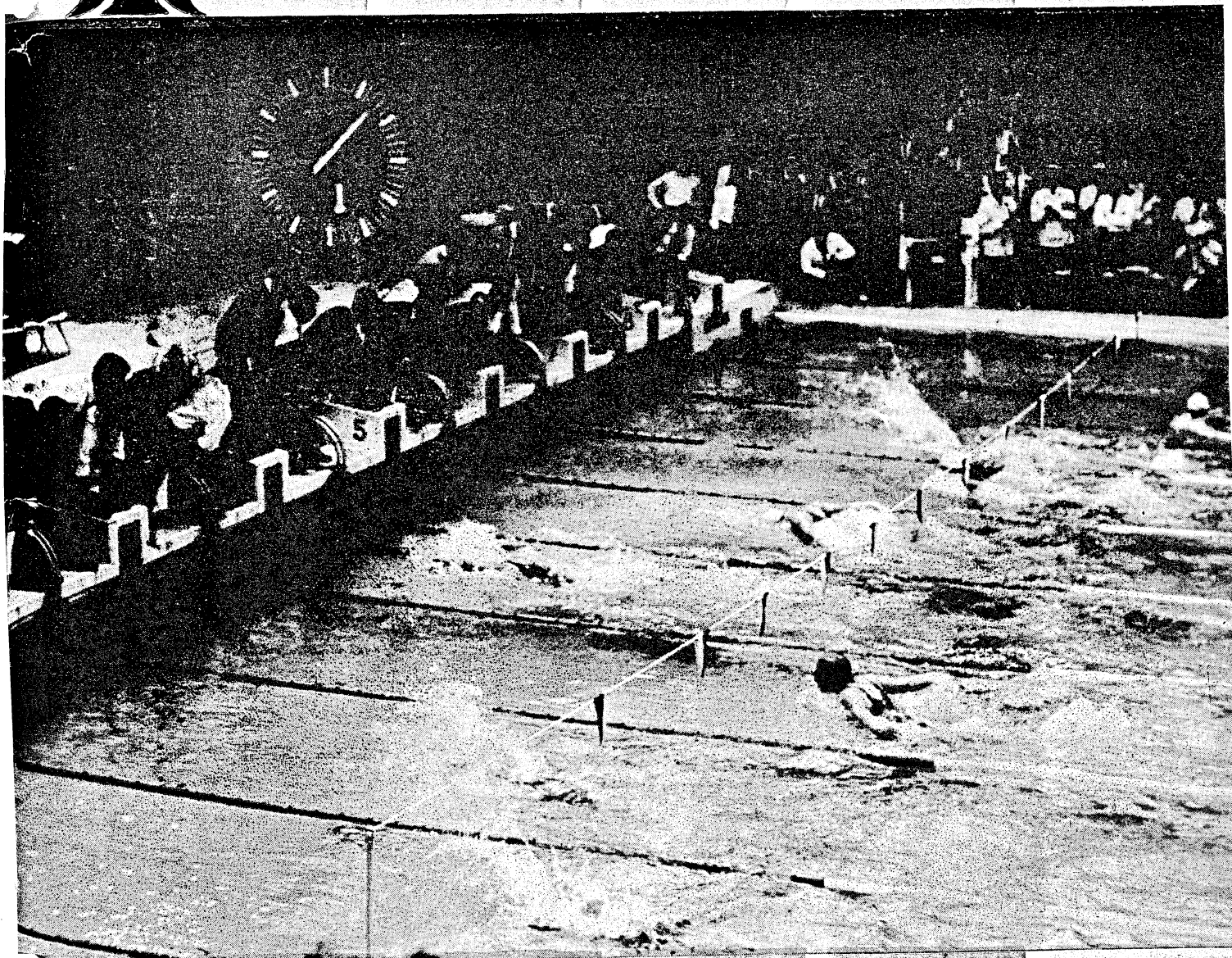
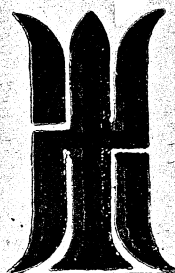


日本水泳連盟  
機 関 誌

# 水 泳

第 152・153 号  
昭 和 39 年 1 月



No. 152・153

“SUIEI”

Jan 1964

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

目

次

第6回日米対抗水上競技大会	(1)
日米対抗東京大会	(2)
日米対抗大阪大会	(4)
日米交歓水泳名古屋大会	(6)
日米交歓水泳岡山大会	(7)
日米対抗東京大会所感	穴道洋一 (8)
日米対抗大阪大会を顧みて	吉田嶺吉 (9)
日米交歓水泳岡山大会を終えて	小寺三郎 (10)
ヘニング博士がAAUに出した日米対抗の報告書	(11)
ユニバーシアード水球遠征の記	村瀬友三郎 (12)
電子式自動審判装置について	伊丹康夫 (14)
清川正二氏に紫綬褒賞	(16)
私はこうして選手を育てた	井上隆・浦井保弘 (17) 江崎正護・三枝美貴子 (18)
第14回全国勤労者水泳競技大会雑感	宮本秀夫 (21)
日本高校大会に思う	妙中要造 (22)
水球ヨーロッパ遠征報告	神田明善 (23)
水泳競技における科学的原則の応用について	ウィリアム・ヨジック訳 (27) 松岡慶夫
ユニバーシアード大会に選手派遣	(30)
海外ニュース	坂本宗隆 (31)
昭和39年度オリンピック水泳候補選手	(40)
昭和38年上半期の新記録について	(44)
国際水連1963年上半期の世界新記録を承認	(46)
東京国際スポーツ大会水泳競技大会	(47)
東京国際スポーツ大会の飛込競技	小柳富男 (49)
ヨーロッパもあなどり難し	菊地章 (50)
東京国際スポーツ大会水泳競技大会記録	(51)
東京国際スポーツ大会飛込競技得点表	(60)
ハンガリー水球チームと対戦して	神田明善 (64)
昭和38年度日本選手権水泳競技大会記録	(67)
昭和38年度夏季定例代議員会議事録	(76)
日本水泳連盟競技規約について	(79)

表紙写真は国際スポーツ大会女子バタフライ決勝。4コース 高橋(日本), 5コース コック(オランダ)。

## 第6回日米対抗水上競技大会

第6回日米対抗に出場する選手は日本側は日本選手権大会(8月2日～5日於神宮プール)の成績を参考として代表補候(競泳25名, 飛込2名)を選定し, 8月6日から一週間合宿をした結果によって, 次の17名を正選手に決定した。又米国側はシカゴ郊外のオークパークで行なわれた全米男子屋外選手権大会(8月9日～11日)の結果によって17名の選手がきまった。この大会では期待のジャストレムスキーが不調で落選し, 又世界記録保持者のストック(200背)スチックルス(400個人メドレー)の両選手は都合によって日本遠征に参加しなかった。

### 日本チーム 監督 村上勝芳(日大出, 日大監督)

自由形コーチ	古賀 学(早大出)
平泳コーチ	藤垣亮太郎(早大出)
背泳コーチ	倉橋 範彦(日大出)
バタフライコーチ	長沢 二郎(早大出)
飛込コーチ	馬場 豊(早大出)
トレーニングマネジャー	青木 行義(日大出)
選手(17名)	石原 勝記(24才, 日大出, B.S タイヤ)
	岡部 幸明(22才, 早大)
	後藤 忠治(21才, 日大)
	藤本 達夫(23才, 中大出, 松下電器)
	福井 誠(23才, 八幡製鉄)
	山中 毅(24才, 早大出, 大洋漁業)
	佐々木末昭(20才, 中大)
	藤島 祥三(18才, 早大)
	石川 健二(17才日大豊山高)
	松本健次郎(19才, 早大)
	和気 統(21才, 日大)
	佐藤 好助(21才, 八幡製鉄)
	大林 敦(20才, 中大)
	中島 功(22才, 日大出, B.S タイヤ)
	福島 滋雄(20才, 日大)
	伊藤 圭祐(19才, 早大)
	金戸 俊介(23才, 日大出)

以上17名の中, 藤本, 中島の両選手は東京大会終了後ユニバーシアード大会に出発するので, 名古屋以降の大会には次の2名が交替選手として加わる。

山影 武士(18才, 明大)

岩崎 邦宏(18才, 早大)

### 米国チーム 監督・ケネス・トリッドウェー

(33才, タルサ大卒, A.A.L.I 常務理事)

コーチ ラルフ・ケーシー(42才, コロンビヤ大卒, 南イリノイ大学コーチ)

### 選手 (17名)

ドナルド・ショランダー  
(17才, サンタクララ高校)

ロ イ サーリ (18才, 南加大)

エドワード・タウンゼンド(19才, エール大)

ウィリアム・ファーレー(18才, ミシガン大)

ロナルド・コグヒル (18才, シンシナチ大入  
学予定)

ゲイリー・イルマン (20才, フットヒル大)

リチャード・マックドノー(20才, ヴィラノバ大)

スティープン・クラーク(20才, エール大)

ケネス・マーテン (18才, パーレイ短大)

ウィリアム・クレイグ (18才, 南加大)

ウォルター・リチャードソン(20才, ミネソタ大)

カール・ロビー (15才, ミシガン大)

エドワード・バーチ (19才, ミシガン大)

リチャード・マックゲイ (19才, 南加大)

ラルフ・ケンドリック (19才, インディアナ大)

リチャード・ロス (15才, アスレトン高)

ラリー・アンドリーセン (17才, セリトス短大入  
学予定)

### 米国選手団の日程

8月13日 ロサンゼルス出発

14日 東京着 国際文化会館泊

17日～19日 東京大会(神宮プール)

22日 名古屋交歓大会(振甫プール) 藤久ホ  
テル泊

24, 25日 大阪大会(扇町プール) 新大阪ホテ  
ル泊

26日——奈良見物, 比叡山ホテル泊

27日 京都見物

28日 岡山交歓大会(県営プール)

29日 東京帰着, 高輪プリンスホテル泊

31日 東京発帰国

# 日米対抗東京大会

8月17日 気温30.0° 水温 (大27.7° 小25.0°) 晴  
 8月18日 " 26.3° " (大27.1° 小26.2°) 雨  
 8月19日 " 24.5° " (大26.2° 小25.8°) 曇

於 東京神宮プール (50m)

## 第1日

### 1500m自由形途中時間

- 400m個人メドレー**
- C. ロビー (米) 4:52.8  
1:03.4 2:16.7 3:46.0 (国新)
  - R. ロス (米) 4:54.4  
1:05.8 2:18.8 3:46.0 (国新)
  - 福島 滋雄 (日) 4:55.5  
1:05.5 2:16.7 3:48.8
  - R. ケンドリック (米) 5:01.4
  - 大林 敦 (日) 5:33.7

- 200m自由形**
- D. ショランダール (米) 1:58.5  
27.7 58.3 1:28.3 (世新)
  - D. マクドノー (米) 2:00.4  
27.1 57.5 1:28.5
  - E. タウンゼント (米) 2:01.5  
27.8 58.7 1:30.0
  - 山中 毅 (日) 2:02.9  
27.6 59.0 1:30.4
  - 藤本 達夫 (日) 2:03.8  
27.9 59.3 1:31.4
  - 福井 誠 (日) 2:03.8  
28.7 59.9 1:31.5

- 200m平泳**
- 松本 健次郎 (日) 2:32.6  
34.1 1:13.4 1:53.0 (日新)
  - W. クレイグ (米) 2:32.6  
1:13.4 (国新)
  - 石川 健二 (日) 2:33.8  
33.5 1:12.4 1:52.8
  - 和氣 統 (日) 2:37.1  
35.4 1:15.8 1:56.5
  - K. マーテン (米) 2:37.1  
34.5 1:14.8 1:55.9

- 1500m自由形**
- R. サーリ (米) 17:05.5

	サーリ	ファーレー	佐々木	コグヒル	藤島
m					
100	1:03.6	1:02.8	1:03.6	1:04.1	1:06.7
200	2:11.5 7.9	2:10.4 7.6	2:11.9 8.3	2:13.4 9.3	2:17.4 10.7
300	3:20.2 8.7	3:19.9 9.5	3:21.5 9.6	3:24.1 10.7	3:28.2 10.8
400	4:29.5 9.3	4:30.3 10.4	4:31.7 10.2	4:35.0 10.9	4:38.8 10.6
500	5:38.2 8.7	5:40.2 9.9	5:42.7 11.0	5:46.4 11.4	5:49.3 10.5
600	6:47.1 8.9	6:50.8 10.6	6:53.9 11.2	6:57.9 11.5	7:00.4 11.1
700	7:56.4 9.3	8:01.1 10.3	8:05.1 11.2	8:09.5 11.6	8:11.6 11.2
800	<b>9:05.8</b> 8.6	<b>9:12.1</b> 11.0	<b>9:16.5</b> 11.4	<b>9:21.1</b> 11.6	<b>9:22.9</b> 11.3
900	10:15.2 9.4	10:23.2 11.1	10:28.5 12.0	10:33.3 13.2	10:34.1 11.2
1000	11:24.1 8.9	11:34.3 11.1	11:40.8 12.3	11:46.2 12.9	11:46.0 11.9
1100	12:33.3 9.2	12:45.3 11.0	12:53.1 12.3	12:58.9 12.7	12:59.4 13.4
1200	13:42.3 9.0	13:56.9 11.6	14:50.6 12.5	14:10.9 12.0	14:12.6 13.2
1300	14:51.1 8.8	15:09.2 12.3	15:18.4 12.8	15:22.9 12.0	15:25.2 2.6
1400	5:59.5 8.4	16:21.5 12.3	16:30.7 12.3	16:34.7 11.8	6:38.3 13.1
1500	17:05.5 6.0	7:31.9 10.4	17:40.2 9.5	17:45.0 10.3	17:49.7 10.4

(800mはすべて正式計時)

(世新)

- W. ファーレー (米) 17:31.9
- 佐々木末昭 (日) 17:40.2

- R. コグヒル (米) 17:45.0
- 藤島 祥三 (日) 17:49.7

**400mメドレーリレー**

1 米 国 4:02.2 (国新)  
 { マッギー 1:02.1 (正式)  
 クレイグ 1:09.3  
 リチャードソン 57.3  
 クラーク 53.5

2 日 本 4:06.4 (日新)  
 { 福 島 1:03.0 (正式)  
 松 本 1:09.5  
 中 島 58.3  
 岡 部 55.6

第2日

飛板飛込

1 R.アンドリーセン(米) 142.01  
 規定61.03 選択80.98  
 2 金戸俊介(日) 137.23  
 規定 7.21 選択80.02

400m 自由形

1 D. ショランダー(米) 4:15.0  
 1:00.5 2:05.3 3:11.1 (国新)  
 2 R. サーリ(米) 4:19.9  
 1:01.4 2:07.7 3:15.1  
 3 山中毅(日) 4:20.0  
 1:00.8 2:06.8 3:13.4  
 4 W. フェーレー(米) 4:22.3  
 1:01.5 2:07.7 3:15.7  
 5 藤本達夫(日) 4:26.5  
 1:02.0 2:09.5 3:17.7  
 6 福井誠(日) 4:34.4  
 1:02.0 2:09.3 3:20.5

200m バタフライ

1 C. ロビー(米) 2:08.2  
 28.5 1:00.6 3:34.2 (世新)  
 2 W. リチャードソン(米) 2:11.0  
 29.1 1:02.5 1:36.1 (国新)  
 3 佐藤好助(日) 2:12.6  
 30.3 1:03.5 1:37.2  
 4 中島功(日) 2:14.5  
 29.1 1:03.6 1:39.1  
 5 大林敦(日) 2:18.0  
 30.3 1:04.6 1:40.5  
 6 R. ケンドリック(米) 2.20.9  
 30.1 1:05.1 1:41.9

100m 背泳

1 R. マッギー(米) 1:00.9  
 29.6 (世タイ)

1 E. パーチ(米) 1:02.1  
 30.2  
 2 福島滋雄(日) 1:03.2  
 29.8  
 3 伊藤圭祐(日) 1:03.8  
 30.3  
 4 R. ロース(米) 1:03.8  
 30.5  
 100m 平泳  
 1 石川健二(日) 1:09.8  
 32.5 (日タイ)

2 W. クレイグ(米) 1:09.8  
 31.8  
 3 松本健次郎(日) 1:10.8  
 32.6  
 4 K. マーテン(米) 1:10.8  
 32.6  
 5 和気統(日) 1:14.9  
 35.1

400m リレー

1 米 国 3:36.1 (日国)  
 { クラーク 54.0(正)  
 マクドノー 53.3  
 イルマン 53.9  
 タウンゼント 54.9  
 2 日 本 3:42.8 (日新)

{ 石 原 56.1(正)  
 後 藤 55.5  
 藤 木 55.3  
 岡 部 55.9

第3日

高飛込

1 金戸俊介(日) 148.48  
 制79.87 自68.61  
 2 R.アンドリーセン(米) 147.43  
 制76.07 自71.36

800m 自由形

1 山中毅(日) 9:04.4 (日新)  
 2 W. フェーレー(米) 9:07.7 (国新)  
 3 R. コグヒル(米) 9:09.8  
 4 佐々木末昭(日) 9:15.3  
 5 藤島祥三(日) 9:18.0

100m 自由形

1 D. マクドノー(米) 54.0  
 25.3 (国新)  
 2 S. クラーク(米) 54.6 (国タイ)  
 25.7  
 3 G. イルマン(米) 54.9  
 25.4  
 4 岡部幸明(日) 56.0  
 26.2

800m 自由形途中時間

	山 中	フェーレー	コグヒル	佐々木	藤 島
100	1:01.9	2:02.8	1:04.3	1:04.6	1:04.6
200	2:10.1	2:10.5	2:12.4	2:13.4	2:14.6
300	3:19.3	3:19.5	3:20.3	3:23.6	3:25.3
400	4:28.9	4:29.4	4:30.6	4:34.0	4:35.9
500	5:37.6	5:39.4	5:40.3	5:44.0	5:46.5
600	6:46.3	6:50.2	6:49.8	6:55.1	6:57.6
700	7:55.9	8:01.1	7:59.8	8:06.4	8:08.7
800	9:04.4	9:07.7	9:09.8	9:15.3	9:18.0

- 5 石原勝記 (日) 56.1  
26.2  
6 後藤忠治 (口) 56.4  
26.3

{ ショランダー 1:59.4(正式)  
マクドノー 2:02.5  
タウンゼント 2:01.3  
サーリ 2:00.5

2 日 本 8:19.3  
2:05.7(正式)  
2:04.7  
2:03.8  
2:05.1  
{ 山藤福岡 中本井部

100m バタフライ

- 1 W. リチャードソン (米) 58.6  
27.9 (国新)  
2 C. ロビー (米) 59.1  
27.7  
3 佐藤好助 (日) 59.9  
27.9  
4 大林敦 (日) 1:00.0  
28.0  
5 G. イルマン (米) 1:01.3  
28.1

中島功 (日) (59.6失格)

200m 背泳

- 1 福島滋雄 (日) 2:12.2  
30.4 1:03.6 1:37.6 (日新)  
2 E. パーチ (米) 2:16.4  
31.1 1:05.2 1:40:2  
3 R. マッギー (米) 2:17.6  
31.3 1:05.8 1:41.8  
4 伊藤圭祐 (日) 2:20.3  
31.6 1:06.8 1:43.8  
5 R. ロス (米) 2:24.0  
32.2 1:07.9 1:45.4

800m リレー

- 1 米 国 8:03.7  
(世新)

得点表

月 日	種 目	米	日
8月17日	1 400個メ	5	1
	2 200 自	6	0
	3 200 平	2	4
	4 1500 自	5	1
	5 400混 継	3	0
8月18日	6 飛板飛込	2	0
	7 400 自	5	1
	8 200 パ	5	1
	9 100 背	5	1
	10 100 平	2	4
8月19日	11 400 継	3	0
	12 高飛込	0	2
	13 800 自	3	3
	14 100 自	6	0
	15 100 パ	5	1
	16 200 背	3	3
	17 800 継	3	0
合 計	63	22	

日米対抗大阪大会

8月24日 気温32.0° 水温28.0° 晴 於大阪扇町プール (50m)  
25日 " 29.5 " 28.5 曇大雨

第 1 日

- 飛板飛込 27.7 58.6 1:28.4 6 岩崎邦宏 (日) 2:03.8  
1. 土佐忠雄 (日) 151.20 2 R. マクドノー (米) 2:01.8 28.7 1:00.4 1:31.8  
規定62.57 選択88.63 27:4 58.3 1:30.0  
200m 背泳  
2. R. アンドリーセン (米) 143.09 3 E. タウンゼント (米) 2:02.5 1 福島滋雄 (日) 2:13.1  
規定 59.75 選択83.34 28.5 1:00.1 1:30.8 (日新)  
30.6 1:03.7 1:38.4  
200m 自由形 28.4 59.9 1:31.5 2 E. パーチ (米) 2:15.3  
1 D. ショランダー (米) 1:58.4 5 岡部幸明 (日) 2:03.1 31.2 1:05.0 1:39.5  
(世新) 28.3 59.3 1:31:2 3 伊藤圭祐 (日) 2:17.9

- 31.4 1:06.2 1:41.9  
 4 R. ロ ス (米) 2:18.9  
 31.7 1:06.0 1:42.4  
 100m バタフライ  
 1 W. リチャードソン(米) 57.8  
 (27.1) (国新)  
 2 R. ロ ビ ー (米) 59.1  
 (27.7) (国新)  
 3 大 林 敦 (日) 59.7  
 (28.1) (日新)  
 4 佐 藤 好 助 (日) 59.1

- (27.1) (日タイ)  
 200m 平 泳  
 1 松本健次郎 (日) 2:33.0  
 34.7 1:14.0 1:54.0 (日新)  
 2 W. クレイグ (米) 2:34.2  
 34.8 1:13.8 1:53.8  
 3 K. マーテン (米) 2:36.2  
 34.6 1:14.9 1:56.5  
 4 和 気 統 (日) 2:36.6  
 35.7 1:16.6 1:56.5

- 5 R. ケンドリック (米) 2:41.4  
 36.9 1:18.5 1:59.7

1500m自由形

- 1 R. サ ー リ (米) 17:22.3  
 2 佐々木末昭 (日) 17:27.6  
 3 W. ファーレー (米) 17:48.0  
 4 R. コッグヒル (米) 17:51.6  
 5 山 中 毅 (日) 18:16.3  
 6 藤 島 祥 三 (日) 18:21.8

1500m 自由形 途中時間

	サ ー リ		佐 々 木		フ ァ ー レ ー		コ ッ グ ヒ ル		山 中		藤 島	
100	1:04.2		1:04.9		1:04.4		1:05.4		1:03.8		1:06.2	
200	2:12.0	7.8	2:14.4	9.5	2:13.1	8.7	2:15.2	9.8	2:12.1	8.3	2:16.4	10.2
300	3:20.7	8.7	3:23.6	9.2	3:23.1	10.0	3:25.5	10.3	3:12.2	9.1	3:26.7	10.3
400	4:29.5	8.8	4:34.1	10.5	4:32.2	11.1	4:34.2	11.7	4:30.4	9.2	4:37.4	10.7
500	5:38.9	9.4	5:45.3	11.2	5:45.5	11.3	5:47.2	10.0	5:40.5	10.1	5:48.0	10.6
600	6:48.3	9.4	6:56.2	10.9	6:56.7	11.2	7:00.7	13.5	6:51.0	10.5	6:58.6	10.6
700	7:57.7	9.4	8:07.5	11.3	8:08.3	11.6	8:12.8	12.1	8:02.5	11.5	8:09.9	11.3
800	<b>9:08.0</b>	10.3	<b>9:18.8</b>	11.3	<b>9:18.4</b>	10.1	<b>9:24.7</b>	11.9	<b>9:15.4</b>	12.9	<b>9:22.5</b>	12.6
900	10:18.3	10.3	10:29.9	11.1	10:30.4	2.0	10:36.9	12.2	10:31.2	15.8	10:35.2	12.7
1000	11:29.4	11.1	11:41.0	11.1	11:42.2	11.8	11:49.3	12.4	12:46.8	15.6	11:49.8	14.6
1100	12:40.4	11.0	12:30.3	9.3	12:54.3	12.1	13:00.5	11.2	13:02.4	15.6	13:05.2	15.4
1200	13:51.3	10.9	14:00.0	9.7	14:07.7	13.4	14:12.4	11.9	14:19.4	17.0	14:22.9	17.7
1300	15:02.2	10.9	15:09.6	9.6	15:21.4	13.7	15:25.3	12.9	15:37.7	18.3	15:42.0	19.1
1400	16:12.7	10.5	16:19.3	9.7	16:35.1	14.2	16:39.2	13.9	16:56.8	19.1	17:02.0	20.0
1500	17:22.3	9.6	17:27.6	8.3	17:48.0	12.4	17:51.6	12.4	18:16.3	19.5	18:21.8	19.8

註 800m はすべて正式計時

400m メドレーリレー

- 1 米 国 4:00.1 (世新)
- { マックギー 1:01.2  
クレードン 1:08.2  
リチャードソン 57.6  
クラーク 53.1
- 2 日 本 4:06.2 (日新)
- { 福島本林原 1:02.8  
松本 1:09.0  
大石 59.0  
石原 55.4

第2日

高飛込

- 1 R. アン德里セン(米) 152.51  
規定77.06 選択75.45
- 2 土佐忠雄(日) 144.67  
規定76.78 選択67.89

400m 自由形

- 1 D. ショランダー(米) 4:15.5  
1:01.1 2:06.8 3:11.5 (国新)
- 2 R. サーリ(米) 4:19.3  
1:01.1 2:07.4 3:13.8
- 3 山中毅(日) 4:19.8  
1:01.5 2:07.4 3:13.6
- 4 W. ファーレー(米) 4:26.1  
1:02.8 2:10.8 3:18.8
- 5 佐々木末昭(日) 4:26.6  
1:03.6 2:11.4 3:19.8
- 6 福井誠(日) 4:28.9  
1:01.8 2:08.5 3:17.6

100m 背泳

- 1 R. マッキー(米) 1:00.9  
29.8 (世タイ)
- 2 福島滋雄(日) 1:02.4  
30.0
- 3 E. パーチ(米) 1:02.9  
29.8

- 4 伊藤圭祐(日) 1:03.3  
29.0

200m バタフライ

- 1 C. ロビー(米) 2:08.3  
28.8 1:01.7 1:35.2 (世新)
- 2 W. リチャードソン(米) 2:10.5  
28.9 1:01.8 1:36.2 (国新)
- 3 佐藤好助(日) 2:12.2  
30.0 1:02.8 1:36.0
- 4 大林敦(日) 2:16.7  
30.4 1:04.5 1:40.1

100m 自由形

- 1 R. マックドノー(米) 54.1  
25.1 (国新)
- 2 S. クラーク(米) 54.3  
25.1 (国新)
- 3 G. イルマン(米) 54.7  
25.6
- 4 岡部幸明(日) 55.4  
25.4 (日新)
- 5 後藤忠治(日) 55.9  
26.7
- 6 石原勝記(日) 56.8  
27.0

400m 個人メドレー

- 1 R. ケンドリック(米) 4:55.3  
1:06.6 2:22.8 3:48.0
- 2 C. ロビー(米) 4:55.9  
1:03.7 2:21.1 3:50.1
- 3 福島滋雄(日) 4:56.2  
1:06.6 2:18.5 3:50.7
- 4 R. ロス(米) 4:57.3  
1:06.5 2:22.5 3:50.3
- 5 山影武士(日) 5:08.2  
1:05.3 2:24.2 3:58.0

100m 平泳

- 1 R. クレーグ(米) 1:09.2  
33.2 (国新)

- 2 松本健次郎(日) 1:10.5  
33.0
- 3 K. マーテン(米) 1:10.8  
32.9
- 4 和気統(日) 1:13.6  
34.7
- 5 R. ロス(米) 1:15.5  
35.8

800m リレー

- 1 米 国 8:12.7  
{ タウンゼント2:02.5 (正式)  
ショランダー 2:01.5  
サーリ 2:06.4  
マックドノー 2:02.3
- 2 日 本 8:19.2  
{ 岩崎 2:03.6 (正式)  
山影 2:06.1  
福岡井部 2:03.7  
福岡部 2:05.8

得点表

月日	種目	米	日
8月24日	飛板飛込	0	2
	200自	6	0
	200背	2	4
	100バ	5	1
	200平	3	3
	1500自 400混継	4 3	2 0
8月25日	高飛込	2	0
	400自	5	1
	100背	4	2
	200バ	5	1
	100自	6	0
	400個メ	5	1
	100平 800継	4 3	2 0
合計	57	19	

日米交歓水泳名古屋大会

8月22日

気温26.0°  
水温24.0°

於 名古屋振甫プール (50m)

- 400m メドレーリレー (マッキー・クレーグ・リチャードソン・クラーク) 2 日本 4:08.4 (伊藤・石川・佐藤・後藤)
- 1 米 国 4:04.6 (国新)



<b>800m 自由形</b>		(世タイ)	<b>100m 自由形</b>	
1 R. サ ー リ (米) 9:05.4	2 E. タウンゼンド (米) 2:02.8		1 D. マックドノー (米) 54.6	
(国新)	3 福 井 誠 (日) 2:03.7		(国タイ)	
2 W. フェーレー (米) 9:06.4	4 岡 部 幸 明 (日) 2:03.9		2 S. クラーク (米) 54.9	
(国新)	5 岩 崎 邦 宏 (日) 2:05.3		3 G. イルマン (米) 55.1	
3 山 中 毅 (日) 9:09.6	6 W. フェーレー (米) 2:05.3		4 後 藤 忠 治 (日) 56.4	
4 藤 島 祥 三 (日) 9:10.8	<b>200m 背 泳</b>		5 石 原 勝 記 (日) 57.2	
5 R. コッグヒル (米) 9:13.0	1 福 島 滋 雄 (日) 2:13.9		<b>200m 平 泳</b>	
6 佐々木末昭 (日) 9:19.9	2 E. パ ー チ (米) 2:16.5		1 石 川 健 二 (日) 2:33.9	
<b>400m 個人メドレー</b>			2 W. クレーグ (米) 2:36.7	
1 D. ロ ス (米) 4:55.0	3 R. マ ッ ギ ー (米) 2:17.1		3 K. マ ー テ ン (米) 2:36.7	
(国新)	4 伊 藤 圭 祐 (日) 2:19.2		4 和 気 統 (日) 2:38.8	
2 C. ロ ビ ー (米) 4:55.1	<b>200m バタフライ</b>		<b>800m リレー</b>	
(国新)	1 C. ロ ビ ー (米) 2:10.3		1 米 国 8:23.3	
3 R. ケンドリック (米) 4:58.4	(国新)		(マックドノー・タウンゼン	
(国新)	2 W. リチャードソン(米) 2:12.5		ド・ショランダー・サーリ)	
4 福 島 滋 雄 (日) 5:03.8	3 佐 藤 好 助 (日) 2:14.8		2 日 本 8:29.5	
5 山 影 武 士 (日) 5:08.3	4 山 中 毅 (日) 2:17.8		(山影・岩崎・岡部・福井)	
<b>200m 自由形</b>		5 大 林 敦 (日) 2:18.1		
1 D. ショランダー (米) 2:00.3	6 R. ケンドリック (米) 2:32.4			

## 日米交歓水泳岡山大会

8月28日

気温27.0°

於 岡山県営プール (50m)

水温26.0°

<b>800m 自由形</b>		2 福 島 滋 雄 (日) 4:58.9	3 大 林 敦 (日) 2:20.1	
1 D. ショランダー (米) 9:04.0	3 R. ケンドリック (米) 5:02.8	4 R. ケンドリック (米) 2:31.5		
(国新)	4 山 影 武 士 (日) 5:14.8	<b>400m 自由形</b>		
2 C. ロ ビ ー (米) 9:10.0	<b>200m 平 泳</b>		1 R. サ ー リ (米) 4:23.1	
3 佐々木末昭 (日) 9:12.6	1 松本健次郎 (日) 2:35.4	2 山 中 毅 (日) 4:23.8		
4 藤 島 祥 三 (日) 9:14.9	2 和 気 統 (日) 2:37.9	3 W. フェーレー (米) 4:26.0		
5 R. コッグヒル (米) 9:22.2	3 W. クレーグ (米) 2:41.2	4 福 井 誠 (日) 4:30.4		
<b>100m 自由形</b>		4 K. マ ー テ ン (米) 2:44.3	5 R. マクドノー (米) 4:34.4	
1 S. クラーク (米) 54.6	<b>200m 背 泳</b>		<b>400m メドレーリレー</b>	
(国新)	1 福 島 滋 雄 (日) 2:14.9	1 米 国 4:07.6		
2 G. イルマン (米) 55.0	2 E. パ ー チ (米) 2:16.5	(パーチ・マーテン・リチャ		
3 E. タウンゼント (米) 56.1	3 R. マ ッ ギ ー (米) 2:16.6	ードソン・イルマン)		
4 後 藤 忠 治 (日) 56.8	4 伊 藤 圭 祐 (日) 2:22.4	2 日 本 4:09.1		
5 岡 部 幸 明 (日) 56.8	<b>200m バタフライ</b>		(伊藤・松本・大林・石原)	
6 岩 崎 邦 宏 (日) 56.8	1 C. ロ ビ ー (米) 2:11.1			
<b>400m 個人メドレー</b>		(国新)		
1 D. ロ ス (米) 4:57.7	2 佐 藤 好 助 (日) 2:14.4			

# 日米対抗東京大会所感

東京大会競技記録主任 宍道 洋一

東京大会は63-22、大阪大会は57-19で米国チームが圧勝した。米国チームの実力はおそらく史上最強のものと言えよう。昭和7年ロサンゼルス・オリンピック大会の日本チームのように。世界新記録が東京大会で5ケ、大阪大会で3ケ、競技会としても誠に素晴らしいものであった。ストック、スティックルス、ジャストレムスキー等の世界記録保持者が参加しなかったので、惨敗はまぬかれるのではないかとの観測もあったが、彼等が来なくても埋合せのできる選手が目白押しということをはっきり見せつけられ全く羨しい限りであった。

米国選手の特長は本番に物凄く強いということであろう。戦前のメディカ、戦後のマックレーン、コンノがその代表であるが今度来た選手は全部がメディカであり、マックレーンであり、コンノであった。秋の東京国際スポーツ大会に出場した米国の飛込選手について日本の小柳監督も同じ意味の感想をのべているが、これは米国人独特のものだろうか。

ロサンゼルスオリンピック大会で日本が大勝したときに、米国チームの監督キップス氏が「日本チームに対しありとあらゆる讃辞をおくる」と言ったが、このことばをそっくり今の米チームにお返ししても文句を言う人はいないだろう。

ところで敗れた日本チーム、ひいては強化に奔走する日本水泳連盟にジャーナリストは少し当りすぎたようだ。各方面の批判については十分反省しなければならないのは勿論だが、それ程くさることもないと思う。この気持ちにピッタリ当る記事が朝日新聞の天声人語にあったから引用すると「得点の差を、そのまま双方の実力の差ときめて悲観する必要もあるまい。こういう大会では、一種の“勝負の勢い”ともいふべきものがあって、初めに手痛く負けるとあとに相当ひびくものだ。最初の400m個人メドレーで1,2着をしめた米チームが大に調子づいた気配も見逃がせぬ。負けはしたが日本選手はくさることはない。りっぱな負け方からは何かが生まれる。オリンピックまでにまだ1年余。水の怪童よ、生まれよ。」

個々のレース経過はさておき、この大会で印象に残った点は次の事柄である。

1. 米国選手は本国の選手権大会の時の記録よりほとんど全部がよい記録を出しているのに反し、日本選手は自己のベストを出した者が僅かであった。

2. 第1日、第2日にショランダー、サーリに敗れて、氣力を失ったかに見えた山中が最終日の800に見違えるような快調でとばし9:04.4という新記録を出し

た。大差のついた最終日に全力で泳いだこのファイトを高く評価したい。

3. 高飛込で金戸がアンドリーセンを押しえて勝った。これは日米対抗史上はじめてのことであった。

4. 総じて日本チームは自由形が劣勢で特に短距離に於いて著しい。400リレーで6秒7の差は何としても大きすぎる。

5. 日本選手の中で優勝したのは石川、松本、福島等比較的若い人達であった。このことは水泳選手は矢張り若い方がよいということの証左とみてよいだろう、それにしても石川の他に2~3名の高校生を代表にしてみたかっと思う。

6. 今迄の大会によくあった泳法違反等による失格問題が今度はなかった。これは本当に氣持のよいことである。

7. 日本選手も最近ではターンがうまくなったが、米国選手にはまだ及ばない。過去のオリンピック毎に「ターンを練習しなくては」と言い乍ら既に十年以上になるが、良いと思ったことでも身につけるのは容易なことではない。

8. バタフライのロビーは2:08.2の世界新を出したが個人メドレーでも4:52.8というトップクラスのタイムで泳ぎ、800自では9:10.4という、これ又日本では山中以外に出したことの無いタイムを出した。誠にタフな万能選手振りであった。

9. 米国の長距離選手は日本に来たのがキッカで強くなる人が多い。戦後でもコンノ、グリーン、ソマーズ皆然りである。サーリも御多分にもれない。角界に「横綱の胸を借りる」ということばがあるが、コンノ、グリーンは古橋選手の胸を、ソマーズ、サーリは山中選手の胸を借りて強くなったのであろうか。それなら我々も今度はサーリやショランダーの胸を借りて強くなればよい。

10. 今度来た米選手の過半数は西部カリフォルニア州の出身でエイジ・グループ組織によって育てられた選手だという。この組織が選手育成に素晴らしい効果を發揮していることは今度の成績をみてもはっきりしているが、米国がこの方法を採用したのが昭和31年のメルボルン・オリンピックで惨敗した直後だというから、7~8年たっている。日本では中学生の全国大会が開催されるようになってからまだ3年で徐々に効果がみえつつあるが、もう少し時間をかけないと本格的な層の厚さはできないと思う。

# 日米対抗大阪大会を顧みて

大阪大会競技記録主任 吉田嶺吉

調子の悪かったジャストレムスキーはともかく、世界記録保持者のストック、スティクルスを欠いて、なおか  
ろ軽く日本チームを一蹴し去った米チームの強さには、  
ただただ驚嘆の他はない。従前から弱かった平泳にも持  
駒を充実させて、マッギー不出場の200背を除いて、得  
点の上で日本チームに負越したレースが1本もなくて  
は、正に完勝という他はなかるうか。しかし日本チーム  
とても、現在アメリカ以外のどのチームと対戦しても勝  
てる実力はあるのだが……。

さてこの試合での最大の収穫は何といっても200自の  
ショランダーと400メドレーリレーのアメリカチームの  
リストに残る世界記録であろう。200のレースは前半飛  
出したマクドノーを120でつかまえ、後半軽く水をあげ  
て見事1:58.4の世界最高記録で優勝。岡部、岩崎とも自  
色のベストで応戦したとはいえ、マクドノー、タウンゼ  
ンドとのアメリカ中距離トリオには一寸手をつけられな  
い強さだった。

メドレーリレーは東京で世界記録を逸しただけにアメ  
リカチームも期するところがあったのであろう。お蔭で  
引張られた日本チームも日本最高記録をマークできた。  
一体にリレーというものは4人の調子の揃うのがなかな  
むつかしいもので、引継ぎの有利さはあっても合計タイ  
ムが出来はよいとしなければならぬものであるが両チ  
ームとも合計タイムを2、3秒も上廻って第1日の最後を  
飾った。

ついでの収穫は東京大会での世界対記録を再びマーク  
した100背のマッギーを挙げねばなるまい。米国記録を  
0.8も破って、ニコラオに次ぐ史上2位の記録を出した  
100バタのリチャードソン、松本を軽く押さえて国際新  
をマークした100平のクレイグの活躍も見逃がせない。  
日本側では日本記録を大巾に破った100自の岡部、中島  
の日本最高と対記録をマークした大林の健闘もたたえら  
れてよい。

レースとして面白かったのは1,500自で、東京大会で  
800に日本記録を樹立した山中が、200の種目を捨てて、  
緊禪一番最初から飛び出した。しかし200を過ぎてサー  
リにリードを奪われ、途中までは何とか喰い下ったが、  
800を過ぎて力尽き、目に見えて遅れてしまった。それ  
に引かえ1,000より佐々木がシリシリとサーリに詰めよ  
り、日本記録にあと一息の17:27.6(本年度世界3位)  
をマークする殊勲をたてた。1,500で2秒6といえ、  
ほんの紙一重というところ、400に強くなるのが、1,500  
の日本記録を破る最も近道ではないだろうか、400に依

然4分20秒を切った山中も現状としてはよく頑張ったと  
いえよう。

さてここ数年来、東京から大阪へと国際大会を開催し  
続けてきたが、昭和30年以來の3回の日米対抗の記録を  
詳細に比較してみるとつぎのような結果が出た。

1,500自：東京大会より進歩した選手4は、退歩した  
選手12。1500自、及び400個メを除く個人種目：進歩し  
た選手71、退歩した選手38、同タイム1。

偶然とはいきれぬほどはっきり結果が出ているよう  
で、長距離はともかく短距離は大阪の方が歴然と好記録  
が出るようだ。水温がどう影響するかは、大阪プールの  
水温を上げられないので何ともいえないが、とにかく  
“記録をねらうなら大阪で”ということになりそうであ  
る。

平泳の石川が日本高校と日程が重なったため出場でき  
なかったが、一方では高校の新人を期待しながら、  
日程において主要ゲームをダブらせるのは何か割り切れ  
ぬものを感じる。思い切ってブロック高校を6月下旬  
に、日本高校を7月20日前後にすませても如何？

ところで今回の日米対抗を終えて、完敗した日本チ  
ームに曙光は見出せないであろうか？ 筆者は日本水泳界  
の将来を占う一つの方法として、日本高校の400自の成  
績をひもといてみた。昭和36年の結果は4:47.7で7位  
で、当時“これは中距離界に革命が訪れるのではない  
か”と喜んでいたが、果せるかなその際の5、6位の福  
井、藤本が翌年には2人とも200に2分6秒台に突入、  
山中とともに800リレーの世界記録を豪州より奪還す  
るに至った。しかしそれ以後の日本高校の400の決勝の平  
均は退歩気味だったため800リレーの主権はアメリカに  
奪いとられてしまったが、この平均は嬉しいことに昨年  
今年と急激に上昇し始めている。それも近き将来爆発  
的な結果を予測させるような上昇ぶりといえる。藤島、  
多田、中野、浜口、岩本、米井、高瀬に中学生の桑原を  
加えて、年令が若いだけに結果があらわれるまでには時  
間がかかるかも知れないが、見方によってはまた飛躍の  
振幅も大きいといえよう。上記に挙げた選手はいずれも  
200m2分の線に殺到する実力を十分備えているとい  
ってよい。各人の自覚ある精進を期待し、800リレーの世  
界記録奪還の日の一日も早からんことを最後に祈りた  
い。リレーを制することは、とりもなおさずアメリカを  
制する道につながるのだから。

# 日米交歓水泳岡山大会を終えて

岡山県水泳連盟会長 小寺三郎

水泳競技については、岡山県は後進県の名前に甘んじねばなりません。古くからの神伝流を受けついで、水泳人口は他県に比してき程遜色ありとは思いますが、プールの設備その他の立ち遅れのため、優秀な選手の出現も尠なく、競泳界に確かりした伝統がありません。昨年国体の主催県となって初めて、選手の強化に意を用い、大いに頑張った結果が、従来に比して稍々良好な成績を克ち得ると同時に、木原、山影というオリンピック候補選手が出て来て、水泳競技に関する一般の認識が高まって来たという状況であります。

一昨年全勤の時、初めて夜間競技を行ない、三木知事がナイターに感激して、県営プールに照明設備を付けてやるから、何か大きな夜間競技会を引っぱって来いといわれたのが、そもそも今回の日米岡山大会の口火でありました。当時の県水連会長西村先生も、知事の理解ある激励に勇み立って、是非日米対抗を岡山へ持って来ていただき度いと日水連の方に御願ひしておられたのでありますが、御在任中には遂にその機を得ず、本年当初、私が西村先生の後を継ぐ事になった後初めて、岡山へ誘致の気運となったのであります。

正直に申しまして、前会長御在任中は、私は副会長の名前はいただいておりましたが、万事を西村先生にお任せして、県連盟の仕事をズルけていましたので、代が替った途端に大仕事がまわって来て、些か面喰らった形でありました。この決定を見ますまでに、高石会長始め日水連幹部の方々や、中国ブロックの方々、さては在京岡山県代議員の方々から、並々ならぬ御庇護や御支援をいただいた訳であります。年来の宿願が叶って嬉しいには嬉しいが、無能な私にとっては色々問題が多く、どうなる事かと心配が先に立って来ました。

先づ第一はプール照明の問題であります。恥かし乍ら岡山県には何所にも完全な夜間照明設備のあるプールはありません。国際競技という事になれば、200ルクスの照度を出す設備が必要であり、県当局に知事さんの御約束を盾にその設備方をお願い致しましたが、見積って見ますと3~400万はかかるということで、国体実施直後の窮屈な県財政では、往年の知事口約もお流れとなるの止むなき次第です。どうしたものかと思案にくれているうちに日水連の方から、ローマオリンピックの際用いられた、オーバーヘッド方式の照明というお知恵を借していただきました。ローマの水泳会場の写真一枚を頼りに、東芝本社の技術部の方に種々御研究をいただき、これならば何とか120~130万位で所要の照度が出る照明が

出来るだろうという見当が立ち、初めて何とかやりとほせられるという確信が出来たのであります。併し乍ら、それ迄に時日は容赦なく流れ、工事を8月28日という期日に間に合わせるのに必死でした。

何分国際競技は初めての事であり、宿泊の準備、記念品やトロフィーの選択や準備等々、馴れぬ者等の寄り合いでは円滑に参りません。前売券の印刷、発売、ポスターの掲示、プログラムの印刷等、雑務には追われます。東京大会、名古屋大会が済んでも、前売券は余りはかばかしく売れません。どれ丈けの観衆に来ていただけるか見当も立ちません。時間は容赦なく経過しますし、身も世もあらぬ不安の時期でした。

ところが大阪大会が終わった頃から、前売券はドンドン売れ初めました。台風もどうやら大陸へ抜けるらしいという。やれやれと胸を撫で下しているうちに愈々当日となり、朝から大雨です。困ったなと思ううち正午前には幸い雨が上り、午後4時半の開場時刻前から、入場者が列を作っているという報告です。競技開始時間になると満場立錐の余地なく、昨年国体入場式の時以来の大入り満員。万々才です。

競技もまざまざ円滑に進行する。連戦の奮闘で疲労甚だしい選手諸君も、熱戦を続けられて国際記録も出る。という訳で、あらゆる心配が完全に吹き飛んで、誠に有難い結果となりました。初めて眼のあたりに見る国際強豪選手の泳ぎに感歎する一般観衆も、満足して帰っていただきました。準備万端、心身を労した地元役員も苦勞の甲斐あって無事に大任を果たして、然も水連に思わぬ額の余剰金も出来たと満悦です。遠路御来訪を賜わった選手の方々にも、とりわけ米側選手には大変な御好評をいただき、面目を施しました。当事者として何も申し上げる言葉もなく、唯々感謝あるのみであります。今後この感激の上に立ち、本大会が県民一般に与えた強烈な刺激を利用して、県水泳界の発展、育成に心掛け度いと念願致しています。

終りに今回の照明設備について一言申し添えますが、会計をメめて見ますと、その費用総額は120~130万円の見当であったのが、70万足らずで済みました。その設計の詳細につきましては、御参考までに日水連に御報告申し上げておりますが、経済的、効率的な点では、オーバーヘッド方式の照明は非常な特色を持っているといえまじょう。若干設計計算上のミスがありまして、当初考案した通りには行かなかった点がありましたので、これを補正、改善して県営プールに残して置くつもりであります。

# ヘニング博士がAAU に出した日米対抗の報告書

本報告書はただ単に遠征日誌をまとめただけのものであって、競技内容を批判した所はない。併しこのように帰国後監督としての報告をキチンと上司に出す点は、我々も大いに学びたいものである。(編集)

## 第6回日米対抗水泳競技大会報告書

AAU男子競泳委員長

ハロルド・H・ヘニング博士発

米国水泳チーム(マネジャー、ケネス・トリッドウェイコーチ、ラルフ・ケーシー以下選手17名)は東京、名古屋、大阪、岡山に於ける競技会で日本水泳チームと対戦のため8月9日より3日間イリノイ州オークパークで行なわれた全米屋外水泳選手権大会で選抜され、編成された。8月12日月曜日朝食会の後オークパークを出発シカゴ経由でロスアンゼルスに向った。11時30分ロスアンゼルスに到着、多くの人々の出迎えを受け、宿舎であるラマダインに入った。

ロスアンゼルスでは、予防接種、ヴィザの取付等渡航の準備を行なった。

8月13日火曜日正午ロスアンゼルス大空港を出発、途中ホノルルで友人達の出迎えを受け新鮮なパイナップルや素晴らしい景色の歓迎を受けた後再び東京に向けて飛び立った。8月14日水曜日午後6時30分定刻に東京着、日本水泳連盟メンバーの出迎えを受けた。記者会見は選手の年齢が中心となった。その後バスに乗って銀座を経由し、宿舎である国際文化会館に入った。日本の気候は暑く、温度が高く、又時差の関係で休息を取る事は困難であった。8月15日木曜日選手達は始めて東京都屋内プールを見た。すでに銀座のショーウィンドウに飾られた素晴らしいトロフィーを見ていたので、2日後の競技や観客の事を想像して興奮した雰囲気 flowed。夜日本水泳連盟主催の歓迎パーティが開かれ、日本の味を楽しんだ。8月16日金曜日は競技会の前日で選手の最後の仕上げを行なった。競技会の興奮がすべてを包んだ。

8月17日土曜日に開始された対抗競技会は3日間に亘り後の2日間の競技会は雨の中で行なわれたにもかかわらず多くの世界新記録、米国新記録、日本新記録が作られ63-22のスコアで勝った。

8月20日火曜日選手達は翌21日早朝の列車に乗車のため宿舎を東京ステーションホテルに移した。夜昭和電工社長主催のパーティに出席した。

8月21日水曜日7時東京駅発の列車で名古屋に向い、午後1時着直ちに藤久ホテルに入った。夜選手達は鶴岡見物に出掛けた。

8月22日木曜日夕方より開始される交歓競技会迄休養をとった。名古屋の競技会も雨中で行なわれいくつかの米国記録が更新された。

8月23日金曜日選手は日本第二の都会である大阪に行き宿舎である新大阪ホテルに入った。そしてその日の午後は翌日に始まる対抗第二戦に備えて充分休養をとった。プールは素晴らしかったが蒸暑く水温は高くその上大雨の中で2日間に亘って競技は行なわれた。これらの悪条件にもかかわらず、再び世界記録、米国記録、日本記録が更新され米国チームは再び57-19のスコアで勝った。8月26日月曜日朝奈良、天理の観光に出発、奈良では鹿寄せ、大仏殿等の史跡を見物天理では真柱の夕食会に招かれその後バスで京都に向い比叡山ホテルに宿泊した。

8月27日火曜日、京都市内観光を行ない翌朝名神高速道路を通って大阪駅から岡山に向け出発した。岡山では休息の後夕刻より交歓競技会が行なわれたが選手は疲労していたので見るべき記録はなかった。

8月29日木曜日岡山から飛行機で東京に戻り、高輪プリンスホテルに宿泊、買物、見物等で残りの時間を過ごした。8月31日夜東京を出発時差のために前日にホノルル着、交歓競技会に出場又すばらしい海岸で休養した。

チームはホノルルで解散し、それぞれ自宅に戻った。

チームが作った9つの世界新記録と1つのタイ記録は米国と日本の記録のほとんどを書き改めた。

この旅行及び競技会は選手に貴重な経験、教育と文化の機会を与えた。

(外国関係委員・谷内洋一郎訳)

# “ユニバーシアード水球遠征の記”

日本チームコーチ兼審判員 村瀬友三郎

ニューヨーク空港にて志村、青山両氏に見送られて、それより南下する事、約15時間、大会開催の地、ブラジルのポータアレグレ市に着く。

ここはブラジル南端の工業都市、人口約60万人、日系人は200家族ぐらいと聞く。

日本総領事をはじめ多数の日系人の出迎えを受け、バスで約20分選手村に入った。建物は新築の市営住宅であった。

到着して先づおどろいた事は気温の低い事であった。南米と言えば暑いものと思っていたのに気温約10度。

早速プールの状態を見に近藤監督と出かけた。水球プールはまだ水が入ってなく、競泳のプールに行く。

水温15° それでも競泳チームは室内プールで練習をした。ダイビングプールに到っては未だプールの壁をぬっている有様であり、この辺りから大会の運営等を御想像願いたい。

翌22日より、練習プールに割当てられたレオポルドジーナテニスクラブに行く。

この様なクラブは市内に数カ所あり、非常に立派なものである。選手村の近くの一般市民の生活と比べるとまったく対照的であり、この国の貧富の差のはげしさを感ぜさせられた。

このプールは水温15°、日頃よりつめたい水に慣れない日本チームにとっては非常に悪い状態であった。

その日は練習も早々に切り上げ、ハンガリー対南アフリカの練習ゲームを見学する。ゲームはハンガリーの一方的攻撃に終りスコアは問題とならなかった。

私が昨年渡欧した際、顔見知りになっていたハンガリーナショナルチームのコーチ、リッキー氏、レエフェリーのブランデー氏等も来ていたので、翌日より練習ゲームを行なう事にした。

翌日から開会迄ハンガリーと5回練習ゲームを行なった。はじめはハンガリーチームの圧倒的攻撃に手も足も出ないゲームであったが、3日目ぐらいから6分4分ぐらいに戦える様になった。

同時期にヨーロッパに遠征しているチームが善戦した事を彼等より聞き、我々も大いに奮起させられた。

この辺で選手村の生活に目を向けて見る。

選手村は先にも書いたが、3階建の市営住宅四棟が当てられ、その一棟が女子用となっていた。

食事は村からバスで近くの兵営の中へ出かけて行く。食事の内容は仲々よかった様であった。

村での通訳には女子大生等が配置されていた。我々には日系の人があれこれと世話をしてくれ、又美人の現地婦人警官にも大変世話になった。大体このポータアレグレはブラジルでは有名な美人の産地であり、本年のミス・ユニバースもこの出身との事であった。

村の通訳も美人ぞろいであり、水泳選手団の中にもなかなかもてた人もあった様であった。

さて試合は1日より開始され日本チームの組合せは、

第1試合 対ソ連

第2試合 対ブラジル

第3試合 対ハンガリー

第4試合 対南アフリカ

私はブラジル対ソ連、南アフリカ対ソ連の審判をする事となった。

試合の結果については近藤監督よりくわしく報告があるので私なりの各チームの特長及日本チームのあり方について述べて見る。

優勝したハンガリーチームは全員ナショナルチームであり、世界第一の実力をみせてくれた。特に東京国際スポーツ大会にも来日する五選手はずばぬけたテクニックと体力を持っていた。ハンガリーチームの作戦はすでにライキ氏によりコーチされたり、日本より視察に行き、大体の事は報告されているが、やはり有名なカルパチヤドメターの個人技がチームを引っぱっていた感じであった。練習ゲームや対日本戦でもその片鱗を見せていたが、対ソ戦に示した上記二名の活躍よりは目を見はらせるものがあつた。又若手のホープ、ファルユイのプレーぶりも明日のハンガリーチームの中心選手となるにちがいないと思う。

ソ連はナショナルチームのメンバーが二名しかふくまれていないので、大したチームとも思われなかったが、非常に力強いプレーに終始していた。

しかしフルバックとゴールキーパーはナショナルチームメンバーであり、優れたプレーヤーであった。

ソ連コーチに日本チームの印象を聞いてみると

「日本チームはおとなしすぎる。我々はヨーロッパでやる時も、いつも同じ事をやっている。ユーゴスラビヤや東ドイツも然り」という事であった。

ソ連と戦ったチームは二、三人は打撲傷を負う程、あらいプレーであった。

又面白い事はソ連チームの編成は、

1. ゴールキーパー 1. ストッパー 4. スウイミング  
1. シューターと言っていた。即ちフルバック1人 センターホワード1人の他は中盤で泳ぐプレーヤーとして、FW, BWの区別をしない様であった。

ブラジルは守備に徹したチームであった。日本と戦った時も、ほとんどが日本の攻撃であったが、残念ながら反則で退水をとられ1点差で涙をのんだ。

しかしその守備ぶりはゴールキーパーを中心として、甘い様に見えるが、要点ではびしっとしめた、あざやかなコンビをとっていた。ハンガリーとの一戦もよく5点と抑えたあたりを見ても、わかると思う。

又ブラジルは元ハンガリーのナショナルチームプレーヤーのザボーが亡命して、国籍を得たとの事、彼も東京オリンピックには出たいと言っていた。彼はかつてハンガリーにおいても“大砲”とあだ名されていただけに、いまだにもものすごいスピードのシュートを持っている。又イタリアでチャンピオンチームにいたプレーヤーが国籍をうつしたとも聞いたので、この二人を加えるとかなりのチームになる様に思った。ちなみにブラジルチームはパン、アメリカン大会でアメリカに勝っている。

南アフリカはイギリス流のあまり泳がないチームであった。又かなり粗暴なプレーもあり、日本チームも青山

が鼓膜をやぶり、皐月が前歯二本をおるといった調子であった。しかし全体的には泳ぎの弱いチームであり、後半には我がチームもかなり泳いでかきまわす事が出来た。最後に我々の今後について述べる。

この大会を通じて一番感じた事はスタミナの不足という事であった。特にハンガリーやソ連チームに対する時はほとんど後半スタミナの不足から引きはなされた。

しかし来年のオリンピックに来るヨーロッパの各国はほとんど同程度のスタミナを有するものと思われるので、我々の今後の練習の課題は、先づ泳耐力を中心にするべきであると思った。次にルールに対するインテリジェンスを養うことであった。つまらない反則によりしばしば退水させられる事が多かった。対ブラジル戦での失敗も、レフェリーを云々するより、いかなるレフェリーにも大事な時に反則の口実を与えないようなプレーを身につけねばならないことである。勿論オリンピックに笛を吹く様なレフェリーはかなり上手な人達であるが、各国によってかなりルールの解釈が違うし又、上手な人程個性がつよい笛である。この様な人に対してここ一番の大切な時に反則をする事は即退水と覚悟せねばならない。

最後に今日迄の我々のとってきた強化の方針は間違っていなかったと確信を以て言える。もう少しコンディションがよければ、第3ピリオド位迄は対等に戦えたと思う。今後泳耐力を養う事に努力するならば、今日迄つちかったテクニックを十分に発揮できるはずである。

○F. I. N. A. の総会に出席した根上理事長の話によると東京オリンピック水上競技の主任役員は次のような顔ぶれになる模様である。

競泳審判	R. デラーベ	(フランス)
	J. デブリー	(ベルギー)
	B. ザルホー	(スウェーデン)
	W. B. フィリップス	(オーストラリア)
競泳計時	A. ランバラ	(ユーゴ)
競泳着順	H. ゲッツ	(南アフリカ)
水球	B. ライキ	(ハンガリー)
飛込	L. バットパン	(ベルギー)
或いは	G. マットビーフ	(イギリス)

○メドレーリレー以外のリレーは自由形4人という

のが我々の常識であったが今後は必ずしもそうでないことになった。9月16日宇部国体の一般男子200米リレー予選で福岡チームのアンカー中島功君は堂々とバタフライで泳いで見ている人をアッといわせた。もっとも同君のバタなら大ていの人フリーより強いことは分っていたが、まざまざと目の前でみせられると、これからはバタも自由形なみということになるかも知れない。100バタの世界記録が57秒だということに気がつけば当然のことなのだが。

むかし、前畑秀子さんが全盛時代に梶山女学園のリレーでフリーにまじって前畑さんが平泳で泳いでいたのを御記憶の方もあると思うが、バタフライがこのように進歩してくるとオリンピックでも宇部国体のようなことがないとも限らない。

# 電子式自動審判装置について

## Full Automatic Electronic Judging Device

機械審判委員 伊 丹 康 夫

### 1. はしがき

日本水泳連盟では東京オリンピック大会に使用することを目標に、数年前より自動審判機の製作に関して、種々研究を続けてきた。自動審判機の研究における一番の問題点は、泳者のタッチをいかにして電氣的に検出するかであって、研究対象として扱われたものに次のものがあった。

- a. 光または光電流を使用するもの
- b. タッチの際の音響を壁に埋め込んだ微小マイク（ハイドロフォン）で検出するもの
- c. 工業用テレビを使用するもの
- b. ゴム管を使用して空気圧の変化によって電氣的開閉を行なうもの
- e. タッチ板に接点を埋め込み、電氣的開閉を行なうもの

これらの各方式について、それぞれ各基礎的な試験が行なわれ比較研究が行なわれた結果、昭和37年大阪で開催された日本選手権大会において、はじめて松下通信工業の試作になる接点を埋め込んだタッチ板の実用試験を行なった。

一方昨年のローザンヌにおけるFINAの理事会においては東京オリンピック大会の際には、自動審判機を使用することが決められ、日本水連としても、松下通信工業の協力により十分確信の持てる機械の完成へ逐次研究を進め、先般の東京国際スポーツ大会には、まだ実験の段階であるとはいえ、正式に採用され審判と計時を担当し、かなりの成果をあげることができた。

御承知のように、水泳競技の着順の判定は、特に白熱化してタッチを競うレースにいたっては、プールサイドに位置した審判員の肉眼による判定は困難となり、またストップウォッチによる計時は $\pm 1/10 \sim 2/10$ 秒の誤差を生じ、また昨年まで競技会において使用されていたデカトロンタイマーでも、泳者のタッチを肉眼で見てスイッチを押す以上は約 $\pm 1/10$ 秒の誤差が起り得るので、タイマーの精度を秒単位にしても計時された秒以下の読みの信実性は得られないことになる。

### 2. 電子式自動審判装置の概要

この装置は、競泳のさい、各コースの泳者の所要時間および着順を電子工学的計数手段を用いて全自動的に測定する装置で、その主要構成は、スタート信号部、タッチ検出部、計時部および記録部からなっている。

測定はスタートのピストル音によって開始される。スターターの手首にとりつけられた腕時計状マイクロホンは、ピストル音をキャッチし、これを電気信号に変換し、計数開始の信号として計数部へ送られる。計数部は水晶制御の標準時間信号発生部より正確な1/100秒毎の計時信号を受け、計数により時間を測定する。泳者がタッチするとタッチ検出部（タッチ板）の出力信号が各コース表示部のゲートを閉じ、第1回のラップ回数が表示されます。約10秒後、ゲートが再び開き、前の動作にもどり時刻を数字表示管により図-1のように表示し、次のラップに備える。またゲートの開閉期間内に記録部はタイプライターにより、数字表示管の表示方法と同様、コース番号、着順、時間、ラップの回数を記録用紙に印字する。

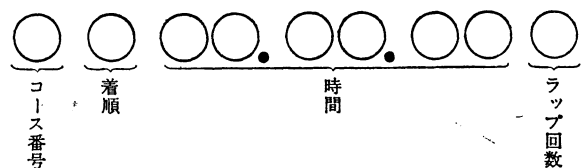


図-1 数字表示管の説明

タッチ検出部は水圧、水のスプラッシュの影響をまったく受けず、泳者のタッチのみで作動するようになっている。

着順の判定は計数部において行なわれ、その分解能力は1/1,000秒であるので、同タイムでも同着ということはないと思われる。写真-1はプールサイドに備えつけた機械セットで右が計数部デスクで左が記録用のタイプライターである。写真-2は記録用タイプライターの正面で、タイプされた記録用紙が自動的に送り出されている。

写真-3は都営室内プールのゴールの壁に取付けられた



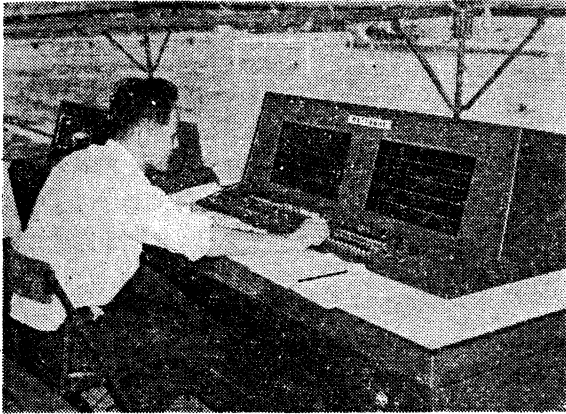


写真 1.



写真 2.

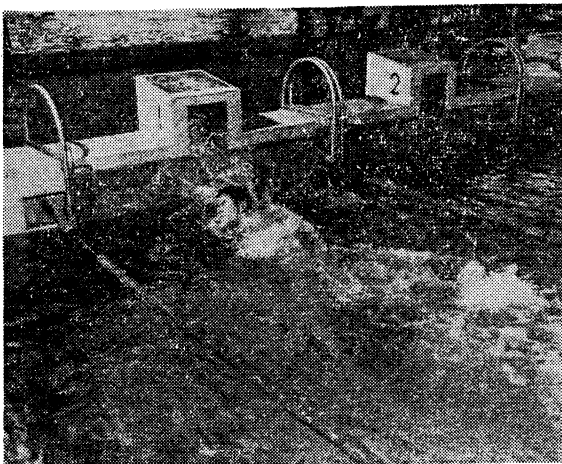


写真 3.

タッチ板であり、いま泳者の1人がゴールした瞬間である。ワシントンハイツに建設されるオリンピックプールにはタッチ板が壁に埋込まれて造られるので、取付枠もこの写真のように外に飛び出すことはない。

タッチ板の外形寸法は有効面において幅 1,750mm、高さ 600mm のものが東京国際スポーツ大会において使

用されたが、オリンピックの際は、コースの幅が広がるので、それに応じて有効幅も広がる。泳者のタッチは水面上のこともあるので、背泳を除く競技種目においては、有効高さ 600mm のうち 300mm が水面上に、300mm が水面下になるように取付けられ、背泳においては 400mm が水面上に、200mm が水面下になるように取付けられる。

なお計数部オペレーターを審判長あるいはスターターとの連絡のために、デスクに報知ランプ 3 コが付せられ赤は点検中、青は準備完了、黄は測定中を示す。

### 3. 東京国際スポーツ大会における実用試験の結果

タッチ板の感度は  $300 \sim 530 \text{ g/cm}^2$  にて使用され、検出不能のものは、

- a. 操作ミスによるもの
- b. 選手の弱いタッチによる検出不能

を除き、装置は完全に作動した。また停電時のために、予備電源として電池を装備してあったが、停電はなかった。

#### (1) 操作ミス

操作ミスは 2 件、第 1 日目に発生したがいずれもオペレーターの不馴れのためで、操作手順のルール化と操作状態の確認励行およびオペレーターの訓練により完全に防止することが可能で 2 日目以後は皆無とすることができた。

#### (2) タッチ検出不能の統計とその考察

検出不能はラップ回数を含め 913 回のうち 15 件 (1.64%) であった。検出不能の傾向としては、15 件のうち 6 件は同一人が各 2 件ずつ起した 3 人が占めており、習慣からくるタッチの弱さが起因することも推定される。

種目別ではバタフライが最も多く 76 回中 7 回、9.2% で、次が平泳の 82 回中 5 回、バックが 52 回中 1 回、自由型と混泳は皆無であった。

男女別にみると、全レースについて男子は 0.93% であるのに、女子は 7.94% で女子が男子に比して遙かに大きく、種目では男女とも同じ傾向であった。

上記の結果より、タッチ板の検出不能を皆無までもっていく方策としては、

- a. タッチ板の感度をあげること
- b. 泳者に対しタッチの指導、普及を行なうこと

であるが、以上の a については、水のスプラッシュに感じて、誤動作の危険が増大するので b の方法の徹底により皆無に近づける方策が必要と考える。

#### (3) 本装置の優秀性が実証された例

男子 200m 背泳予選 A 組の記録は下記のようにタイプ

された。

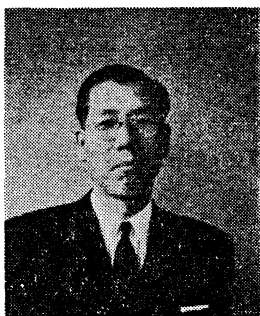
L 4	5	02	22	25	200M
L 7	3	02	21	86	200M
L 6	4	02	21	86	200M
L 5	2	02	21	11	200M
L 3	1	02	17	77	200M

上記の記録より3着(7コース)と4着(6コース)は時間で1/100秒まで同タイムであったが、着順は1/1000

秒の判別能力があったため着順が決定された。

#### (4) ビデオテレビによるタッチの確認

検出不能の際の泳者がどんなタッチをしたか、ビデオテレビにより再現してみたところ、検出不能の泳者のタッチはいづれも、指先でストレートにタッチ板を押すようなタッチはしておらないことは、泳法動作により判明できたが、手または指先がタッチした瞬間を確認することは不可能であった。



(清川氏の近影)

## 清川正二氏に紫綬褒賞

今回本連盟の常務理事であり国際水連の競泳委員長である清川正二氏が多年水泳界につくされた功績により紫綬褒賞を授与された。水泳界としては、高石氏、鶴田氏について3人目の喜びである。11月22日に山の上ホテルで関係者が集まって祝賀会を開いたが名誉会長の田畑さんが本当に嬉しそうに次のような挨拶をした。

「ロサンゼルス大会の時の日本チームの一番の弱点であるバックが予想を裏切って1, 2, 3着をしめ日の丸3本を揚げたときは涙が出る程うれしかった。こんなことは空前で、おそらく絶後であろうが、このかなめとなったのがこの清川君である。」

又ロサンゼルス大会の日本チームの監督であった松沢さんも「清川君はチームのまとめ役としても非常によくやってくれたことを今迄でも感謝している」と当時を回想しながら挨拶した。

これに対し当の清川氏は「田畑さんが清川の優勝はブロックだというのが、次のベルリン大会で優勝すればロスの優勝がブロックでないことが分ってもらえると思ひ頑張った。当時の私のライバルは米国のキーファーで、彼は1分7秒位の実力だったと思うが、私が大会前の記録会で6秒台を出したので、これで優勝できると思ひ安心してた所本番では調子が出ず3着になってしまった。従って田畑さんのブロック説を打消すことも出来ず今でも残念におもっている。それについても本番にトップ・コンディションをもって行くことの如何に六ヶしいかを身を以て体験した」と誠に貴

重な経験を披露して一同に感銘を与えた。

なお清川氏は現在兼松KK名古屋支店長である。

主な水泳経歴は次の通り

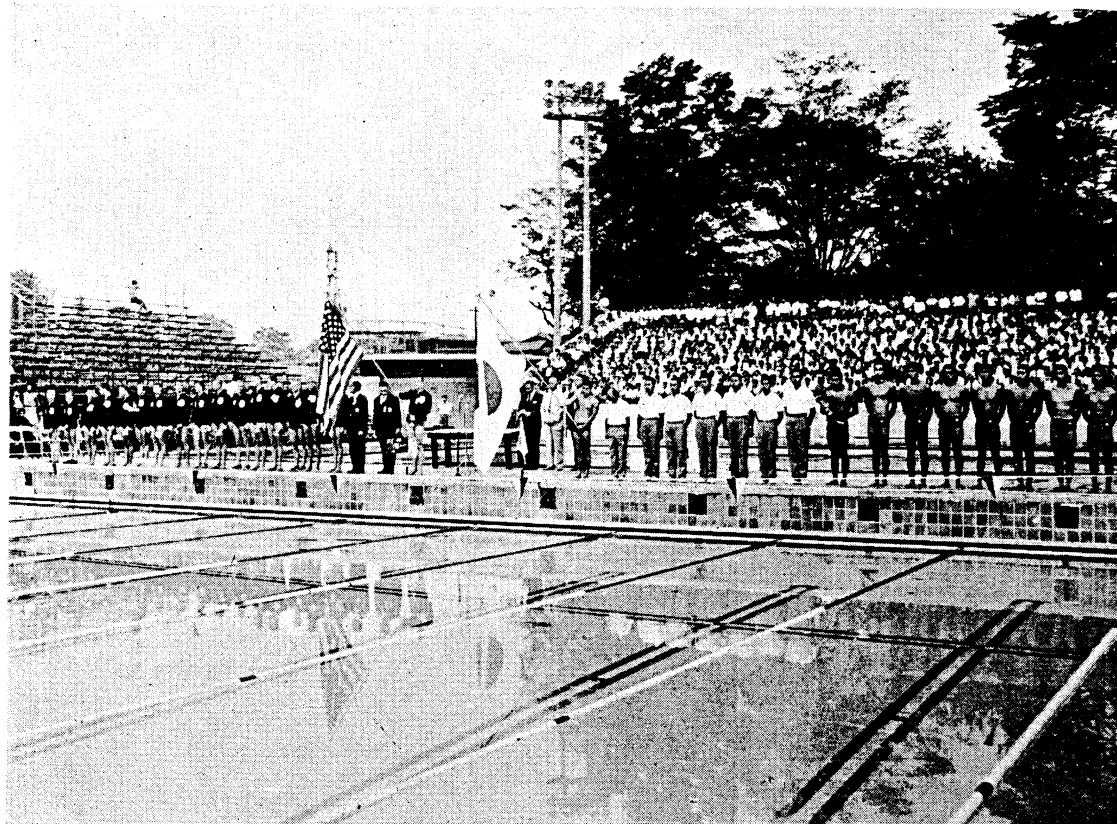
- 昭和5年 名古屋高商(現名古屋大学)時代50背100背の10傑に夫々33.8 1:14.4でともに6位となる。
- 昭和6年 第1回日米対抗の日本代表選手となり100背で3位, 200背で2位となる。
- 昭和7年 ロサンゼルス・オリンピック大会の100背で優勝。
- 昭和11年 ベルリン・オリンピック大会の100背で3位。
- 昭和26年 第3回日米対抗 日本チーム監督。
- 昭和27年 ヘルシンキ・オリンピック大会 日本チームのコーチ。

現在は日本水泳連盟常務理事, 強化本部長。



山の上ホテルの祝賀会

# 日米対抗東京大会



開会式両チームの入場



日米両チーム主将握手

日本チーム 山中選手 (右)  
米チーム クラーク選手 (左)

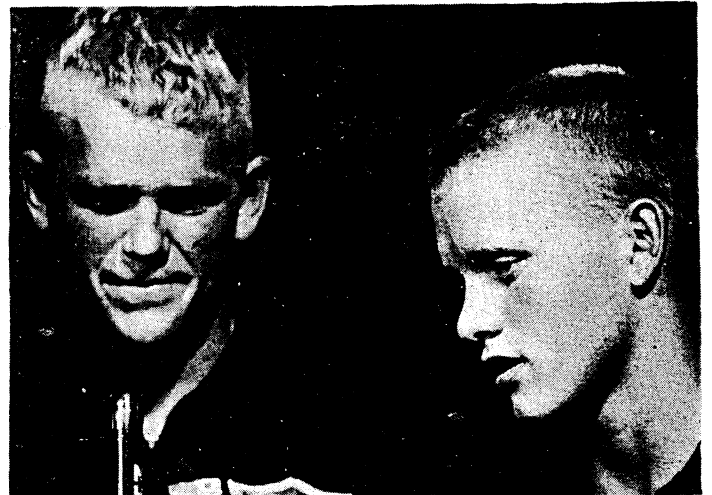
(日米対抗東京大会 2)



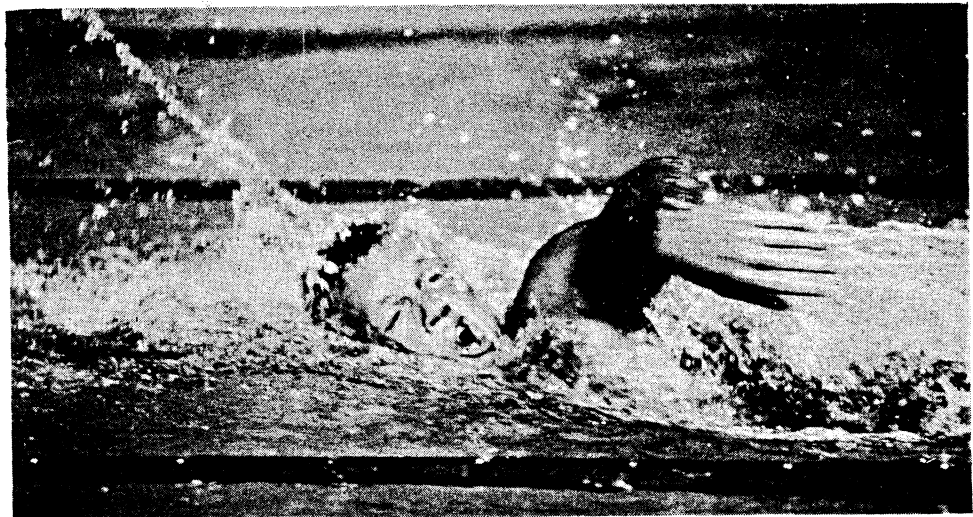
200m自由形のレースを前にして  
5コース 山中, 6コース ショランダー,  
7コース 福井の各選手。



カメラに包囲されたショランダー選手。



世界新記録二人男 (左サーリ選手, 右ショランダー選手)



力泳中のサーリ選手。



1500m 自由形（第1日）に17:05.5の驚異的な世界新記録を出し報道陣に取り囲まれるサーリ選手。

飛板飛込に優勝したアンドリーセン選手。杯を贈るのは西本竜三氏。

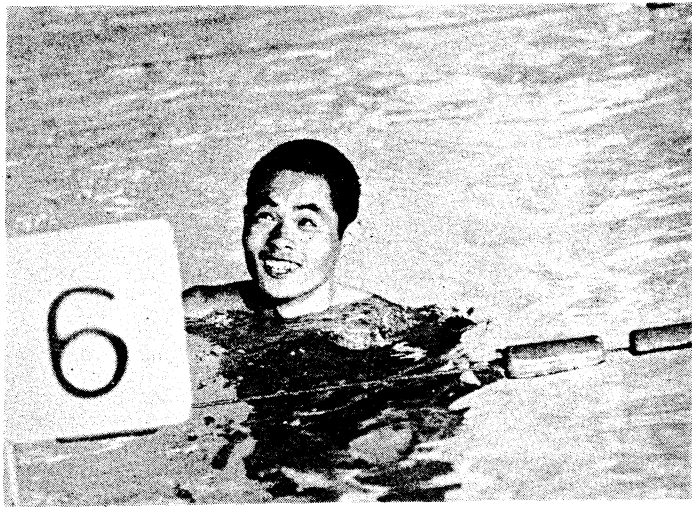


飛込のアンドリーセン選手。



高飛込に優勝した金戸選手。

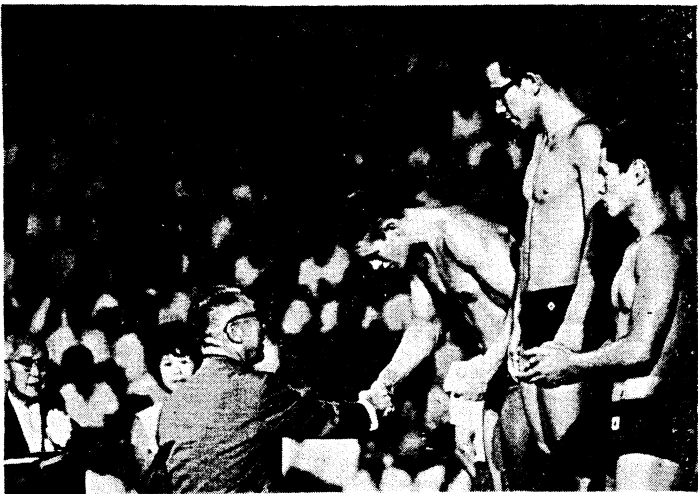
(日米対抗東京大会4)



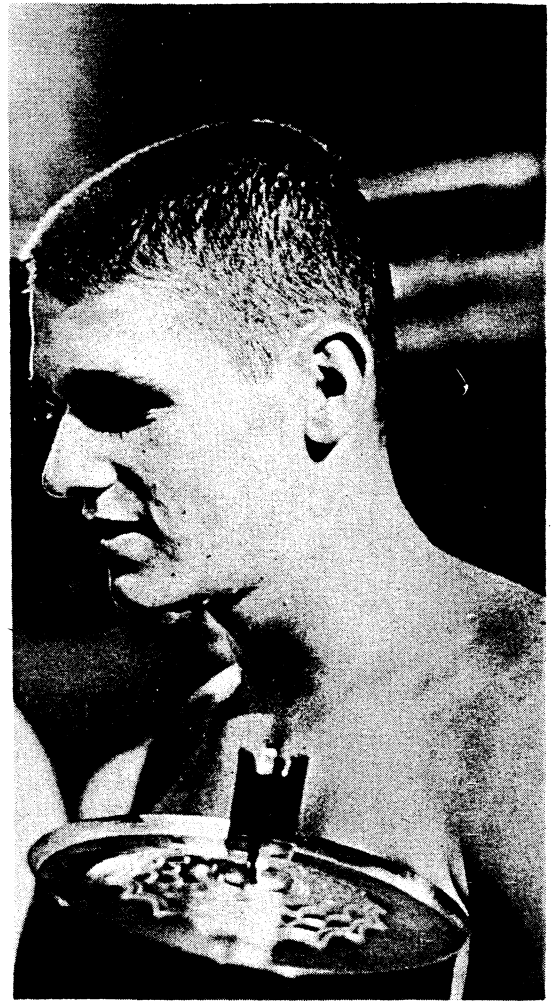
100m平泳に優勝した石川健二選手。



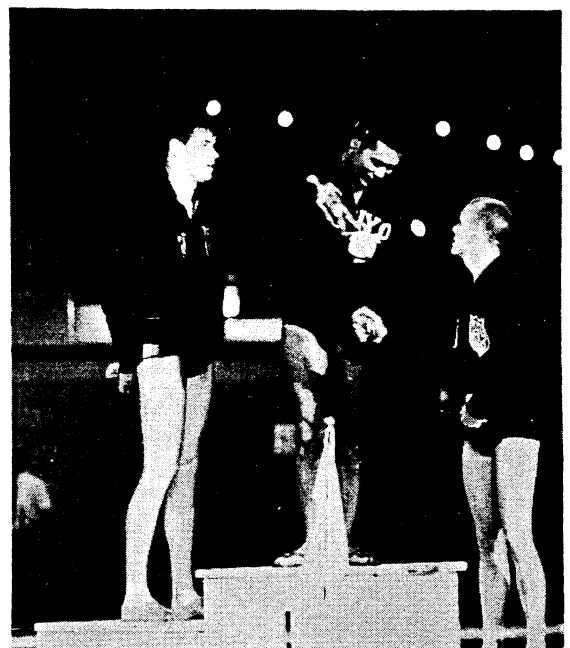
背泳のマツギー選手（左）と福島選手（右）。



200m 平泳入賞者  
右より石川（3着）、松本（1着）、クレグ（2着）、の  
3選手。握手するのは田畑名誉会長。



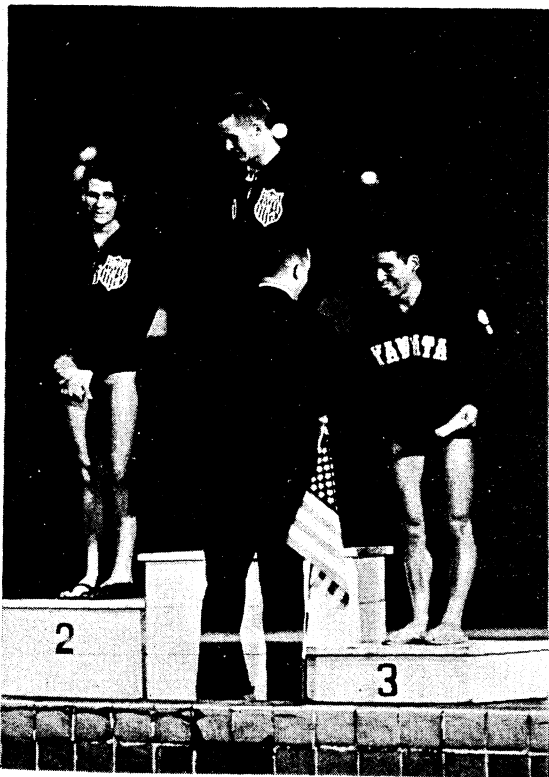
200m バタフライで2:08.2の世界新記録を  
出したロビー選手。



800m自由形入賞者  
右よりゴツグヒル（3着）、山中（1着）、  
ファーレー（2着）の3選手。

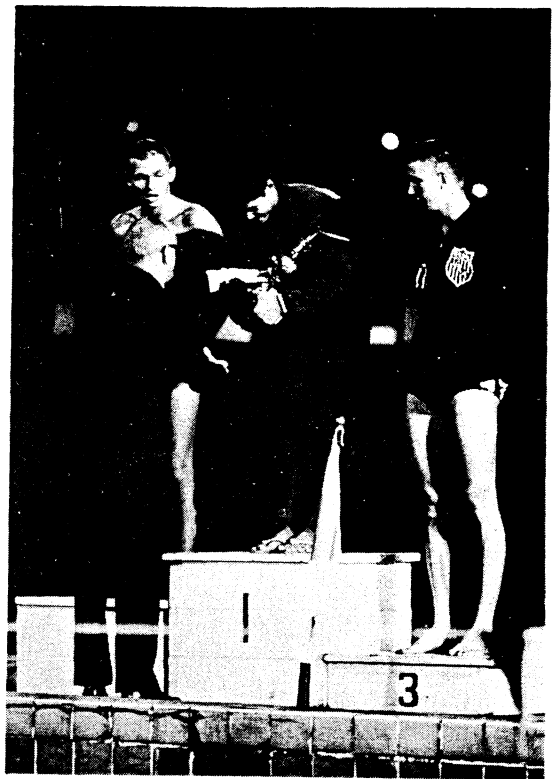
100m 自由形入賞者

右よりクラーク (着2),  
マツクドノー (1着),  
イルマン (3着), の3選手  
優勝杯を贈るのは日比野東京都  
副知事。



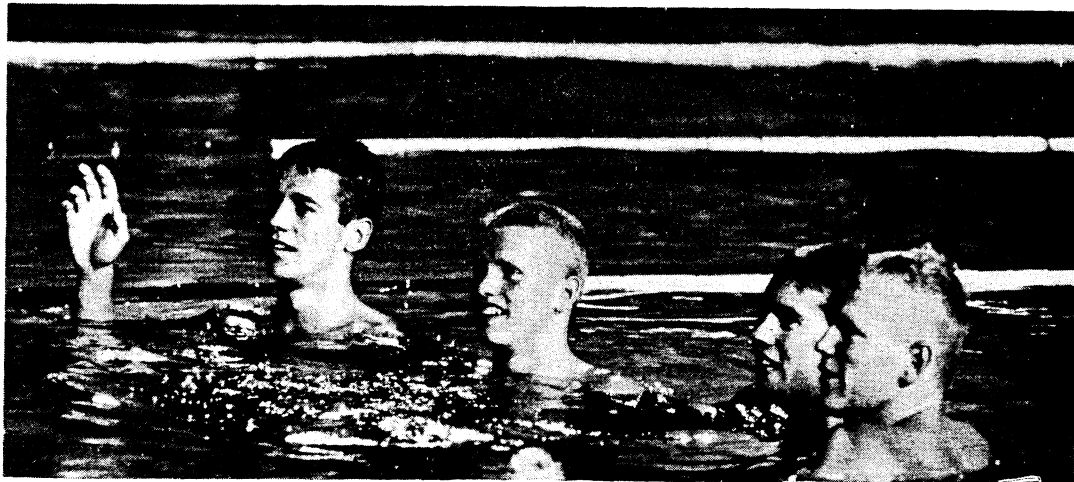
100m バタフライ入賞者

右より佐藤 (3着), リチャードソン (1着),  
ロビー (2着) の3選手。



200m 背泳入賞者

右よりマツギー (3着), 福島 (1着), パーチ (2着)  
の3選手。杯を贈るのは米国代理大使エマソン氏。

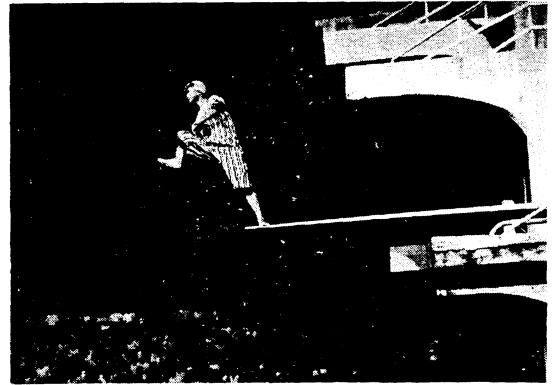


米チーム (左よりマツクドノー, ショランダー, タウンゼント, サーリ)。

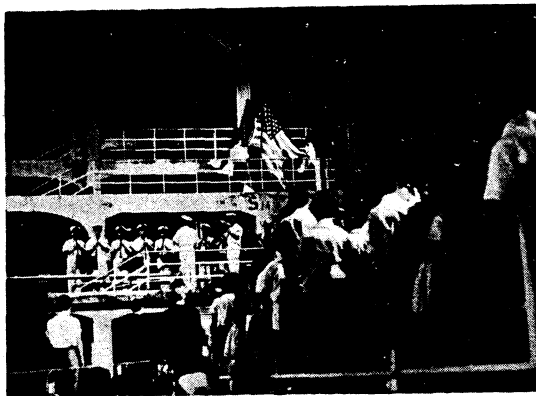
(日米対抗東京大会6)



雨にもめげず熱心に観戦するファン（第2日）。



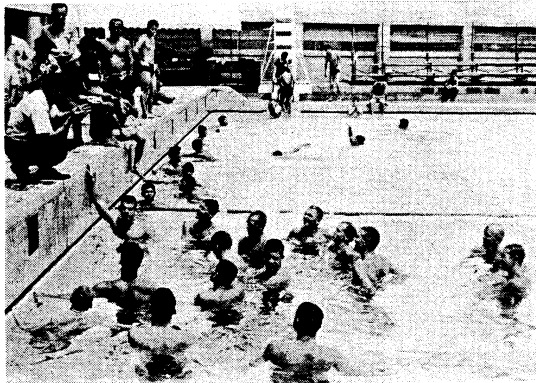
ドン・ハーパー氏のコミックダイビング。



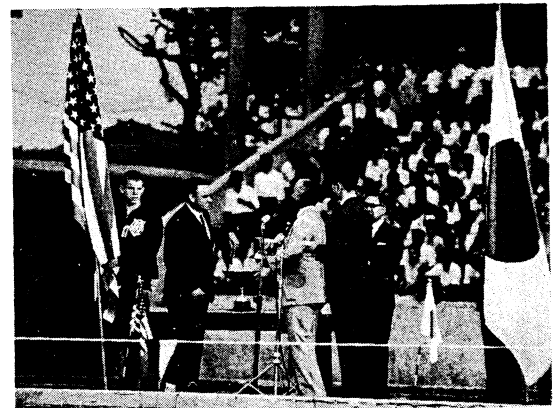
星条旗しきりに揚る。



日米チーム交歓会（於 八芳園）。



神宮プールで練習中のアメリカチーム。



優勝した米チームに秩父宮杯がおくられる。  
左より旗手イルマン選手、トリツドウエー監督、高石会長、一人おいて根上理事長。



←

和光（銀座四丁目）のショーウィンドーに陳列されたトロフィー。

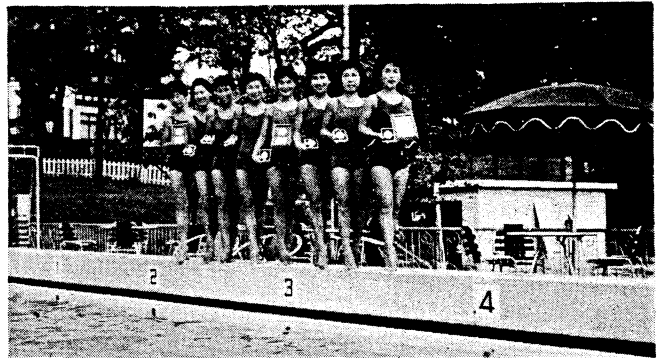


## 日本選手権で活躍したシンクロの人々



デュエット優勝者 左齋藤中子, 右佐藤セツ子  
(東京シンクロ・クラブ)

→  
ソロ優勝者  
鈴木佐智子  
(東京シンクロ・  
クラブ)



優勝チーム  
(齋藤, 佐藤, 鈴木, 島崎, 須藤, 関口, 福田, 山本)

## 水球チームヨーロッパ武者修行



←  
村 小 竹 桑 清  
山 山 林 内 原 水  
高 藤 横 荒 田 飯 神  
木 本 山 川 保 田 田



水球のメツカブラスペットの室内  
水球専用プール (左神田, 右高木)

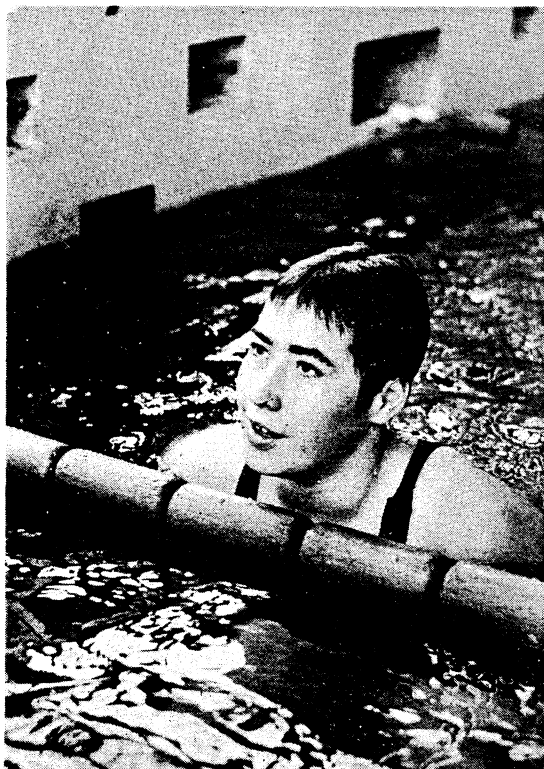


ユーゴの選手とアムステルダムにて (左より荒川,  
サンディク, 神田, 清水, トラビツクの諸氏)

# 東京国際スポーツ大会



女子 200m 自由形 決勝レース  
先頭は優勝したハグベリ（スウェーデン），2番目を泳ぐのは2着の木村選手。



女子 400m 個人メドレーに優勝した  
ラストレー（オランダ）選手。



200m 自由形 で世界新記録を出したクライ  
（西独）選手を囲む報道陣。



御観戦中の皇太子御夫妻。



オランダの女子チーム。



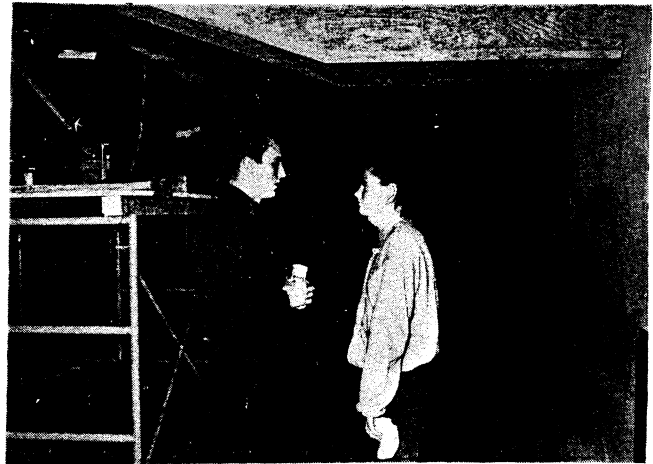
男子200m平泳に優勝したカレトニコフ  
(ソ連)選手。



男子200m平泳で4着となつたフニコフ  
(ソ連)選手。



女子100m背泳の決勝レースを終えて  
こちらを向いているのは左2着のキャロン(フランス)、  
右(上を向いている)1着の田中。



左 西独のクライン選手。  
右 スウェーデンのリュングレン選手。

(東京国際スポーツ大会3)



女子平泳の兩種目に優勝のブロズメンシュコワ  
(ソ連)選手。



ブロズメンシュコワ (ソ連)選手。



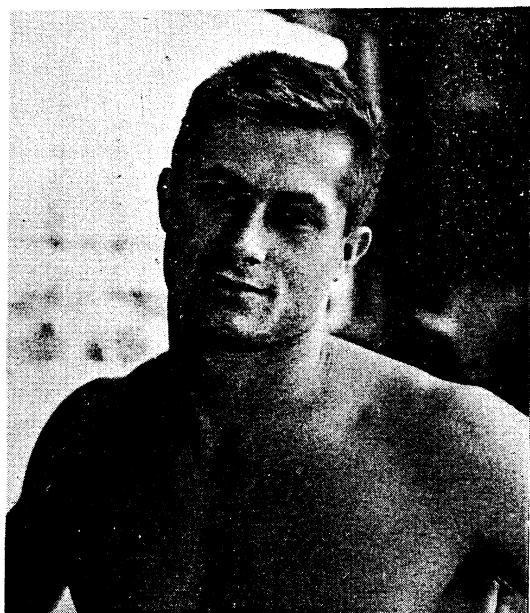
女子200m自由形3着のテルプストラ  
(オランダ)選手。



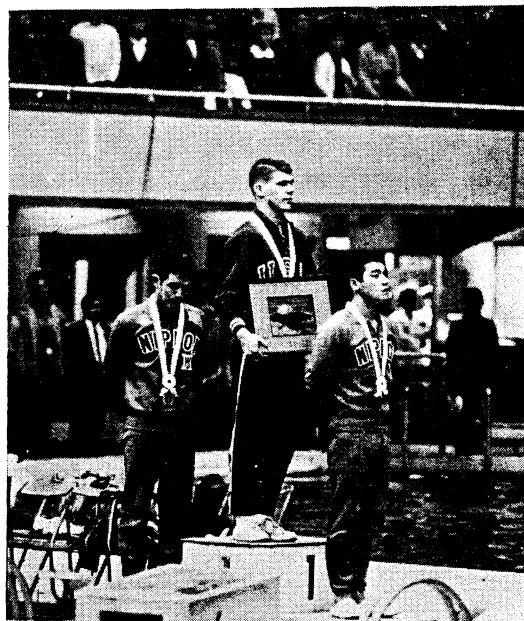
女子400m個人メドレー入賞者  
左より2着江坂, 1着ラステリー (オランダ), 3着  
村松の3選手。



←  
男子 400m 個人メドレー入賞者  
左より 2 着 山影, 1 着 ヘツツ (西ド  
イツ), 3 着 ガブリロフ (ソ連) の  
3 選手。



200m バタフライの 2 着になつたクズミン  
(ソ連) 選手。



男子 高飛込の入賞者  
左より 2 位土佐, 1 位スイツツバーガー (米)  
3 位長東の 3 選手。



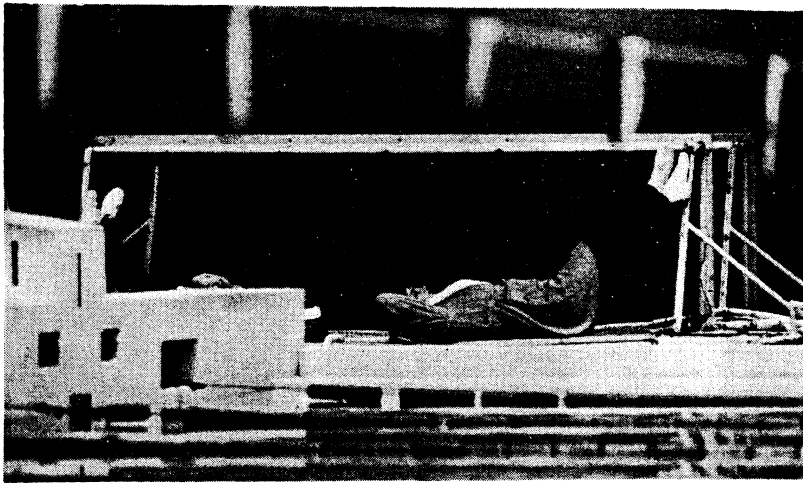
女子 高飛込入賞者  
左より 2 位渡辺, 1 位クーパー (米), 3 位  
大崎の 3 選手。



女子 200m 自由形入賞者  
左より 2 着の木村, 1 着のハグベリ (スウェーデ  
ン), 3 着のテルプストラ (オランダ) の 3 選手。

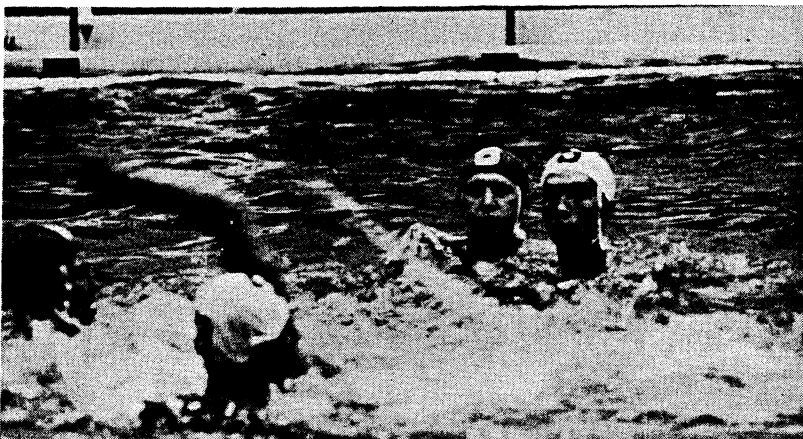
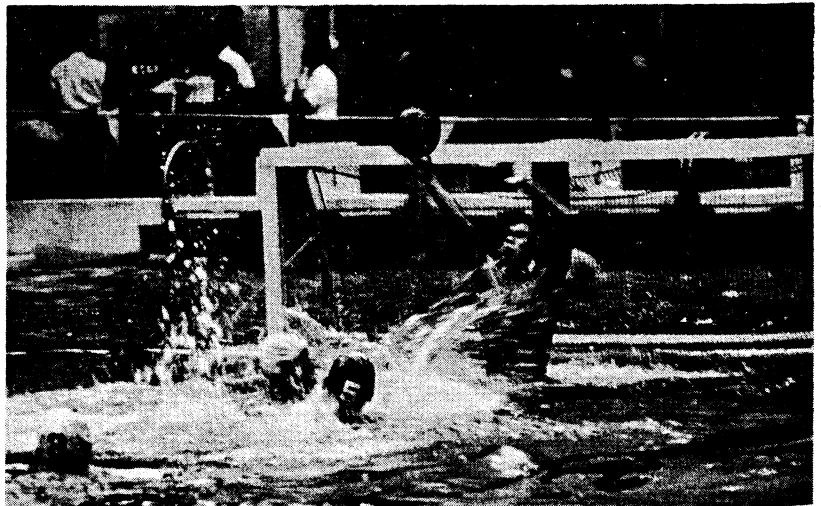
(東京国際スポーツ大会5)

→  
プールサイド小景



←  
休憩中(?)のオランダ女子選手

→  
日本対ハンガリー水球戦  
ゴール前の熱戦  
ゴールキーパーは飯田



←  
日本対ハンガリー水球戦  
こちらを向いているのは  
左 ドメトー(FW)  
右 清水(FW)

# 私はこうして選手を育てた

上記のような題で昨年の高校及中学の全国大会で優勝した男女4校の水泳部の諸先生に原稿をお願いした。選手強化の上から参考になる点が多いと思う。(編集)

(高校男子優勝校)

東京日大豊山学園高等学校

井上 隆

過去の例を取って見てもわかる通り良い選手は良い環境の中から出てくる。良い環境を作るには日本の学生スポーツ特に、中学高校の場合は学校のクラブ活動を中心に行なわれているので、学校の深い理解が必要である。

私がこのチームのコーチを始めてから今年で5年になるが学校の水泳に対する理解という点においては最も恵まれていたと思う。あらゆるスポーツの活動は①選手 ②指導者 ③組織からなり立っているが、③は②が最も活動しやすい環境を作るのが、その役目であり③は①が全力をあげてトレーニングが出来る環境を作るように努力するのがその役目である。私は以上の点から特に選手が練習を楽しく出来る環境を作ることを第一の目的として指導にあたることにした。いくら科学的な良い練習計画をたて、ハードトレーニングを選手にあたえようとしても、すべての環境がそれを支配出来る様になっていなければその練習は何の役にもたらず只その日その日の練習を量的に消化しているにすぎないばかりか、かえって選手は精神的にもつかれ、目標に向って意欲をもやすことも出来なくなってしまう。私達の行なっている競泳はつきつめれば個人競技であるのでこの世界の各チームがそれぞれ特色を持っていなければいけないし、選手は各々その特色を生かし良い方向に進む様指導しなければいけないと思う。私は自分の頭の中にある過去の名選手の外型のイメージを全部捨てこれから自分の指導する選手の個性を中心として技術的にも精神的にも良い方向に進む様努力した。水泳のシーズンは10月に全スケジュールが終ったと同時に次のシーズンが始まり、一年中あらゆる点で、トレーニングしなければ各々のシーズンに良い結果を得ることが出来ない。この全トレーニングの中には、陸上のみでの練習、水陸両方の練習、水上のみの練習、(水上の練習にも泳力を付けることだけを目的とするものとコンディション調整のためのものがあるが)等があり、更に適当な休養・反省等も含まれる。これ等の各々を無理なく接合することが、成功に導く原因であると思う。陸上トレーニングに付いてはこの紙面に細部

にわたり説明することは困難であるが、私達チームの今迄おこなって来たトレーニングは形にはまったものをそのまま行なうのではなく、選手と共に研究し、又過去何シーズンも経験したことの中から最も選手に適したものを取り上げている。

- ① 豊山体操
- ② ランニング
- ③ 坂を利用するランニング、50m位のダッシュ(坂道)階段の昇り降り
- ④ ハードリング
- ⑤ (ランニング)+(坂)+(ハードリング)のくりかえし
- ⑥ サーキット
- ⑦ 強化体操
- ⑧ ペーベル運動
- ⑨ バスケット競技(ルールをかんとんにし、30分~60分続ける)
- ⑩ 選手同志のマッサージ

以上のものを選手の体調に合わせて、適当に組合せる。

この中には戸外のシーズンに入っても1ヵ月位は一しょに行なうものもある。4月末~5月中旬頃は水温も低く一しょに多量の練習を行なえないので1日10,000m~12,000mと色々な方法で無理のないように持って行き、30分位消化した所でインターバル練習(スピードを要求した練習)に入る。

以上のシーズンは特に各人の個性に合った練習を目的として行なう。

特に4月の室内大会のために特殊な練習をしている所もあるらしいが、私は室内大会にあまり重点を置かないでやっている。

シーズン中の練習法にもいろいろあるが今迄特に成功をしたと思っているものの中に75m目標とした練習がある。これはプールサイドに1mごとにポイントを付け、その選手の75mの目標タイムを制限タイムとし、そのタイムで何米迄続けられるかという練習である。石川健二を例に上げて見るならば36年(石川1年)100の目標を1:11.6と75mは50秒を制限タイムとし行なった。(この練習は、1週2回~3回行なう。)当時25mのベストが14.5であるのでそのままのスピードで力のあるかぎり泳ぐことを要求した。

(36年)100m目標 1分11秒6 75m 50秒

①	②	③	④	⑤
72m	73.5m	73m	74.5m	75m

36年のベストタイムは1分12秒4(全日本)  
(37年)この年はシーズン前半がスランプで7月末頃から漸く75m練習に入る事が出来た。

100m目標 1分10秒8 75m 49秒

①	②	③	④	⑤
73m	73m	72.5m	74m	74.5m

第3回の時に 1:12.3のベストが出た

37年のベストタイムは1分11秒2(全日本)

(38年)この年は1月、オーストラリアに行き不調のまま帰国したので泳ぎを調整するため3月初旬より足を中心に練習に入り最後には75m練習だけで室内大会にのぞむつもりで始めた。キックが思ったより強くなったので(400m 5分54秒, 200m 2分52秒, 50m 39秒) 25mダッシュも13秒台がコンスタントに出るようになったので、室内大会には 100m目標 1分10秒5 75m 49秒0

①	②	③	④	⑤	⑤25m	50m	75m
74m	73.5	74.0	75.0	75.0	14.1	32.3	49.0

室内 1分12秒5, 日本対オーストラリア(オープン)  
1分10秒9

(この時私の不注意からカゼをひかせてしまい室内では1分12秒5であった)

6月の本シーズンとなってからは

目標 1分8秒5 75m 48秒5

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

73m 73.5 72.5 74 74.5 ベスト1分09秒8

この年は200mも2分33秒を出す事が出来た。

以上種々ある練習の中から最も良い結果が出たものを説明したわけであるが、これは石川のみでなく、他の者にも良い結果が出ている。この練習方法のよい点は75mを何秒で泳ぐというのでなく、あたえられたタイムで何m迄行けるかという処が選手自身、力をセーブすることなく、泳げる点ではないかと思う。

私もまだ5年の経験しかなく今後選手と共に反省し、研究し、勉強したいと思っている。良い選手を作るには、良い環境を作ることが第一でありその中からコーチと選手の精神的な結束が生まれ、強力で効果的な練習が出来るものと信じている。

(高校女子優勝校)

奈良県立五条高等学校

浦井保弘

水温15度に降下10月14日をもって一応水中練習を停止し、翌日より早速陸上トレーニングを実施する。

女子選手は腕筋力15キロ、脚力50キロを目標として各種最大筋力運動を3回づつ実施サーキット3セットこれ以外に学校の風呂を水温28度程度に暖め各選手約30分交代にてブル、キックの水中練習を実施す。

なお登校前各家庭に於いて約30分かけあしを本人の能力に応じて実施す。

以上シーズンオフの練習の結果、本年の4月14日オーブンプールにて水中練習を開始の時の腕筋力、脚力は所期の目的を達成す。なかでも菊谷選手は腕筋力に於いて18キロを示す優秀な成績をおさめる。

次に本年度の重点競技会は例年と異なりオール・ジャパンとインター・ハイの2回におく。水中練習は4月14日水温16度とともに始める。最初の半カ月は水に慣れる為のロングトレーニング、5、6月鍛練期(フォーム調整)7月各個人別能力練習、調整ターニング、スタート引継等の練習、8月本番に入る。

例年に比しての相違点は

1. 陸上トレーニングに或る程度の重点をおき1日1時間必ず実施す。
2. 栄養と精神訓練に重点をおき長期の合宿を行ない毎日5,000~6,000カロリーの栄養を考慮すると共に朝食をパン食にきり替え1日3ケのニンニク、10コのアリナミンを支給す。
3. 泳速練習に重点をおき25米4本インターバル5秒を1セットとしこれを5セットを実施し必ず記録を測定す。
4. 気分転換、興味を喚起する為各種のリレーダッシュを実施す。

以上のように昭和38年は各選手が夫々の個性を生かし一致団結、指導者と選手とが一体となって所期の目標に邁進したので栄冠を勝ち得たものと確信している。

(中学男子優勝校)

熊本県八代市立第三中学校

江崎正護

私の学校は琢磨川に囲まれた三角州の一角にあり美しい環境に恵まれ、父兄の教育に対する理解も高く生徒は素朴である。

八代市は中体連が活発で水泳は他の競技に比べて参加校が少なかったが、小学校の9割以上にプールが設置され次第に参加校もふえ、八代市の水泳協会の強力な後援を得て優秀な選手が輩出している。現役の第一線選手には、佐藤好助、山本憲子、田上和子、敷石選手等をはじめ、高瀬、木田、田代、三木選手等が活躍している。

私は本校に赴任して6年目になるがその間平泳の田



上、自由型の高瀬、背泳の三木（三木正二郎の兄）等が出ている。本校は第1回全国中学生選抜水泳大会では第5位、第2回大会では1点差で第2位、本年度優勝と順調に成績を上げて来た。

これは別に強力な対策を立てて指導したわけではない。毎日プールに出て漠然と泳がせて来ただけである。しかし水泳をする生徒の父兄の理解は年と共に深まり、一昨年頃より熱心な父兄はストップウォッチを手にして毎日プールにあらわれ子供を激励してタイムを調べ夜帰ってから子供と話し合うといった様子がみられて来た。一昨年より本校水泳部の先輩をコーチにして練習をしたが、これは生徒との密接なつながりを得て成功した。

練習は2月より風呂を使いながら練習を開始し10月の初旬まで行ない、10月より2月までは陸上でトレーニングを行なっている。練習内容は他校の練習と同じだろうと思うので省略する。

特に注意したのは練習態度で不平を言ったりする場合は強い態度でのぞみシーズン中の食生活も冷たい飲みものは一さい禁じ、合宿等での食事は好き嫌いをしない様に注意した。一年生の部員も7月中旬を過ぎる頃から次第に好き嫌いがなくなり、父兄より感謝されることがよくあった。

本年は指導者と生徒と父兄のつながりが特に密接になった。2月より5月までの風呂たきには毎日父兄が交代で薪を持参しシーズン中も必ず2人以上が練習を見にこられ、選手たちの家庭状態がよく分り、また細かい所まで注意が行き届くようになった。合宿中は炊事を交代で行なったが、これは7月にオリンピック候補選手の合宿が八代で行なわれた時、炊事の手伝いを我々が引受け、専門の栄養士の人から得た知識が大いに役に立ったわけである。

水泳大会が終わった後は生徒と父兄全員が当番になった生徒の家に集合して試合に対する反省をしながら、次の大会に対する抱負を語り合った。これも父兄の自主的な話し合いの結果である。

このようにして本年度は生徒達の父兄の理解と地域社会の協力があつたため、指導者側の指導も安心して徹底することができたものと思う。本校にはプールはないが、同校区の小学校のプールを借り存分に練習ができた。プールの設備を除けばあらゆる面に恵まれ全国優勝をしても不思議に思われない様な気がするのである。

選手達の学校での学習態度、生活態度に気を配り、担任教師とも連絡をとって選手としての自覚を高めさせた。

“私はこうして選手を育てた”というテーマから離れ恵まれた環境のみをあげたが、中学生の水泳指導はあく

までも指導者ができる限り生徒につき、十分泳ぎ込ませ泳ぎを体得させることにあるという信念でやって来た。

今後はコーチの援助指導（市役所勤務加根哲哉氏）と相まって選手の強化に専念したいと思っている。

（中学女子優勝校）

東京成女学園中学校

三枝美貴子

「<石の上にも3年>なんとかなるさ。」とこんなのんきな、怠慢な、消極的な私の指導で全国中学優勝とはなんだか申しわけないと思っている。特記すべき何もないままベンが渋る。どう考えてみても他校と異なった練習法など持っていない。あえていうならば7年の間来る日も来る日も馬鹿の一つ覚えのように選手づくりに営々として来たことだと思う。

大東京の真っ只中で女子があらゆる誘惑をしりぞけ、ただ一途目的に進み得る選手となる至難さ。これとたたかうことが私の闘いであった。選手生活につきものの<強制>を<自分自身のためにするのだ>と納得出来るようになるまでに長い長い時間を要した。<こんな苦しい思いをして何になる。私は皆と同じような生活がたのしみたい。もうこんなつらい努力はたくさんです。>そして遂に去った2、3の人達。私は辛抱強く話しあった。折にふれ時にあたり繰り返し繰り返し話すほかに方法がみつからなかった。そして今尚それは続けられている。しかしこの繰り返しの中から何時しか相互への信頼と理解が培われ真の選手生活がわかりはじめたようである。今回の優勝もこうした人間のもちうる、知、情、意の片鱗の現われと思う。

私のように教職にあるものは常にアマチュアスポーツの、そして学校スポーツのあり方を考えさせられる。そうした中で<人間教育の一環としての選手生活>というのが私の信念となって来た。こうした考えはいろいろの形でチームの長所となり短所となって現われている。がしかし今やっと基礎づくりが出来たという感である。

これからは勝負の世界を生きぬく為、<勝つ>ことへの執着を積んでゆきたいと思っている。最後に本年の初選手生活概要を述べて見る。

休養期間 10月いっぱい数多い学校行事に専念。

冬期トレーニング 11月～2月陸上トレーニングを水連指示通り忠実に行なう。他に一部の選手に柔軟体操を加える。

春期トレーニング 3月～4月陸上トレーニング主体にし、他に1週1万米位基礎練習

を主眼に泳ぐ。

夏期トレーニング 5月～9月水泳練習に入る直前に最大筋力、並びに筋持久力1セット。練習量1日最高5,000米。平均3,000以下。時間に制限があってこれ以上出来ない。

環境の整理 今春、合宿所新設により夏期トレーニング期間中に10日間単位に3回の合宿を行なうことが出来た。

これにより

1. 昨年まで学校プールの往復に要した時間のロスが減少した。
2. 合理的な食生活が出来、健康管理がよく出来た。
3. 合宿生活のよい点だけを吸収しチームワークの温床となった。

などの利点が考えられる。



○ 1963年度のヘルムス杯の受賞者の中、アジア大陸の分は日本の田中聡子さんにきまっていたが、この夏同杯が日本に到着し、日本選手権大会第4日目の8月4日に神宮プールでヘルムス財団アジア担当者のトランスワールド航空支配人から同嬢に渡された。この授与式には同杯を運んできた日航ホステスの長瀬さんが立会った。

○ 東京オリンピックに出場する米国水泳チームの監督陣容は次の通りにきまるとAPが伝えている(8月10日)なお選手選考会は昭和39年8月27日から9月7日迄ニューヨークで開催される。

監督——ハロルド・ヘニング(AAU男子水泳委員長)

助監督——ケネス・トリードウエー(AAU男子水泳委員)

競泳コーチ——ジム・カウンスルマン(インディアナ大学コーチ)

ジョージ・ヘインズ(サンタクララクラブ・コーチ)

飛込コーチ——ヘンリー・チャップマン(テキサス大学・コーチ)

○ かつての背泳界のNo.1であった長谷景治氏(早大出身倉敷レーヨン勤務)が昨年11月に、水連会長高石氏の媒妁で華燭の典をあげた。花嫁は東京アジア大会のメダリストである成女学園出の中沖滋代さん。(イクヨと読む)

同じ背泳畑の渡辺和夫氏も昨年春、二階堂出の自由形選手川島浩子さんと結ばれたが、男子バックと女子フリーとのコンビは縁起がよいものとみえる。二度あることは三度あるというから、今年あたり、3第のコンビが生れるかも知れない。

○ 米国女子水泳界のNo.1であるハウス嬢は、800M 1500Mの世界記録保持者で勿論東京大会のホープであるが、最近眼病にかかり、失明の心配があるということだが、誠に気の毒な話である。所が皮肉にも彼の女のお父さんが眼科医で、東京大会で彼の女のために揚るであろう星条旗を是非みせてやりたいと一生懸命に治療をしているそうであるが、我々も彼の女の治癒を心から祈り、東京大会での活躍を期待したい。各国のオリンピック準備状況取材しているNHK特派員の話である。

○ 昨年秋の東京国際スポーツ大会に西ドイツから来た背泳のエルンスト・ヨアヒム・キュッペルス君は、アムステルダム(昭和3年)とロスアンゼルス(昭和7年)の両大会で活躍した背泳のキュッペルス氏の長男で、今度来日するときも、父親から(日本に行ったら清川氏に会って来い)と言われ、屋内プールの控室で清川氏となつかしそくに話をしていた。親子揃って名選手になった例は日本では前畑秀子さん母子、中川重雄氏父子、大崎卯藤久氏父子、葉室鉄夫氏父娘等があり日本の場合には偶然にも平泳が多いが、キュッペルス二世君の東京大会での活躍を期待したい。

# 第14回全国勤労者水泳競技大会雑感

浜名湾游泳協会理事長 宮 本 秀 夫

本大会の過去14回のうち2回もお引受けする光栄に浴するとは夢想だにせぬ事であった。正月の全国代議員会では会場未定で本年度は何処が引き受けるだろう位にしか思っていなかった。処が3月下旬県の健康保険課長が至急逢い度いというので出かけた処、厚生省から大会開催の要請があり県の面子としても引き受けようと思うし、知事の内諾も得たので是非協力して欲しいとの事であった。

これは当方としては全く寝耳に水であった。本年度のスケジュールは関係方面に既に発表済みなので困った事になったと思ったが、よく考えてみると昭和30年私達は浜松市のプールに飛込プールを設置し、第6回の全勤大会を県に相談なく招致して大分迷惑をかけたことがあるので、今度は断る訳にも参らず協力を約束した次第である。

しかし38年度は重点施策として、選手強化計画が第一なのでこれをどう調整するか、又全勤大会は競技が夜間迄かかるので照明設備をしなければならず、飛込板も古いから購入しなければならない等難問が山積していた。

結局照明器具の設置を条件にして競技運営だけにして頂く事を前提として準備にかかったのである。

8月5日迄県庁内に準備事務局を置いて事務をとってきたが、委員会は3回位しか開かれず、又開催地浜松と県庁とは急行でも1時間の距離にあるので、横の連絡がうまく取れず、気ばかりあせて準備は遅々として捗らなかった。

それに8月中は中部7県高校、中学水泳教室、全国中学、日本高校等で協会員は夫々の大会に選手と同行しており私外1、2名と県保険課職員4、5名のみで準備に忙殺されている状態だった。過去の大きな大会には充分な期間と多過ぎる位の人数で準備にかかっていたのであるがこの小人数ではどうなるかと冷汗ものであった。しかしメンバー編成会議も10時間足らずで出来上りほっとした。これには県保険課の係の方々の並々な努力と御協力に負うところと深く感謝致している次第である。

大会3、4日前より各地より帰って来た12、3名の役員がつめかけ追込をかけ万全を期した。照明も完備し飛込

板も日水連から借りることができ、用意万端整ってほったようわけである。これもその涉に当る人々が責任を感じ努力した結果と思う。

宿舎については市内全旅館では不十分なので弁天鳴にも用意した。特に市内に於いては旧赤線地帯の旅館まで開放しなくてはならなかった関係上不行届があった事を深くお詫びしたい。

大会運営は第6回全勤、国体、日本高校、全国中学等を手がけて来た人達が当ってくれたので大過なくやりとげた事と思う。

尚浜松は大きな大会で有名選手が出場すれば観客は多数つめかけて来る処で各県のどの全勤大会よりも観客数が多かったと思う。亦選手諸君も観客の声援に張りを感じたのではないか。このことは本県より過去のオリンピックに17、8名の選手が参加しており、有名選手の記録を熟知している関係ではないかと思う。

只本県として考えなくてはならない事は勤労者の選手養成にあると思う。本県出身の選手は極めて多いが、学校を卒業しても都会地に留まり帰県しない人が多い。これは本県の会社等が余り関心をもっていなかったことによると思うが、最近楽器会社関係が力を入れ始めているから近い将来には目鼻がつくだろうと思っている。

全勤大会も開催方法を再考すべきときが来ているのではないだろうか。特に有名選手の間となり過ぎ過半数の選手が勝敗を度外視してはいないかということが気にかかる。今後大学卒、中高校卒の二部制にしてはどんなものであろうか。

本大会も最初の予算は420万円あり、これで充分やれると思っていたが結果的には55万程超過してしまった。どの県がやるにしても500万円では一寸無理のようである。今回の場合は照明設備の新設ということもあったが、反面無駄なこともかなりあった。印刷物は乱造され易く、又通信費が膨大になり勝ちであることを忘れてはいけない。申込締切日を守ってもらえば、長距離電話で照会しなくともすむし、問合せの郵便物を発送する手間もはぶける。この様な事を痛感したわけである。

# 日本高校大会に思う

大阪水泳協会 妙 中 要 造

8月25日大阪プールで開幕した全国高校水泳大会は丁度日米対抗水泳競技大阪大会に引続いて挙行されただけに、出場選手が米国若手選手達の泳法に対し、何の様な心理的影響を受けたか非常に興味を持って観戦したわけである。本大会は各学校が対抗競技の点に重きを置いている為に、大きく飛躍したという感じは受けられず、寧ろ低調と云ってよい程ではなかったかと思われる。勿論高校新、大会新はいくつかは出ていたけれども全般的に記録の大巾な向上は見られなかった。

この低調な状態には、種々の原因が考えられる。その第一には、都会で行なったが為に、選手に充分の休養を与えることが出来なかったことであろう。矢張りこの様な大会は、市民全体が又、県をあげて後援してくれる地都市方に持って行くことが、最も望ましい事ではないかと考えられる。

次に、前記の様に大会運営上の拙さがあったとしても、選手自身は如何なる大会にも、ベスト・コンディションで臨み得られる様にならねばならないし、又自分のコンディション調整には、もっともっと強い自覚を持つ様に、心掛けねば、何時迄経っても、同じ事の繰り返しに過ぎない事になる。若し米国選手が日本に遠征して来て、直ぐに東京大会を行ない、名古屋、大阪を転戦して、尚且つ好記録を出している姿を見れば、より一層努力しなければならぬと感ずる筈である。

水連本部から地方各所属団体の方迄、全部が一丸となって、来年のオリンピック目指して邁進している時、自分だけが候補選手として選ばれたことにのみを気奪われ、それに甘んじている様なことはないだろうか。合宿

中は別として如何に名コーチがついたとしても、それは練習中のみで、日常の生活は共にしているわけでない為、コーチの意のままになることに可成りの困難がある。ここに強く各自の自覚が要求されて来る上、もっと強い候補選手としての自負心と責任感を持つ必要がある。

全国高校をみていてこの様な気持が欠如しているのではなからうかと感じられてならなかったのは私一人ではないと思う。

水泳が二シーズン制になって、丸一年泳がねばならない為に、選手にとっては長期に亘る練習が大きな精神的負担となって、疲労もとれにくく、又コンディションの調整も困難であるとする向きもある。之も事実であろうと思うけれども、自分の日々の生活が、全て水泳に直結している、という考えで進んで行けば、決して一年も長い月日ではなく、寧ろあせりを感じず程に短かい筈である。

日米対抗で、実力の差をまざまざと見せつけられた後だけに、まけい印象を強くした次第。此は本大会に出場した高校選手のみに限らず日本選手全般に亘って云えることであるが、体が非常に堅い様に感じられる。本当に柔軟な、ばねのきく体となって初めて記録も大巾に向上するのではないかと考えられる。

この大会で将来を大いに楽しませる選手を多数見受けて、関係者の一員としてこれら選手が立派に一日も早く育て欲しいと期待する次第で、選手一同の今後の健闘と自愛を祈って止まない。

## 第19回オリンピック大会はメキシコ・シチーに決定

昭和38年10月18日西ドイツのバーデン・バーデンで開かれた国際オリンピック委員会総会で投票の結果、第16回オリンピック夏季大会はメキシコシチーで行われることになった。票数は次の通り

メキシコ・シチー	30票
デトロイト(米)	14"
リヨン(仏)	12"
ブエノスアイレス(亜)	2"

メキシコ・シチーは高度2000米の高地にある関係上気

圧が低いからこの点を十分研究しておく必要がある。期日は10月初旬らしいと外電は伝えているから、水泳は多分室内プールとなるだろう。なお理科年表によるとメキシコ・シチーの10月の平均気温は15°1 降水量40mm湿度65%であるから此の点では10月の東京と大差はないとみてよい。(東京の10月平均気温は16°7) 此の国の国民はスペイン人と原住民のインディオの混血が大部分で国語はスペイン語、通貨はペソ(1ペソは約30円)である。

# 水球ヨーロッパ遠征報告

日本チーム監督 神 田 明 善

## 出発までの強化準備

昭和38年度関東学生水球リーグ戦後水球選考委員会にて東京オリンピック候補選手中よりヨーロッパ遠征選手12名を決定。

6月24日より7月16日まで新潟県柏崎市にて38年度第3次オリンピック強化合宿を行いこの期間中に遠征チームの編成並びに強化を実施。

日本選手権後8月7日より8月11日まで東京(祥平館)にて最後の仕上げ合宿及び出発準備を行う。

## 欧州遠征チームメンバー(役員2名、選手12名)

監督 神田 明善(慶大OB) 蒲田会館 41才  
審判 丸笹 治彦(早大OB) 丸善百貨店 33才  
選手

(主将) 田久保 徹(日大OB) 海上自衛隊 27才  
荒川 八郎(慶大OB) テアトル東京 29才  
高木 弘毅(日大OB) 東京美装 26才  
飯田 矩偉(中大OB) 安田生命 24才  
藤本 重信(日大OB) BSタイヤ 23才  
清水 洋二(慶大OB) 東急不動産 22才  
横山 隆(中大OB) 日興証券 22才  
桑原 重治(成城大OB) 丸和鉱油 22才  
小山 欣也(慶大OB) 内外編物 22才  
村山 憲三(日大2年) 20才  
竹内 次也(早大2年) 19才  
林 孝治(早大2年) 19才

## 遠征日程

8月11日 羽田出発(香港, バンコック経由ヨーロッパに向う)  
8月12日 カイロ着  
8月13日 アラブナショナルチームと対戦  
8月14日 カイロ発ブダペスト着  
在ハンガリー中6試合行う(エキジビションゲーム2回)  
8月23日 ブダペスト発ミュンヘン着  
ミュンヘン, スツットガルト, カーメンと西独を転戦5試合を行う。  
8月29日 デュッセルドルフ発アムステルダム着  
アムスフルト(アムステルダム郊外)にて4試合(エキジビションゲーム2回)  
9月2日 アムステルダム発(北極回り)  
9月3日 羽田着 同日解散

## 遠征の目的

東京オリンピック選手強化の一環として今度の遠征計画を実施。

レナトー氏(ユーゴ)ライキ氏(ハンガリー)の来日後本年3月に3名の西独現役級のコーチが来て色々指導を受けたが彼等から得た技術なり体験が実際ゲームに於て欧州一流のチームにどの程度通じるか選手自身にも体験させコーチもこれ等を通じて今後の方針を立てるに役立つと思ひ, より多くの国際試合を行うことにした。多少無理なスケジュールではあったが約3週間で16試合を行った。

## 試合報告

対アラブ連合ナショナルチーム(8月13日)

日本3  $\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 0-2 \\ 0-2 \\ 3-1 \end{array} \right\}$  6アラブチーム 審判 Elzorkany (アラブ人)

おそらく来年の東京大会には現在のメンバーが中心となるものと思はれる。

日本チーム(遠征中はすべて下記のメンバーで対戦)

①飯田 ②田久保 ③荒川 ④横山 ⑤藤本  
⑥高木 ⑦清水 ⑧桑原 ⑨村山 ⑩竹内(林)  
⑪小山

アラブチーム

①Sameh ②Mekawy ③Shafik ④Khorshed  
⑤Soleman ⑥Amen ⑦Elkashef ⑧Refaat  
⑨Elmealem ⑩Khorshed ⑪Elsayed

アラブ軍は若手が多く体格は非常によい。ハンドリングや泳法には参考になるものはなかった。

審判技術は拙劣で「エコヒイキ」の激しさはただ驚くばかり, 日本チーム応援団の中には憤慨のあまり第3ピリオードあたりで席を立てて帰った者もあった程である。後日この審判の事を他国で話した所此の人は猛烈にナショナリズムに徹した男で海軍々人だそうである。おそらく日本に負けたら階級でも下げられるのではあるまいかと思われる様な判定であった。

日本チーム退水7回

(得点) 高木2点 藤本1点

併し如何なる状況下にあっても勝利をかちとるだけの実力とフェイトをつけなければならない事を痛感した。

ともあれ日本全選手が最後まで不満の態度を現はさ

ず致斗した事は今遠征中大いなる収穫であった。  
 対ソルノック戦 (8月16日)

ハンガリー西部選手権獲得チーム

日本 5  $\left\{ \begin{array}{l} 2-4 \\ 1-1 \\ 1-2 \\ 1-1 \end{array} \right\}$  8 ソルノック 審判 Schlenker  
 クラブ

ソルノックチーム ①Boros ②Pinter ③Brinzai  
 ④Kuczora ⑤Kanizsa ⑥Hasznos ⑦Koncz  
 ⑧Yegesi ⑨Hegmann ⑩Nagadi

G. K. のボロシユ (東京国際スポーツ大会参加) を  
 入れるとナショナルチームメンバー3名

(得点) 高木2点, 清水, 藤本, 横山各1点

体格はそれ程大きいとは思はなかったが浮力が非常に強くゲーム中は日本チームが上から押さえられる様な感じである。この地方はハンガリーでもルーマニヤ寄りの所で、ブタベストと違いプレーそのものも大変堅実で派手な所が少しもない。ゲーム運びはさすがで絶対にそつがなくチャンスは全員でものにするなど本場のプレーを十分みせて呉れた。

当地のクラブメンバーは実に親切なばかりで心から歓迎してくれ我々一同大に感激した次第である。

対ハンガリーナショナルBチーム戦 (8月17日)

日本 0  $\left\{ \begin{array}{l} 0-1 \\ 0-2 \\ 0-0 \\ 0-1 \end{array} \right\}$  4 ハンガリー 審判 丸笹  
 ナショナルB

①Kelmecezi ②Dancsa ③Kwatos ④Gallow  
 ⑤Rusofan ⑥Vaci ⑦Lepjes ⑧Lavko

若手ではあるがプレーは地味で堅実そのものである。ゲーム運びもナショナルチーム級で日本チームが敵ゴール前で攻撃をかけることが出来たのは僅かに4回、ペナルティーなど少しの所で得点に致らなかった。併し我がチームの防禦態勢は実によく、特に後半敵に1点しか与えなかったのは上出来であった。G. K. 飯田の守備も実によく試合終了後ライキ氏も頻りにほめて呉れた。

対ハンガリーナショナルチーム戦 (8月18日)

日本 2  $\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 0-1 \\ 0-2 \\ 2-3 \end{array} \right\}$  6 ハンガリー 審判 Gyorgy  
 ナショナルチーム

(得点) 桑原2点

現在の世界最強チームを相手にこれだけ戦えるとは思はなかった。実際今度の欧州遠征中最高の出来であった。得点は一応2対0であり上等ではないがヨーロッパ選手権を持っている世界のトップチームを相手に此の成績は上といえる。日本チームは動きもよくパスもよく通り度々敵ゴールを襲ったが今一步のキメが足りなかった。

特に前半 (第2ピリオードまで) は素晴しく一時は完全にマイペースで試合をリードしていた。この機に先取得点をして置くべきで極めの鋭さが要求されるわけである。第2ピリオードも全くの善戦でハンガリーもやっと中距離で一発だけ決める。ハンガリー監督もあせり出しプールサイドで怒鳴るので選手までがあわてるような始末。シュートしてもバーやポストに当たったり、投げて上づったり又 G. K. が実によく当たったので好攻防の連続であった。

ゾーンの攻め方に今一步の極めが出なかったのは残念。

ハンガリー・ナショナルチーム・メンバー

①Boros ②Mayer ③Gyarmati ④Marko Vics  
 ⑤Domotor ⑥Karpati ⑦Kanizsa ⑧Selmecli

エキジビションゲーム 2試合 8月21日

日本 5  $\left\{ \begin{array}{l} 3-2 \\ 1-3 \\ 1-3 \\ 0-2 \end{array} \right\}$  10. クラブチーム  
 (ナショナルメンバー4名)

日本 6  $\left\{ \begin{array}{l} 1-3 \\ 1-2 \\ 2-1 \\ 2-2 \end{array} \right\}$  8 混合チーム

対M. T. K. 戦 (ライキ氏配下のクラブで創立1888年)

(8月22日)

日本 7  $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 2-0 \\ 2-2 \\ 2-1 \end{array} \right\}$  3 M. T. K. 審判 丸笹

M. T. K. メンバー

①Takatsi ②Satamoa ③Konigh ④Biro ⑤Batogh  
 ⑥Szivos ⑦Hatd ⑧Tanitsari ⑨Gszaszar

遠征中次第に外国選手に慣れて来たせい日本選手の動きがよくなって来たようだ。又チャンスを捕えるタイミングも除々ではあるがのみこんで来た。

飯田の好守は何時もながら立派で又清水がよく動きこれと思う所できめてくれた。

(得点) 清水3点, 高木, 田久保, 荒川, 桑原各1点

対ドイツナショナルチーム戦 (8月24日)

ミュンヘン・ゲーテプール

日本 2  $\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 0-2 \\ 0-1 \\ 1-1 \end{array} \right\}$  5 ドイツ 審判 Miserez  
 ナショナル (スイス人)  
 チーム

水温 19° 試合開始 17:00

水球試合に先立ち日本水球チーム, ドイツチーム他6チーム出場400mリレー(8人)を行う。竹内, 藤本, 横山, 林, 清水, 村山, 桑原, 荒川。

日本水球チーム3分37秒1にて優勝

移動をした当日或は次の日までは中々調子が出ない。僅か2時間位の飛行機旅行でも復調には十分注意

しなければならぬ。ハンガリーでの最終試合の様なプレーができればもっといい試合が出来たであろうと思う。

第1ピリオードで高木のシュートがうまく決まった為再度此の攻撃システムを固守したのは失敗であった。もっとチーム全体として多彩な攻撃法を身につけねばならない。

相手のゴール前に於ける粗雑なパス、無駄なシュート、ゾーンの守備等に気を付けたらもっと接近したゲームが出来たであろう。

ドイツのようにあまり泳力を武器としないチームにはもっと泳いでチャンスを造るべきであった。

(得点)高木、荒川。

#### 対ルードウィスブルグ戦 (8月25日)

日本 5  $\left\{ \begin{array}{l} 0-1 \\ 1-0 \\ 2-0 \\ 2-2 \end{array} \right\}$  3 Ludwigsburg 審判 Balthasar (フラン人)

試合開始 17:00 水温 18度

①Bildstein ②Fuchs ③Nuding ④Teicher  
⑤Gemrig ⑥Seitz ⑦Knoblauch ⑧Dongus  
⑨Hurtlen ⑩Ott ⑪Luz

全員が非常によく動いてチャンスを造って呉れ又バックパスのカバー或は攻撃参加に忠実にプレーした。但し水温が低い為時々パスが狂うのには苦労した。

何れにせよ泳力を活かして日本チームのペースで試合を進める事が出来たのは上出来であった。

(得点)高木、藤本各2点 清水1点。

#### 対ハム戦 (8月27日)

日本 3  $\left\{ \begin{array}{l} 0-2 \\ 1-1 \\ 0-1 \\ 2-3 \end{array} \right\}$  7 ハムクラブ チーム 審判 Yakoby (ドイツ人)

①Hoffmeister ②Hans ③Strasseo ④Nagy  
⑤Kleineier ⑥Beog ⑦Buehbinde ⑧Bocking

試合開始 20:30 水温 19°

室外夜間(照明不完全)に慣れぬ為距離感が悪くロングパスの不正確が目立つ。G.K.も速いシュートに対するタイミングが合はず苦労する。

第1ピリオードで④の右サイドよりのスタンディングシュート及び中距離で完全に相手のペースに巻き込まれてしまった。このチームにはナショナルチームメンバーが4名をりハンツはさすがに試合運びがうまく完全にチームをリードしていた。

水温も低いがそれ以上に気温が低く真からひえるので田久保、荒川、藤本等冷凍人間の出来上りとなる仕末。

(得点)清水、高木、藤本各1点。

#### 対カーメンクラブ戦 (8月28日)

日本 10  $\left\{ \begin{array}{l} 2-0 \\ 4-0 \\ 3-2 \\ 1-1 \end{array} \right\}$  3 カーマン クラブ 審判 丸笹

①ハンツ ②ヤコービ ③ブルーメル ④コイツツマン  
⑤ハイツ ⑥ウエンデル ⑦ジャンキヌ ⑧ヴァイリン

当地ではシーズンが過ぎている為泳力がやや不足併し対抗戦を頻繁にやっているせいか試合の掛引は中々上手である。相変らずの低温に悩まされる。

(得点)清水4点、高木、横山各2点、竹内、林各1点。

#### 対ハム第二回戦 (8月28日)

日本 4  $\left\{ \begin{array}{l} 2-0 \\ 0-2 \\ 1-0 \\ 1-2 \end{array} \right\}$  4 ハム 審判 Jakoby

④Hoffmeister ②Hans ③Strasseno ①Nagy  
⑤Kleineier ⑥Beog ⑦Buehbinde ⑧Bocking

西ドイツ最後の試合なので低温ではあったが皆よく頑張った。第3ピリオードまで完全に我がチームのペースで進んで来たが最後になってガラリと汚いプレーに変わり笛も又これにならって公平さを欠いた判定が随所にみられた。

①, ②, ④, ⑥はさすがにナショナルメンバーだけあって試合運びがうまく特に②, ④のゲームリード振りは大いに見習う所があった。

(得点)藤本2点、高木、清水各1点。

#### 対オランダBチーム第1回戦 (8月31日) (強雨)

日本 6  $\left\{ \begin{array}{l} 3-1 \\ 0-0 \\ 2-1 \\ 1-0 \end{array} \right\}$  2 オランダ チーム 審判 Kok Hen (オランダ人)

①Vries ②Kolk ③Wouda ④Ouwerkerk ⑤Voet  
⑥Bekkum ⑦Hoofdakker ⑧Rohof ⑨Maas  
⑩Schaaf ⑪Schmidt

このチームのコーチは来日した事のあるスモール氏。

第1ピリオードで2対1でリードしていた時荒川が退水となる。当然同点と追い付かれる所であったが逆に高木、藤本のリレーで2点リードを保った。おそらくこれが試合の山であって以後完全に日本チームのペースに進んだ。低温には相当慣れて来たが相手チームと比べるとまだ弱くこの差がゲームにも大きく影響して来る。

試合終了後スモール氏が1957年にオランダに来た時に比べると数段の進歩で東京オリンピックには必ず好成绩を収めるであろうと激励して呉れた。

(得点)高木3点、清水、藤本、横山各1点。

上の試合後ユーゴ対オランダAの第一回戦あり審判は数多くの国際試合を経験しているベルギーの Mr. Bauwens 前半ユーゴー1人退水し猛烈なせり合いとなる。ユーゴーの F.B. と G.K. 共に素晴しくゾーンを敷かれたら絶対と云っていい程入らぬ。しかし攻撃力もある事だしむしろ入れさせて対で攻めた方が楽勝出来たであろうに。

兎に角見て居て手に汗を握る一戦であった。

結局1対1の引分け

ユーゴチーム

- ①Muskatirovic ②Trumbic ③Rosic ④Simenc  
⑤Stanisic ⑥Nardeli ⑦Jankovic ⑧Barle  
⑨Sandic ⑩Nonkovic

オランダAチーム

- ①Hermesen ②Spingelen ③Leenards ④Wormgoor  
⑤Vriend W. ⑥Muller ⑦Dorp ⑧Gejtjes  
⑨Vriend H. ⑩Aalberts ⑪Bultman

対オランダBチーム第二回戦(9月1日)

日本 5  $\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 1-1 \\ 2-2 \\ 1-3 \end{array} \right\}$  7 オランダB 審判 Geese  
チーム (オランダ人)

- ①Schmidt ②Kolk ③Wouda ④Ouwkerk  
⑤Hoofdakker ⑥Geutjes ⑦Vriend ⑧Voet  
⑨Bekum ⑩Rohef ⑪Koedoder

オランダBチームは第一回戦のメンバーに F.W. 2名, G.K. 1名を補充どうしても雪辱を期そうという意気込みが充分感ぜられた。第一回戦の最終ピリオード辺りで相当ゲームがラフになった。その影響であろうが最初から当りの強いプレーが続出両軍退水の連続で遂にリードする事が出来ず1対1である。第3ピリオードが矢張り山場で最初はリードしたのであるが逆転され再び同点(4分59秒)とする。

第4ピリオード我がチームのパスワークの悪さに乗じて立て続けに2点取られる。これで完全に後手に回ってしまった。更に2分40秒清水1点返えし果敢な攻撃を続けるも返えって仇となりタイムアップ直前にゴールを奪はれる。万事休す。

(得点) 清水3点, 高木2点。

この試合後ユーゴーとオランダの第二回戦あり結局, 4対1でユーゴーの勝, 底力を発揮したかオランダを全々相手とせず一方的の勝利。

ユーゴーはハンガリーと違いプレーに派出な所はすこしもなく堅実そのもので防禦の堅さは天下一品である。併し攻撃は強さのみで押まくり変化に乏しいので結果からみて何時も点差はあまり開かない。

今次遠征から得た収穫反省と今後の方針

1. 国際試合(公式戦, エキジビジョン4)を数多く経験出来た事。

たとえ4勝(公式戦)しか出来なかったが選手の得た自信とチームワークは実に貴重なもので各試合平均4点得点出来たことは強化方針の一端が現はれたものと心強く感じている。

コーチとしてもこれ等の試合を通じて得た体験が今後の方針をたてる上によりき材料となったことは喜ばしい限りである。

2. 審判の判定を早く呑み込む要領

本場の試合に於て各審判の個性特質があり出来るだけ早く慣れる必要がある。各自の持つ特長を活かす早道であり, 全員が理解する必要がある。

又その場の雰囲気或いはピリオードにより多少異った判定をする場合があるが一度センターボールが投げられたら勝負の決するまで従はねばならず, 徒らにハッスルするだけでは空回りするばかりか, マイナスとなり勝利の女神は手の届かぬ所で笑えむ丈けである。

3. 泳耐力

今度の遠征で一番痛切に感じた事は耐久力の不足である。旅から旅への武者修業であるからどの試合にも最良のコンディションでのぞむ事は不可能であるが自己の技倆を活かし或はチームのコンビネーションを最大に発揮するには各自の泳耐力にまつ他なし,

全試合(四ピリオード)を全力で泳ぎ切る丈けの体力がどうしても必要だ。

4. 全体の総合力も必要であるが各自の個性(特長をもっとゲームに出すべきである。

5. セーフティ, フェーストと果敢のけじめ。

6. ボールのキープ

キープと云うのは攻撃の段階に入った時何時でも何処でも正確に投げられる確保でなければならぬ。

フローティングのキープ サイドマンのキープ B. W. 参加のキープ等

7. ジェスチャーの研究

8. ゾーン攻防

9. ペナルティスロー

10. 相手の攻撃力に適した防禦

11. 攻防転換時の動き

12. 選手が今後自己の特長を伸ばすと共に欠点の矯正に對してはもっと真剣に取り組むべきである。

最後に今度の欧州遠征にあたりハンガリーではライキ氏, 西独ではエミール, ハンツ, フリーデルの各氏, オランダではスモール氏に大変御世話になり, 目標達成に大いに尽力して戴いた事をここに深く感謝する次第です。



# 水泳競技における科学的原則の応用について

元オリンピック選手 ウィリアム・ヨーリック

(村岡慶夫訳)

筆者のヨーリック氏はいうまでもなく、メルボルンオリンピック 200m バタフライの優勝者で現在軍医大尉として駐日米軍に勤務中、此の文は水泳の進行を力学的に解析したもので、力学に弱い人にも分り易く記述されている。(編集)

本稿では水泳競技のコーチングに関連する諸問題、すなわち技術の教え方、トレーニング管理、神経学上の問題などを取り扱ってみたい。まずはじめにいわゆるシルビア泳法の基礎となっている科学的原理を述べ、次にこれを各種のストロークに応用してみる。次に水泳競技のコーチが常に直面する問題のうち、ストロークのテクニク以外の部分を取りあげる。

筆者はこの方面の考え方をチャールス・E・シルビア氏(マサチューセッツ州、スプリングフィールド大学体育学教授)に学んだ。同氏は長年筆者の親友でありコーチであったが、いわゆるシルビア泳法は、同氏の多年にわたる努力と研究の結晶なのである。

現在アメリカでは多くの水泳チームがこの泳法に従ってトレーニングを受けており、多大の成果をあげている。筆者の感ずるところでは、同法は運動競技に対する数少ない科学的・知的接近法の一つであって、創始者シルビア氏の功績は誠に偉大であると言える。

## 優勝者の特性

水泳競技における成績を左右する「4つの特性」が、トマス・K・キューアトン博士(イリノイ大学体育学教授)によってあげられている。その特性とは、

- (1) 身体構造上の素質
- (2) ストロークのメカニズム
- (3) 身体各器官の状態即ちコンディション
- (4) 水泳に対する態度=精神的状態

の4つである。これらの点の基礎をなす科学的な点に注意しつつ、やや詳しくみていこう。

## 身体構造上の素質

“身体構造上の素質”には類似のことばがたくさんある。“体格”“からだつき”“柔軟性”“弾力性”などである。これらのことばはいずれも根本的には同じ考え、つまり「将来優勝者になる素質をもつ者には、何かしら体型的な特徴があるはずだ。」に基いているのである。しかしながら、これは極めて曖昧な言い方で、事実しばし

ば誤解を生じている。今日では、他より抜きん出るためには或る特定の体型を持っていないといけない、などと考えている人はいないだろうと思う。しかし以前は、すぐれた水泳選手になるには、ワイズミューラーと同一の体型を持っていないといけないと考えられていたのだが、フォード・コンノやジョン・コンラツの出現によって、この考えの誤りがはっきりと示された。

“構造上の特性”という表現の含みは、むしろ肩のまわりの筋肉、膝、臀部、足の関節などにおける或る程度の弾力性を指している。また同時に、ムダなく動くためには遠心性、求心性の両神経が高度なものでなければならない事も含まれている。

しかし、このような諸性質をはじめから評価する事は非常に難しい。あるグループの中から水泳競技で秀れた成績を収めると予言できる人を選び出す方法があるかどうか。それは筆者も知らない。心臓及循環系の効率、呼吸器系の効率、神経細胞の質、知能などの他に、まだ1ダース以上の測定が必要なのであるが、これが難しいので、前記の評価は事実上不可能に近い。

## ストロークのメカニズム

これについて語る前に少し物理の原理とその水泳への応用について語らなければならない。

“ニュートンの運動の法則”——は陸上でも海上でも、全ての運動を支配する三つの原理を発見した。真空中を別とすれば、人間が動こうとする時は必ずこの法則に従っているのである。この法則とは次のようなものである。

### 1. 第1法則(慣性の法則)

静止した物体又は一定速度で直線上を運動している物体は、他から力が加えられない限りは、そのままの状態を続ける。

これを水泳に応用すると、ストロークの初めにあって腕や手にかかる抵抗慣性にうちかつには、意識して筋肉を動かさなければならない、という事になる。同様に、手が動いている時は動き続けようとする慣性があ

る。未完成の泳者がストロークの初めでよくやるように手を止めると、その結果一方の腕は静止し、その間に他方の手が先行した腕に重なってしまう。このためには筋肉の意識的な運動が必要であるが、このようなエネルギーの使い方はいずれも不要であり、従ってまた不当に疲労を招くことになる。こうした事実は、どんなストロークにもあてはまるものである。

## 2. 第2法則（加速度の法則）

物体のモーメントが変化する場合、加えられる力に比例し、その力の働く方向に作用する。

この法則の応用法はすでに明らかであろうが、第3法則と同時に考えれば更に一層明瞭になろう。従ってここでは次のように述べておくに止めよう。泳者が水中で前進するには、体の縦軸と平行な方向に水をかかなければならない。中線の方から少しでもそれれば、それだけスピードが落ちる結果となる。

## 3. 第3法則（作用と反作用の法則）

全ての作用には、同等で、反対向きの反作用がある。

諸法則の中で、最も誤解され、無視されているのは実にこの法則なのである。これは誠に残念なことで、実はこの法則は非常によく水泳に応用できるのである。

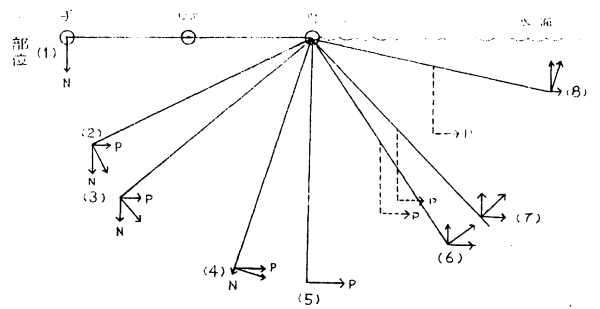
泳者がプール的一端に向かって前進するには水を後ろへかかなければならないが、この動作をすばやく効果的にすればするほどタイムは縮まる。

この法則を知れば直ちに、ある基本的な点が観察できる。すなわちクロールのストロークであるが、ストロークの初めであまりにも力を入れすぎる泳者が多い。力を入れるのが早すぎるので、下図でわかるように、水を下方に押すだけに終る。第3法則によって、水を他人より早く、効果的にかいた泳者がレースに勝つ、という事を思い出してほしい。水を下方に押すことにはどんな価値があるのだろうか。——体を持ち上げるだけである。従って泳者はプールの中でヨーヨーみたいに上下動を行なうことになるのである。

同様に、多くの泳者は、手を正しい位置におかず、前腕を屈曲させる筋肉の緊張を持続する傾向がある。この結果は水を上方に押し上げるだけであり、従って泳者を沈める効果がある。こうなると“ヨーヨー効果”はますます激しくなる。

前進する時のストロークが最も直効なのは、明らかに腕、手が体に対して有角になった時であって、この時には力は水を後方にかくため無駄なく使われる。この事は右図で水を後にかく力（P—プラス）および上下にかく力（N—マイナス）として示されている。

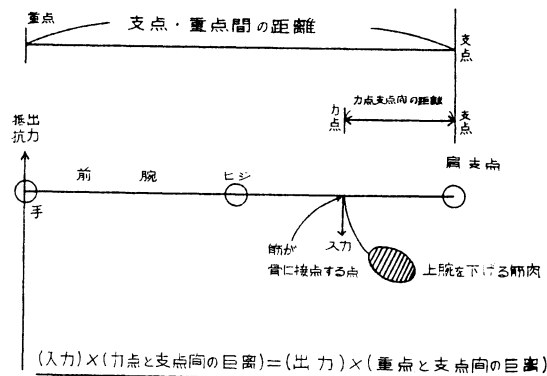
これではっきりするように、効率のいい泳者といえ、ストロークの間で推進力の最も強い部分、すなわち



真中の3分の2で最も力を入れる泳者のことになる。上の線図では肩はテコの支点と考えてよい。使われた力の方向は常に力の発生する表面（この場合、手）の正反対向きであり、これはベクトルで示される。このベクトルには力の大きさと方向が与えられていて、他のベクトルと同様2つの成分に分けられる。その一つは、プラス成分で、すでに説明したごとく、泳者を前進させるために水を後方にかく作用がある。他の一つはマイナス成分で、プラス成分以外の力は全部これである。図によって第1部位では、使われた力は全部マイナスになる。つまり水はまっすぐ下に押されるだけで、泳者を持ち上げる効果しかない。手が第2、第3部位を通過して垂直に近づくにつれて、マイナスの力が次第に減り、同時にプラスの力が増えて、遂には垂直の点で力が全部プラスに働くようになる。しかし、いったん垂直の点を通過してしまうと、腕が伸びている限りは、水を上にかくマイナスの力が大きくなってゆき、第6部位では、使われた力がほとんど全部水を上に押す効果をしめすので、泳者を前進させる代りに沈ませる結果しか出てこない。しかしながら、ヒジを曲げて、掌を正しい位置におけば、点線で示したように手が垂直の点を通過した後でも効果的に水を後にかくことが可能になる。この事実は次節でより明らかになる。

## テコの法則

物理学のこの原理によると、（入力）×（力点と支点の距離）＝（出力）×（重点と支点の距離）である。



抵抗（出力）＝後にかく水の量と速度  
入力＝筋肉の引つづる力

まず第2図をよく理解して、次に述べる事柄との関係を考えれば、この原理の水泳に対する意味が十分に理解されるだろう。

右図で、力点と支点の距離（筋肉が上腕で骨に接続する点から肩関節までの長さ）は、ちょっとやそつとで変えるわけにはいかない。泳いでいる間に絶えず外科手術をするのは不可能だから、当然のことである。従って簡単に変えられるのは、支点と重点の距離だけ、ということになる。ここでは一応重点は掌ということにしておこう。

さて、支点と重点の距離がいちばん伸びた時に50センチ、力点と支点の距離は不変で5センチ、そして筋肉の出力が25キログラムとテコの法則によって次の式が成り立つ。

出力をRとすると、

$$25 \times 5 = 50R \quad 2R = 5 \quad R = 2.5kg$$

2.5kgが腕を伸ばしきりにしておいた場合の出力である。だが、ヒジを曲げて支点と重点の距離を2.5センチにすれば次のようになる。

$$25 \times R = 25 \times 5 \quad R = 5kg$$

同じ力を使って出力を2倍にすることができるのである。たとえていえば、大きなハンマーの柄の端をにぎって肩の高さに保とうとするのはとても難しいが、ニギる部分がハンマーの頭に近ければ近いほどやさしくなるのと同じ事だ。この場合、ハンマーの重さは全く同じで、変化したのは重点と支点の距離だけである。この点が水泳にうまく応用されなければならないのだが、ストロークの種類を問わず、水泳中にヒジを曲げている泳者を筆者はまだ見た事がない。

この事実は各種のストロークに応用できるが、これについては次稿でストロークを一つ一つとりあげる際に詳述することにした。

## 神経学上の問題

筋肉の運動には随意的なものと不随意的なものがあるが、どちらも神経系によって支配されている。我々人類は他の動物には見られない独特の神経系に恵まれている。腸の蠕動、心臓の搏動といった無意識的なものを除けば、我々の運動はすべて自分の意識でコントロールできる。

人間の脳半球には中央裂溝と呼ばれるしわがある。この両側に重要な膨出部＝皮質がある。このしわより前の部分が運動領である。

脊髄神経繊維は、ここから始まって脊骨の中心に入ってゆく。この運動領が、すべての筋肉の運動を支配しているのである。この部分はまた中央裂溝のすぐ後部と連

絡している。後部は身体各部に受けるあらゆる刺激を受けとる知覚領である。ここに身体の各部にそれぞれ対応する部分があるわけだ。

おもしろい事に、舌と唇を除けば、知覚領の中で最も大きな部分を占めるのが、手足なのだ。つまり我々は、手や足から受ける知覚刺激が、舌と唇を除く、他のどの部分より多いという事になる。これから言えることは、手や足のポジションを考える方が、ヒジ、肩、膝の運動を考えるよりずっとやさしい、という事になる。

ここまで理解すれば、水泳への応用は極めて楽になる。手のポジションと運動に集中して泳げば、ずっと楽に従って早く泳げるようになる。この考えはシルビア氏が“手足集中泳法”と呼んでいるものである。

## 身体各器官の状態（コンディション）

コンディションが競技に勝つために重要な役割を果たすということは疑いをいれない。筆者の意見では、従来はこの点があまりにも重視されて来ており、勝つためにはコンディションに劣らず重要な他の面に十分な注意が向けられていなかった。この稿の読者は皆、同じトレーニングをした選手が同じ成績をあげるとは限っていないことをよく御承知であろう。それはどうしてであろうか。全選手が全く同じ練習をしたからといって同一コンディションだとは言えない。そうすると何か他の原因があるに違いない。おそらくは泳者の知能か、コーチの指導か、環境から来る要因、その他か、あるいは、これら全部が一緒に働いているのかもしれない。時が来たら、この問題のいろいろな側面を次稿で一つ一つ詳しくとりあげてみたいと考えている。

## 精神状態

この問題を最後に論じることにしたのは、重要でないからでは決してない。むしろ最も重要なのがこの問題かもしれない。これは“やる気”のあるなしだけの問題ではなく、水泳に対する知的な近づき方の全領域にまたがる問題である。——コーチの要求に従えるかどうか、常に理解しようと努めるかどうか、正しい方向に精神を集中できるかどうか、などの他に、これらすべてが、タイミングよく行なえるかどうかもみなこの問題に含めて考えるべきである。

要するに、早く泳ぎたい、という欲望だけでは不十分なのである。実のところ、この欲望が泳者の心の焦点となれば、最もまずい結果を引き出すことにもなりかねないのである。“うまくやろう”とっていてタイムがよくなったとしても、泳者の心は原因側というより結果側に属する事が多い。このような状態からいい結果が生ま

## ユニバーシアード大会に選手派遣

第4回ユニバーシアード大会は昭和38年8月30日から9月8日迄ブラジルのボートアレグレで開催され日本は陸上、水上、水球、テニス、フェンシング、体操の6種目に66人の選手が参加した。この大会の参加資格は大学生と大学卒業後2年以内の社会人であることだが今回の水泳関係選手は水球を除き、全部社会人で占められた。

この中競泳関係は7月14日神宮プールで行なわれた選考競技会の結果により、又飛込、水球は選考委員会の協議によって次のように決定した。(合計22名)

競泳 コーチ 北村 康雄(競泳強化委員)  
選手 吉無田 春男(八幡製鉄早大出)  
福井 清(大洋漁業 早大出)  
藤本 達夫(松下電器 中大出)  
梅本 利三( " 早大出)  
中島 功(B.S.タイヤ 日大出)  
三好 恭弘(三好製紙 中大出)  
飛込 コーチ 馬淵 良(飛込強化委員)  
選手 金戸 俊介  
(リッカーミシン 日大出)

伊藤 勝(三和化学 日大出)

水球 監督 村瀬友三郎(水球強化委員)

コーチ 近藤静夫( " )

選手 住谷栄之資(慶大)

古賀 礼典(日大)

青山 礼三(日大出)

井上 宏(慶大)

桑山 博克(日大)

川端 信也(早大)

皐月 敬左(早大)

米原 邦夫(日大)

竹内 和也(早大)

浜田 敏明(早大)

一行の日程は次の通り

出発 8月21日

帰国 9月12日

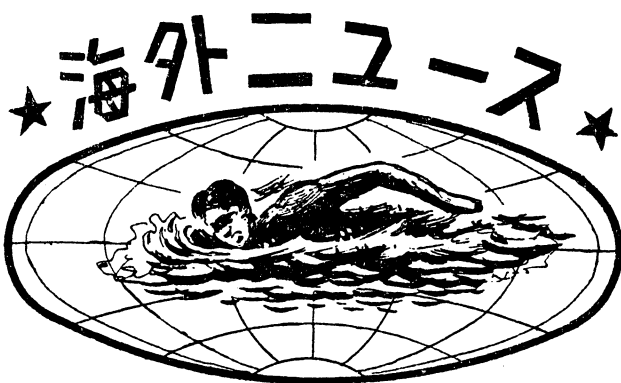
競技記録の詳細については別に掲載するが、競泳吉無田の400、1500と400mリレーの優勝、飛込金戸の両種目制覇と輝やかなものであった。

れるはずがない。

相も変わらず、泳者は気ばかりあせて固くなってしまふ。自分にも体がつっぱっているのが感じられ、レースの終りには完全に疲れ果ててしまう。疲れ果ててしまうというのは緊張が強すぎるからであって、緊張が強すぎるというのはまた気が逸りすぎるからだ。筆者の意見では、うまく泳げた場合には疲れ果ててしまうというよりは、むしろ、レースが終わっても自分でプールから上がり、5分間も休めばまた飛びこんで、前より早く泳げそうな気がするものなのである。秀れた泳者の多くは筆者の意見に賛成してくれるものと信じている。タイムを上

げることだけを考えていたのでは、決してこのような感じにはなれない。

この事は、精神状態ということばで表わされるいろいろな側面中の一つである。こうした精神状態には、たやすく達せられるものではない。それには忍耐と根性が必要だが、そこまで到達すれば前よりは良い泳者になれるし、泳者の側から言っても常になにかしらよりどころを持つ事ができるようになるのである。それにしてもこれはアイマイなもので、この状態までになるには多くの練習と絶えざる指導が必要とされることは言うまでもない。



前号に引きつづき主な海外情報をお送りする。主として米国とヨーロッパの分であるが米国のおそるべき層の厚さ、ヨーロッパの油断のならない新人輩出等に注目されたい。これに、これからシーズンの始まる豪州の結果が分る昭和39年2月末頃には東京大会の顔ぶれが大見当がつくと思う。

(坂本 宗隆)

### 南アメリカ

◎パン・アメリカン 4/21~28 サンパウロ (50m)

#### 男子

100 自	予	決
1 S. クラーク (米)	54.7	54.7
2 S. ジャックマン (〃)	57.6	54.8
3 D. シェリー (加)	56.6	56.1
4 S. ギルクリスト (〃)	56.3	56.5
5 A. アヴィラ・ピレス (伯)	56.2	56.8
6 L.A. ニコラオ (亜)	55.9	56.9

400 自		
1 R. サアリ (米)		4:19.3
2 D. ショランダー (〃)		4:23.3
3 S. ギルクリスト (加)		4:29.1

1,500 自		
1 R. サアリ (米)		17:26.2
2 S. ギルクリスト (加)		17:58.9
3 R. ハットン (〃)		18:08.6

200 平		
1 C. ジャストレムスキー (米)		2:35.4
2 マーテン (〃)	2:38.6	2:38.4
3 J. ケルソ (加)		2:41.4

200 バ		
1 R. ロビー (米)		2:11.3
2 F. シュミット (〃)		2:13.3
3 L.A. ニコラオ (亜)		2:16.1

100 背		
1 E. バーチェ (米)		1:01.5
2 C. ビティック (〃)		1:02.1

3 A.P. デ・オリヴェイラ (伯)	1:03.2
800 継	

1 アメリカ	8:16.9
--------	--------

400 混継	
1 アメリカ	4:05.6

#### 女子

100 自		
1 T. スティックルス (米)		1:02.8
2 K. エリス (〃)		1:03.5

200 自		
1 R.A. ジョンソン (〃)		2:17.5
2 T. スティックルス (〃)		2:18.4

400 自		
1 S. フィネラン (〃)		4:52.7
2 R.A. ジョンソン (〃)		4:56.1

200 平		
1 A. ドリスコール (〃)		2:56.1
2 R. ホイップル (〃)		2:57.7

100 バ		
1 K. エリス (〃)		1:07.6
2 M. ステュワート (加)		1:08.9

100 背		
1 N. ハーマー (米)		1:11.5
2 C. フェーグスン (〃)		1:13.1

400 継		
1 アメリカ		4:15.7
400 混継		
1 アメリカ		4:49.1

### アメリカ

◎ロスアルトス 7/4 フットヒル大学 (50m)

400 継			
1 サンタ・クララ			3:39.3 (世新)
	(クラーク・ジョンソン・ショランダー・		
	54.6	56.6	53.6
	タウンゼンド)		
	55.1		

女 400 継		
1 サンタ・クララ		4:09.3 米新
	(スティックルス・ワトソン・ヘインズ・	
	デ・ヴェロナ)	

◎西部選手権 7/11-14 ロス・アルトロ (50m)

#### 男子

100 自		
1 D. ショランダー		55.0
2 G. イルマン		55.1

3 S. クラーク	55.4	100 バ	
200 自		1 D. デ・ヴェロナ	1:08.1
1 D. ショランダー	2:00.7	200 バ	
2 G. イルマン	2:03.3	1 S. フィネラン	2:31.2
400 自		100 背	
1 D. ショランダー	4:18.7	1 C. ファーグスン	1:09.1
	(米新)	2 D. デ・ヴェロナ	1:09.6
2 H.-J. クライン (西独)	4:29.9	200 背	
1,500 自		1 C. ファーグスン	2:30.9
1 K. ウエップ	17:44.3	400 混	
2 R. サアリ	17:45.8	1 D. デ・ヴェロナ	5:23.2
3 C. シリンスキー	17:50.6	2 S. フィネラン	5:26.1
100 平		400 継	
1 W. クレイグ	1:11.8	1 サンタ・クララ	4:15.7
100 バ		400 混継	
1 G. イルマン	59.8	1 サンタ・クララ	4:44.0
200 バ		◎ロス・アンゼルス招待 7/25-28 (50m)	
1 K. ウエップ	2:15.1	<b>男 子</b>	
100 背		100 自	
1 R. ベネット	1:03.5	1 H.-J. クライン (西独)	55.9
400 混		200 自	
1 R. ロス	4:54.8	1 D. ショランダー	1:58.8 (世新)
2 K. ウエップ	4:59.9	2 H.-J. クライン (西独)	2:02.6
400 継		400 自	
1 サンタ・クララ	3:42.2 (世新)	1 D. ショランダー	4:20.6
(タウンゼンド・ショーマン・クラーク・		2 W. ファーレー	4:25.3
ショランダー)		1,500 自	
800 継		1 D. ショランダー	17:27.7
1 サンタ・クララ	8:22.7	2 W. ファーレー	17:41.3
400 混継		100 平	
1 ロス A. C.	4:13.1	1 W. クレイグ	1:10.1
<b>女 子</b>		200 平	
100 自		1 W. クレイグ	2:36.4
1 D. デ・ヴェロナ	1:02.2	200 バ	
2 T. スティックルス	1:02.9	1 K. ウエップ	2:14.7
200 自		200 背	
1 T. スティックルス	2:15.4	1 R. ベネット	2:16.7
2 C. ハウス	2:15.9	400 混	
400 自		1 R. ロス	4:57.1
1 C. ハウス	4:45.2	2 K. ウエップ	4:59.4
2 S. フィネラン	4:46.7	<b>女 子</b>	
1,500 自		100 自	
1 C. ハウス	19:10.0	1 S. ストウダー	1:02.1
2 A. リチャードスン	19:14.5	2 L. ワトスン	1:02.2
200 平			
1 G. コルブ	2:55.0		

3	T. スティックルス	1:02.5
4	M. テムブルトン	1:02.6
200 自		
1	C. ハ ウ ス	2:15.6
2	M. ラメノフスキー	2:16.1
3	L. ジョンスン	2:16.4
4	T. スティックルス	2:17.3
5	C. フェーグスン	2:17.3

400 自		
1	M. ラメノフスキー	4:45.0
2	T. スティックルス	4:45.9
3	C. ハ ウ ス	4:46.9
4	S. フィネラン	4:47.0

1,500 自		
1	S. フィネラン	18:52.4
2	C. ハ ウ ス	18:59.3
3	G. アムブローズ	19:25.3

200 平		
1	S. ニ ッ タ	2:54.5
2	K. ギメネツ	2:55.4

100 バ		
1	D. デ・ヴァロナ	1:08.1
2	S. ストウダー	1:08.2

200 バ		
1	S. フィネラン	2:33.4
2	K. ウオーレー	2:33.4
3	C. ハ ウ ス	2:34.5

100 背		
1	D. デ・ヴァロナ	1:08.9 (世新)
2	C. フェーグスン	1:10.3

200 背		
1	D. デ・ヴァロナ	2:30.4 (米新)
2	J. ハロウン	2:34.6

200 混		
1	D. デ・ヴァロナ	2:31.8

400 混		
1	S. フィネラン	5:25.3
2	G. アムブローズ	5:26.1

400 継		
1	サンタ・クララ	4:15.4

400 混継		
1	ロス A. C.	4:45.9

◎全米男子戸外選手権 イリノイス 8/9~11 (50m)  
 此の大会の結果によって、日米対抗に出場する米国選手が決定した。

100 自		
-------	--	--

1	S. クラーク	54.2 (米新)	54.9
2	M. オースティン	55.3	55.2
3	G. イルマン	55.4	55.2
4	R. マグドノオー	54.5	55.3
5	R. ホーグ	56.0	55.4
6	R. ブリック	55.4	55.6

200 自			
1	D. ショランダー	2:01.9	1:59.0(世新)
2	R. サアリ	2:02.6	2:01.1
3	E. タウンゼンド	2:03.4	2:01.5
4	R. マグドノオー	2:03.1	2:02.3
5	G. イルマン	2:03.6	2:02.5
6	R. ブリック	2:03.9	2:02.7

400 自			
1	D. ショランダー		4:17.7
2	W. フェーレー		4:21.6
3	R. サアリ		4:22.3
4	G. ヴァンホーフェン		4:25.2

1,500 自			
1	R. サアリ		17:34.6
2	D. ショランダー		17:34.9
3	R. コグヒル		17:40.3
4	W. フェーレー		17:40.5

100 平			
1	W. クレイグ	1:10.2	1:10.2
2	T. トレセウエー	1:10.9	1:10.8
3	K. マーテン	1:12.0	1:11.5

200 平			
1	K. マーテン		2:34.5
2	W. クレイグ		2:35.2

100 バ			
1	W. リチャードスン		58.8
2	F. シュミット		58. <sup>8</sup>
3	C. ロビー		59.2
4	L. シュルホフ	59.2	59.2

200 バ			
1	C. ロビー	(1:01.8)	2:08.8
2	K. ベリー (蒙)	(1:02.1)	2:09.8
3	F. シュミット	(1:02.1)	2:11.3
4	W. リチャードスン	(1:01.2)	2:11.9

100 背			
1	R. マクゲイ		1:01.7
2	R. ベネット		1:01.8
3	T. ストック		1:02.0

200 背			
1	T. ストック	(1:02.8)	2:12.4

2 E. パーチャ (1:06.4) 2:15.6  
 3 J. グラーフ (1:04.4) 2:15.3

200 混

1 R. ロス 2:16.0  
 2 T. スティックルス 2:17.9

400 混

1 T. スティックルス 4:55.0  
 2 R. ケンドリックス 4:56.7  
 3 R. ロス 4:51.9

800 継

1 サンタ・クララA 8:07.6 (世新)  
 (タウンゼンド・ウォール・クラーク・ジョランダー)

400 混継

1 インディアナポリスA 4:04.9  
 (ストック・トレセウエー・シュミット・ブリック)

飛板飛込

1 L. アンダーセン 537.90  
 2 R. ギルバート 529.30  
 3 T. ゴムブ 528.95

高飛込

1 T. ゴムブ 443.65  
 2 アンドリーセン 433.45

得点: ①インディアナポリス106.5 ②サンタ・クララ45  
 ②ロサンゼルス45 ④ヴァーデュゴ26  
 ⑤ゴファー20

個人最高得点 D. ジョランダー 19

◎全米女子戸外選手権 北カロライナ 8/14-17 (50m)

100 自

1 R. ジョンソン ⑩ 1:01.5  
 2 K. エリス 1:01.8  
 3 C. プァーグスン 1:02.4  
 4 P. ワトソン ⑬ 1:02.9  
 5 T. スティックルス 1:03.0  
 6 S. ストウダー 1:03.1

200 自

1 R. ジョンソン 2:15.6  
 2 C. ハウス 2:15.7  
 3 M. ラメノフスキー 2:17.0  
 4 T. スティックルス 2:17.5  
 5 P. ワトソン 2:18.0

400 自

1 R. ジョンソン 4:46.8  
 2 C. ハウス 4:47.2  
 3 S. フィネラン 4:49.3  
 4 G. デュエンケル 4:49.5  
 5 M. ラメノフスキー 4:49.0

1,500 自

1 G. デュエンケル ⑯ 18:57.9  
 2 S. フィネラン 18:59.0  
 3 C. ハウス 19:36.2

100 平

1 J.A. デレキムプ ⑰ 1:20.7

200 平

1 J.A. デレキムプ 2:53.4

100 バ

1 K. エリス (31.4) 1:06.5 (世新)  
 2 D. デ・ヴァロナ 1:08.8 1:08.3  
 3 J. フォウラー ⑭ 1:09.2  
 4 M. テムブルトン 1:08.5 1:09.3

200 バ

1 S. フィネラン ⑰ 2:31.8  
 2 P. ハグード ⑮ (1:11.2) 2:33.2  
 3 S. ピット (1:11.6) 2:33.3

100 背

1 C. プァーグスン ⑮ 1:09.2  
 2 D. デ・ヴァロナ 1:09.5  
 3 V. デュエンケル 1:10.5

200 背

1 V. デュエンケル 2:30.8  
 2 C. プァーグスン 2:32.3  
 3 N. ハーマー 2:33.8

400 混

1 D. デ・ヴァロナ 5:24.5  
 2 S. フィネラン 5:25.9

400 継

1 ロサンゼルス 4:13.7

400 混継

1 ロサンゼルス 4:44.4

カナダ

◎選手権 7/23~27 モントリオール (50m)

100 自

1 D. シェリー ⑰ 55.6 (加新)  
 2 S. ギルクリスト 56.6

200 自

1 S. ギルクリスト 2:03.2 (加新)  
 2 D. シェリー 2:03.3

400 自

1 S. ギルクリスト 4:26.0 (加新)

1,500 自

1 S. ギルクリスト 18:00.6

100 平



1 S. ラビノヴィッツ 1:11.2 (加新)  
 100 バ  
 1 D. シェリー 59.3 (〃)

中 共

◎中共—インドネシア 8/ 北京 (50m)

100 自  
 1 符 大 進 55.8  
 2 A. ディムヤティ 56.0  
 100 平  
 1 莫 国 雄 1:10.3  
 200 平  
 1 莫 国 雄 2:40.3

ソ 連

◎豪州—ソ連 5/8-9 モスクワ (50m)

100 自  
 1 D. ディクソン 55.6  
 2 R. ウィンドル 55.7  
 3 Y. スムツォフ (ソ) 56.4  
 400 自  
 1 R. フェーガン 4:27.4  
 1,500 自  
 1 R. ウィンドル 17:14.3  
 2 G. アンドロソフ (ソ) 17:47.5  
 200 平  
 1 A. カレトニコフ (〃) 2:32.4 (欧新)  
 2 L. コレスニコフ (〃) 2:34.3  
 200 バ  
 1 K. ベリー 2:10.8  
 2 V. クジミン (ソ) 2:12.7 (ソ新)  
 200 背  
 1 V. マザノフ (ソ) 2:17.4  
 2 L. バルビエフ (〃) 2:17.4  
 400 混  
 1 G. アンドロソフ (〃) 5:01.4

◎全ソ体育大会 8/10-15 モスクワ (50m)

男 子

100 自  
 1 V. コノブレフ 56.4  
 2 J. スムツォフ 56.4 56.6  
 3 V. モーレフ 56.8 56.7  
 4 V. シュワロフ 56.7  
 400 自  
 1 S. ベリッツ・ゲイマン 4:26.5 (ソ新)  
 2 P. ピカロフ 4:27.9

1,500 自  
 1 P. ピカロフ 17:44.8  
 2 S. ベリッツ・ゲイマン 17:49.5

100 平  
 1 M. ファラフォノフ 1:09.6

200 平  
 1 I. カレトニコフ 2:36.3 (1:12.5) 2:31.9 (欧新)  
 2 L. コレスニコフ (1:14.0) 2:36.2  
 3 J. フニコフ 2:37.7 (1:1.51) 2:36.5  
 4 M. ファラフォノフ (1:15.7) 2:37.0  
 5 A. サフロノフ 2:36.9 (1:14.0) 2:37.0

200 バ  
 1 V. クジミン (1:05.0) 2:14.9  
 2 O. フォティン (1:06.0) 2:18.7  
 3 A. ボウアー (1:06.8) 2:18.8

200 背  
 1 V. マザノフ (1:05.7) 2:17.6  
 2 G. クレイス (1:06.1) 2:18.7

400 混  
 1 G. アンドロソフ 5:02.1  
 2 B. ガヴリロフ 5:04.9

女 子

200 平  
 1 G. プロズミシニコワ 2:54.8

100 バ  
 1 V. ヤコブレワ 1:11.1

100 背  
 1 ヴィクトロワ 1:11.3 (ソ連新)

ス ウ ェ ー デ ン

◎選手権 7/中旬 パースタッド (50m)

男 子

100 自  
 1 P.-O. リンドベリー (26.0) 54.3 (欧新)

200 自  
 1 M. スヴェンソン 2:02.0 (典新)

1,500 自  
 1 H. ローゼンダール (9:17.9) 典新 17:40.2 (〃)  
 2 M. スヴェンソン 17:55.5

女 子

100 自  
 1 A.-C. ハグベリー 1:02.2 (欧新)

◎典 51-36 西独 8/17-18 オレプロ (50m)

女 子

100 自

1 A.-C. ハグベリー	1:01.8
400 自	
1 E. リュングレン	4:55.7
200 平	
1 W. ウルセルマン (西独)	2:50.8
2 M. ホフマン (〃)	2:50.8
100 バ	
1 K. ステンバック	1:09.6
400 継	
1 スエーデン	4:14.1

イギリス

◎英 112-84 典 7/12-13 ブラック・プール (55y 塩)

男子

110y 自	
1 R. マクグレガー (英) (26.2) 54.4 (y世新)	
2 P.-O. リンドベリー	56.5
440y 自	
1 H. ローゼンダール	4:30.2
220y バ	
1 B. ジェンキンス (英)	2:19.3
440y 混	
1 J. マティーセン (〃)	5:13.4 (英新)
880y 継	
1 スエーデン	8:22.7
440y 混継	
1 イギリス	4:19.5

女子

110y 自	
1 D. ウイルキンソン (英)	1:03.0
440y 自	
1 E.C. ロング (英)	4:52.9 (英新)
220y 平	
1 S. ミッチェル (〃)	2:52.5
110y バ	
1 K. ステンバック	1:09.1 (典新)
2 G. フィリップス (英)	1:10.1 (英新)
110y 背	
1 L. リュドグローヴ (〃)	1:10.7 (〃)
440y 混	
1 A. ロンスブロー (〃)	5:36.8
440y 継	
1 スエーデン	4:17.6
440y 混継	
1 イギリス	4:50.7

◎英選手権 8/30-9/1 ブラックプール (55y 塩)

男子

110y 自	
1 R. マクグレガー (25.3) 54.1 (世新)	
220y 自	
1 R. マクグレガー	2:04.8
440y 自	
1 J. マーティン・ダイ	4:31.3
220y バ	
1 B. ジェンキンス	2:17.6 (英新)

女子

110y 自	
1 D. ウイルキンソン	1:03.3
220y 自	
1 A. ロンスブロー	2:19.7
440y 自	
1 E.C. ロング	4:52.4
220y 平	
1 S. ミッチェル	2:52.6
110y バ	
1 M. ステュワート (加)	1:08.6
2 G. フィリップス	1:09.6
110y 背	
1 L. リュドグローヴ	1:11.7
440y 混	
1 A. ロンスブロー	5:37.2

◎六国対抗 9/13-14 ブラックプール (55y 塩)

英 92-典 90-西独 90-和 73-伊 52-仏 43

男子

110y 自	
1 R. マクグレガー <sup>19</sup> (英) (25.2) 54.0 (y世新)	
2 A. ゴットヴァーレ (仏)	55.0
3 P.-O. リンドベリー (典)	55.7
440y 自	
1 G. ヘッツ (西独)	4:23.6
2 M. スベンスン (典)	4:25.3
220y 平	
1 W. メンソニデス (和)	2:38.0
220y バ	
1 W. フライタク (西独) (1:04.3) 2:13.9 (西独新)	
2 F. デンネルライン (伊) (1:03.6) 2:14.9	
3 B. ジェンキンス (英) (1:04.5) 2:14.9	
220y 背	
1 E.-L. キュッパース (西独)	2:18.7
880y 継	
1 スエーデン	8:22.6

## 440Y 混継

1 西 ド イ ツ 4:11.4

## 女 子

## 110Y 自

1 D. ウイルキンスン (英) 1:03.3  
2 A.-C. ハグベリー (典) (30.2) 1:03.3

## 440Y 自

1 E. リュングレン (〃) 4:51.9  
2 E.C. ロ ン グ (英) 4:52.1  
3 I. ティヘラール (和) 4:53.4

## 220Y 平

1 S. ミ ッ チ ェ ル (英) (1:23.4) 2:51.4  
(世新)

## 110Y バ

1 K. ステンバック (典) 1:09.0  
2 A. コ ッ ク (和) 1:09.3

## 110Y 背

1 L. リュドグローヴ (英) 1:10.3 (英新)  
2 C. キ ャ ロ ン (仏) 1:10.3

## 440Y 自

1 ス エ ー デ ン 4:17.1

## 440Y 混継

1 イ ギ リ ス 4:47.2

◎英 143-124 ハンガリー 10月 ブラックプール

(55Y 塩)

## 男 子

## 110Y 自

1 R. マクグレガー 55.0  
2 G. ド バ イ (洪) 56.4

## 440Y 自

1 J. カ ト ナ (〃) 4:30.6

## 1,650Y 自

1 J. カ ト ナ (〃) 18:03.3

## 220Y バ

1 B. ジェンキンス 2:15.8

## 220Y 背

1 J. チ カ ニ ー (洪) 2:20.4

## 440Y 継

1 イ ギ リ ス 3:47.4

## 440Y 混継

1 ハ ン ガ リ ー 4:14.5

## 女 子

## 220Y 平

1 S. ミ ッ チ ェ ル 2:50.2 (Y世新)

## オ ラ ン ダ

◎選手権 7/17-18 アペルドーン (50m)

男子は少しレベルが落ちるので女子の成績だけ。

## 女 子

## 100 自

1 E. テルプストラ 1:03.6

## 1,500 自

1 I. ティゲラール 19:56.4

## 100 平

1 K. ビ モ ル ト 1:19.8

## 200 平

1 K. ビ モ ル ト 2:49.3

## 100 バ

1 A. コ ッ ク 1:09.9

## 100 背

1 M. ファン・フェルゼン 1:11.3

## 400 混

1 A. ラステリー 5:41.2

◎ユトレヒト国際 9/上旬 (50m)

## 男 子

## 100 自

1 O. ヤコブセン (西独) 56.1

2 R. ク ロ ー ン 56.5

## 400 自

1 J. ボンテコー 4:31.6

## 200 平

1 H. ヴリエンス 2:38.8

## 100 バ

1 J. イスクット 1:00.4

## 女 子

## 100 自

1 I. ティヘラール 1:04.4

## 400 自

1 E. リュングレン (典) 4:48.0

## 100 平

1 K. ビ モ ル ト 1:20.3

## 200 平

1 K. ビ モ ル ト 2:50.0

## 100 バ

1 A. コ ッ ク (30.8) 1:06.1 (世新)

2 K. ステンバック (典) 1:10.5

## 100 背

1 C. ウインケル 1:10.4

## 200 背

1 C. ウインケル (1:11.8) 2:32.3 (欧新)

西 独

◎ソ連 62-51 西独 9/21-22 シュンヘン

100 自		
1 H.-J. クライン	55.1 (西独新)	
2 H. ロフラー	56.5	
3 V. シュパロフ (ソ連)	56.5	
400 自		
1 G. ヘ ッ ツ	4:26.7	
100 平		
1 J. フニコフ (ソ連)	1:11.6	
200 平		
1 I. カルトニコフ (〃)	2:32.9	
2 J. フニコフ (〃)	2:34.8	
100 バ		
1 W. フライタク	1:00.9	
200 バ		
1 V. クジミン (ソ連)	2:13.2	
100 背		
1 V. マザノフ (〃)	1:01.5	
200 背		
1 V. マザノフ (ソ連)	2:15.7 (西独新)	
400 混		
1 G. ヘ ッ ツ	4:55.8	
800 継		
1 ソ 連	8:18.4 (ソ連新)	
400 混継		
1 西 ド イ ツ	4:09.9 (西独新)	
2 ソ 連	4:09.9 (ソ連新)	
◎西独 126-119 和 9/28-29 ドルトムント		
男 子		
100 自		
1 H.-J. クライン	55.8	
400 自		
1 G. ヘ ッ ツ	4:27.1	
1,500 自		
1 〃	18:13.3	
200 平		
1 H. ムラゼック	2:34.5 (西独新)	
200 バ		
1 H. ロッター	2:17.0	
200 背		
1 E.-J. キュッパース	2:19.6	
400 継		
1 西 ド イ ツ	3:42.5	
400 混継		

1 西 ド イ ツ	4:07.6 (欧新)	
女 子		
100 自		
1 ティヘラー (和)	1:03.6	
400 自		
1 〃 (〃)	4:57.8	
200 平		
1 W. ウルセルマン	2:49.8	
2 K. ビモルト (和)	2:50.0	
100 バ		
1 H. フステード	1:09.9	
100 背		
1 C. ウィンケル (和)	1:10.1	
400 継		
1 オ ラ ン ダ	4:17.8	
400 混継		
1 オ ラ ン ダ	4:44.0	

東 独

◎豪州 49-29 東独 5/11 ライプツィヒ (50m)

100 自		
1 D. ディクソン (豪)	55.6	
2 F. ヴィーガント	56.0	
400 自		
1 R. ウィンドル (豪)	4:24.4	
2 R. フェーガン (〃)	4:29.4	
3 F. ヴィーガント	4:29.6	
100 平		
1 I. オブライエ (豪)	1:11.0	
2 E. ヘンニンガー	1:12.8	
100 バ		
1 K. ベリー (豪)	58.5	
100 背		
1 R. クンツェ	1:04.6	
2 W. ワグナー	1:04.9	
400 混継		
1 豪 州	4:14.5	
◎豪州 81-61 東独 5/12 ベルリン (50m)		
1,500 自		
1 R. ウィンドル (豪)	17:54.4	
200 平		
1 I. オブライエ (〃)	2:41.6	
200 バ		
1 K. ベリー (〃)	2:14.0	
400 混		
1 W. ワグナー	5:11.4	

400 継  
 1 豪 州 3:45.5  
 番外女子  
 100 平  
 1 B. ゲ ベ ル 1:19.8  
 2 U. キ ュ ー バ ー 1:20.0  
 ◎東独 155-112 英 8/3-4 ライプツィヒ (50m)  
 男 子  
 100 自  
 1 R. マググレーガー (英) 56.8  
 400 自  
 1 F. ヴィーガンツ 4:29.3  
 1,500 自  
 1 W. J. ケネディー (英) 18:25.9  
 200 平  
 1 I. ヘンニンガー 2:36.6 (東独新)  
 200 バ  
 1 B. ジェンキンス (英) 2:19.5  
 200 背  
 1 W. ワグナー 2:20.6  
 400 継  
 1 東 独 3:46.3 (東独新)  
 女 子  
 100 自  
 1 D. ウイルキンソン (英) 1:02.4  
 2 H. ベヒスタイン 1:03.5  
 400 自  
 1 E. C. ロング (英) 4:54.7  
 200 平  
 1 S. ミッチェル (〃) 2:49.2  
 2 K. バイエル 2:51.9  
 100 バ  
 1 U. ノアーク 1:09.2 (東独新)  
 100 背  
 1 L. リュドグローヴ (英) 1:09.9  
 400 混  
 1 A. ロンスブロー (〃) 5:37.6  
 400 継  
 1 イ ギ リ ス 4:17.0  
 400 混継  
 1 東 独 4:41.4

オープン  
 女 100 平  
 1 K. バイエル 1:19.8  
 2 B. グリムマー 1:20.1  
 ◎ライプツィヒ 9/7 (55y)  
 女 子  
 110y バ  
 1 U. ノアーク 1:09.0 (東独新)  
 220y 背  
 1 I. シュミット 2:32.6 (〃)  
 440y 混継  
 1 東 独 4:44.7 (世新)

### フ ラ ン ス

◎グランプリ 7/13-14 パリ (50m)  
 男 子  
 100 自  
 1 A. ゴットヴァーレ 55.6  
 2 G. ドバ イ (洪) 56.4  
 200 自  
 1 G. ヘ ッ ツ (西独) 2:04.8  
 400 自  
 1 G. ヘ ッ ツ 4:27.8  
 200 背  
 1 E.-J. キュッパース (西独) 2:16.6  
 女 子  
 100 自  
 1 C. マダラズ (洪) 1:03.9  
 100 平  
 1 K. ビモルト (和) 1:19.0 (和新)  
 2 W. ウルゼルマン (西独) 1:19.8  
 200 平  
 1 K. ビモルト (和) 2:49.0  
 2 W. ウルゼルマン (西独) 2:52.1  
 100 バ  
 1 H. フステード (〃) 1:09.5 (西独新)  
 2 A. コ ッ ク (和) 1:09.8  
 100 背  
 1 C. キャロン 1:09.6 (欧新)  
 200 背  
 1 C. キャロン (1:15.2) 2:33:5 (〃)

# 昭和39年度オリンピック水泳候補選手

昭和38年9月23日強化本部会によって決定した上記選手は次の通りである。

競 泳	男 子	48 名	} 計	79 名
	女 子	31 名		
飛 込	男 子	10 名	} 計	17 名
	女 子	7 名		
水 球	男 子	17 名		
合 計				113 名

## 競 泳 男 子

(註) 年令及最高記録は昭和38年9月現在

氏 名	所 属	年令	出身県	最 高 記 録	身長	体重	胸囲
岡 部 幸 明	早 大4	22	島 根	自100m 55.4 200m 2:03.1	167	67	96
後 藤 忠 治	日 大4	21	千 葉	自 " 55.9 " 2:04.8	180	70	99
石 原 勝 記	BSタイヤ	24	熊 本	自 " 56.1	167	68	98
福 井 清	大洋漁業	23	奈 良	自 " 56.3	176	77	102
岩 崎 邦 宏	早 大1	18	大 分	自 " 56.6 200m 2:03.6	175	74	100
山 中 毅	大洋漁業	24	石 川	自200m 2:00.4 400m 4:16.6	173	75	104
福 井 誠	八幡製鉄	23	島 根	自 " 2:01.3 " 4:22.8	170	70	97
藤 本 達 夫	松下電器	23	兵 庫	自 " 2:02.7 " 4:25.1	177	66	95
庄 司 敏 夫	BSタイヤ	23	千 葉	自 " 2:04.7 " 4:29.5	177	70	95
吉無田 春 男	八幡製鉄	23	熊 本	自 " 2:04.4 " 4:26.6	174	75	98
佐々木 末 昭	中 大3	20	大 分	自400m 4:26.6 1500m 17:27.6	174	66	98
藤 島 祥 三	早 大1	18	山 口	自 " 4:26.9 " 17:38.2	170	62	92
岩 本 和 行	柳井商工2	16	"	自 " 4:30.1 " 17:51.6	164	55	90
中 野 悟	桜宮高2	16	大 阪	自 " 4:27.9 " 17:57.4	175	75	100
山 田 忠 信	早 大2	20	石 川	自 1500m 18:09.8	170	70	95
米 井 要	柳井商工1	15	山 口	自 " 18:14.4	170	65	95
糺 山 稔	日本鋼管	18	栃 木	自 " 18:17.0	162	62	96
木 田 和 夫	佐伯鶴城2	17	熊 本	自 " 18:19.5	167	58	93
高 瀬 悦二郎	八代東高1	16	熊 本	自 " 18:29.3	173	68	98
浜 口 哲 也	日大豊山1	16	東 京	自400m 4:29.4 1500m 18:31.3	175	70	95
桑 原 茂	中京中3	15	愛 知	自 400m 4:37.8	162	65	90
松 本 健次郎	早 大2	20	大 分	平100m 1:09.8 200m 2:32.6	170	70	95
石 川 健 二	日大豊山3	17	高 知	平 " 1:09.8 " 2:33.8	171	65	97

氏名	所属	年令	出身県	最高記録	身長	体重	胸囲
和気 統	日大4	21	広島	平 1:11.9 2:34.3	178	78	102
敷石 義秋	日大4	21	熊本	平 1:11.5 2:33.4	176	68	100
山南 宏一	早大1	19	大分	平 1:11.3 2:35.2	170	65	98
中野 勇治	宇部興産	22	広島	平 1:11.2 2:36.7	167	62	93
鶴峯 治	海上自衛	22	"	平 1:13.6 2:38.3	170	68	95
兵藤 正時	中大2	19	岐阜	平 1:12.3 2:38.6	175	70	98
大渡 幹士	諫早商高3	18	長崎	平 1:11.9 2:39.5	176	63	93
佐藤 好助	八幡製鉄	20	熊本	バ100m 59.4 200m 2:11.6	161	63	97
増永 文昭	日本鋼業	24	大分	バ 1:00.3 2:14.3	181	80	104
中島 功	BSタイヤ	22	熊本	バ 1:00.3 2:14.3	171	70	100
大林 敦	中大3	20	静岡	バ 59.1 2:16.0	174	72	98
上田 紀男	法大4	22	山口	バ 1:00.8 2:16.4	170	68	102
江本 正	柳井商工3	17	"	バ 1:02.7 2:18.9	168	63	92
大賀 睦朗	明大1	19	熊本	バ 1:00.2 2:20.9	175	71	97
山野内 伸二	佐伯鶴城1	15	大分	バ 1:05.3 2:20.3	162	58	93
福島 滋雄	日大3	20	東京	背100m 1:02.1 200m 2:12.2 個人メドレー 400m 4:53.7	181	73	98
大隅 潔	明大3	21	静岡	背100m 1:04.9 200m 2:17.2	174	68	93
伊藤 圭祐	早大2	19	愛知	背 1:03.4 2:17.9	170	73	100
富田 一雄	BSタイヤ	24	福岡	背 1:03.5 2:18.3	167	65	95
中原 紀	八幡製鉄	21	熊本	背 1:04.6 2:20.3	176	68	102
五十嵐 武清	日大2	19	東京	背 1:03.8 2:20.5	179	80	102
田中 広征	早大2	19	福岡	背 1:03.6 2:20.8	179	73	92
三木 正二郎	八代三中3	15	熊本	背 1:08.0 2:27.3	162	62	90
山影 武士	明大1	18	岡山	自200m 2:05.4 400m 4:27.8 個人メドレー400m 5:07.1	170	65	98
片岡 輝男	立大1	18	広島	個人メドレー400m 5:11.9			

### 競 泳 女 子

東 美代子	五条高3	17	奈良	自 100m 1:05.0	157	54	87
木村 トヨ子	筑紫女高3	17	熊本	自100m 1:05.4 400m 4:57.2	164	66	78
菊谷 多鶴子	五条高2	16	奈良	自 1:05.6	158	53	86
浦上 涼子	筑紫女高1	16	福岡	自 1:05.7	158	49	87
辻本 妙子	東洋レーヨン	18	奈良	自 1:06.9	163	66	92
中川 静子	筑紫女高1	16	熊本	自 1:07.4	152	48	83
浅野 桂子	二階堂高2	17	東京	自 1:07.9			
早川 一校	吉原市商1	16	静岡	自 1:07.0 400m 4:57.6	158	48	85

氏名	所属	年令	出身県	最高記鉄	身長	体重	胸囲
小林 由美子	ロート製薬	20	奈良	自 " 1:07.3 " 5:11.0	159	56	84
山本 憲子	八幡製鉄	18	熊本	平100m 1:20.6 200m 2:56.2	160	56	85
青木 幸子	東洋レーヨン	22	和歌山	平 " 1:23.2 " 2:56.4	156	53	86
田上 和子	佐伯鶴城2	17	熊本	平 " 1:22.6 " 2:57.9	160	56	83
松本 信子	佐伯高3	17	大分	平 " 1:22.4 " 2:58.6	152	50	84
川西 繁子	五条中3	14	奈良	平 " 1:25.4 " 3:00.9	167	55	85
森実 芳子	杞木中3	15	福岡	平 " 1:23.7 " 3:00.2			
元川 曉美	朝羽高2	16	福岡	平 " 1:26.4 " 3:00.2	153	54	86
高橋 栄子	佐伯鶴城3	18	大分	バ100m 1:09.6 200m 2:32.2	160	56	88
山田 佐代子	ロート製薬	20	奈良	バ " 1:11.4 " 2:43.2	156	55	87
斎藤 弘子	梶山職員	18	愛知	バ " 1:12.4 " 2:44.7	159	56	86
佐藤 公子	天理高3	17	奈良	バ " 1:12.4 " 2:40.3			
池田 婦美子	鹿本高3	17	熊本	バ " 1:12.7 " 2:54.0	164	65	92
石井 雅子	三原三中3	15	広島	バ " 1:15.4			
田中 聰子	八幡製鉄	21	熊本	背100m 1:09.5 200m 2:28.2	158	50	85
木原 美知子	岡山旭中3	15	岡山	背 " 1:13.4 " 2:40.2	168	55	85
四本 博美	白木屋	21	鹿児島	背 " 1:15.1 " 2:40.2	168	60	89
松永 涼子	ロート製薬	20	奈良	背 " 1:15.1 " 2:41.4	141	58	85
岡田 八詠子	五条高3	18	奈良	背 " 1:16.1 " 2:40.6	158	51	86
佐藤 美代子	成女中2	13	東京	背 " 1:16.7 " 2:47.2			
江坂 君子	梶山職	19	愛知	" 100m 1:06.2 個人メド400m 5:42.0	164	65	96
村松 美智子	ロート製薬	19	愛知	" 400m 5:13.3 個人メドレー400m 5:46.7	159	58	84
松田 奈津子	五条高1	16	奈良	バ100m 1:13.2 400m 5:54.9	162	53	85

### 飛 込 男 子

土佐 忠雄	早大	21	奈良		165	60	94
山野 外嗣夫	北陸軽金	26	石川		173	70	94
伊藤 勝	三和化学	23	愛知				
坂手 昭治	早大	18	奈良		166	65	94
長東 悦朗	日大	21	石川				
金戸 俊介	リッカーミシン	23	"		155	52	87
谷口 博	早大	22	大阪		160	57	91
有光 洋右	" "	19	高知				
大坪 敏郎	日体大	20	鳥取				



氏名	所属	年度	出身県	最高記録	身長	体重	胸囲
田原和夫	東洋時計	23	東京		159	59	91

### 飛込女子

馬淵かの子	倉敷レーヨン	25	大阪		160	48	85
葛目千鶴子	日体大教	24	高知		159	55	84
渡辺久美子	リッカーミシン	27	東京		159	64	95
大崎恵子	日体大	20	石川				
友江嘉代子	住友ゴム	21	兵庫		148	47	78
川合初子	大阪飛ク	26	京都				
石黒のぶよ	大通	21	大阪		157	57	82

### 水球

飯田矩偉	安田生命	24	東京	G.K.	170	68	96
住谷栄之資	慶大	20	大阪	"	174	69	91
加藤峯男	横河電機	27	東京	"	173	70	99
荒川八郎	東京テアトル	30	"	B.W.	173	64	92
青山礼三	川島センイ	23	京都	"	173	65	93
田久保徹	海上自衛隊	27	熊本	"	168	67	96
井上宏	慶大4	23	東京	"	182	75	100
桑山博克	日大2	21	熊本	"			
川端信彌	早大2	20	京都	"	176	90	95
竹内和也	" 3	21	"	H.B.	176	70	93
横山隆	日興証券	23	埼玉	"	174	70	98
高木弘毅	東京美装	26	京都	F.W.	173	75	100
藤本重信	BSタイヤ	24	熊本	"	176	72	96
清水洋二	東急不動産	22	東京	"	174	69	97
皐月啓佐	早大4	22	京都	"	173	71	98
桑原重治	丸和鉱油	22	"	"	176	73	103
米原邦夫	日大4	22	熊本	"	170	70	97

# 昭和38年上半期の新記録について

昭和38年は2月始めからの豪州遠征等でシーズンが早く始まり新記録が続出したので6月30日現在で一応新記録をまとめて公表し、それに伴って6月30日現在の日本記録、高校記録中学記録の訂正を行った。

(記録委員会)

## 昭和38年度日本新記録 (1月1日～6月30日)

### 男子の部 ◎印公認(新記録 21 公認 11)

種目	時間	氏名	所属	場所	月日	大会名
100m 自由形	◎ 55.8	福井 誠	八幡製鉄	都屋内	4-6	室内選手権
200m バタフライ	◎ 2:13.1	佐藤 好助	日本	"	4-20	日豪対抗
	◎ 2:12.0	"	"	別府	4-27	日豪別府
	◎ 2:11.6	"	八幡製鉄	"	5-19	九州社学対
	2:13.6	"	"	瀬高	6-2	日大対九州
100m 背泳	◎ 1:02.1	福島 滋雄	日大	都屋内	4-6	室内選手権
	1:03.0	"	"	"	"	"
	1:02.7	"	日本	"	4-21	日豪対抗
	1:02.6	"	"	"	"	"
200m 背泳	◎ 2:14.5	福島 滋雄	日大	都屋内	4-7	室内選手権
	◎ 2:13.5	"	"	"	"	"
	2:13.6	"	日本	"	4-20	日豪対抗
	2:13.9	"	"	別府	4-27	日豪別府
	2:15.5	"	日大	神宮	6-30	日大対中大
400m 個人メドレー	◎ 4:57.2	福島 滋雄	日本	都屋内	4-21	日豪対抗
	◎ 4:54.6	"	"	別府	4-27	日豪別府
	4:59.5	"	日大	野毛山	6-9	三大学対抗
	4:57.8	"	"	神宮	6-30	日大対中大
800m リレー	◎ 8:09.8	(藤岡 本部 中山)	日本	都屋内	4-21	日豪対抗
400m メドレリレー	◎ 4:07.5	(福大 島林 福本)	"	"	4-20	日豪対抗
	4:08.1	(伊中 藤島 石後 藤川)	選抜	"	"	"

### 女子の部 ◎印公認(新記録 57 公認 25)

200m 自由形	◎ 2:21.2	木村 トヨ子	筑紫女高	都屋内	4-7	室内選手権
400m 自由形	◎ 4:57.2	木村 トヨ子	筑紫女高	ブリスベーン	2-8	日豪交歓

種目	時間	氏名	所属	場所	月日	大会名
	4:57.8	早川一枝	富士中	ブリスベン	2-8	日豪交歓
	Y 4:57.3	木村トヨ子	筑紫女高	メルボルン	2-12	"
	Y 4:58.1	早川一枝	富士中	"	"	"
	Y 4:57.4	木村トヨ子	筑紫女高	パース	2-19	全豪選手権
	Y 4:58.4	早川一枝	富士中	"	"	"
	4:58.9	木村トヨ子	筑紫女高	都屋内	4-6	室内選手権
	4:59.1	早川一枝	吉原市商高	"	"	"
	4:59.4	"	"	吉原商高	6-22	静岡東都高
800m 自由形	◎Y 10:15.4	早川一枝	富士中	シドニー	2-10	日豪交歓
	Y 10:28.6	木村トヨ子	筑紫女高	"	"	"
	◎Y 10:12.1	早川一枝	富士中	パース	2-21	全豪選手権
	Y 10:25.3	木村トヨ子	筑紫女高	"	"	"
	10:19.4	早川一枝	吉原市商高	吉原市商	6-22	静岡東部高
1500m 自由形	◎ 19:34.8	早川一枝	吉原市商高	浜松	6-16	明大対静岡
	◎ 19:21.6	"	"	吉原市商	6-23	静岡東部高
100m 平泳	◎Y 1:22.0	山本憲子	筑紫女高	シドニー	2-10	日豪交歓
	◎ 1:21.8	"	八幡製鉄	都屋内	4-7	室内選手権
	◎ 1:21.2	"	"	別府	5-16	九州女子
	◎ 1:20.6	"	"	旭化成	6-23	九州
	1:21.2	"	"	竹原	6-30	中国対九州
100m バタフライ	◎ 1:09.7	高橋栄子	佐伯鶴城	ブリスベン	2-8	日豪交歓
	Y 1:09.7	"	"	メルボルン	2-12	日豪交歓
	◎Y 1:09.6	"	"	パース	2-22	全豪選手権
	Y 1:09.8	"	"	"	"	"
	1:11.1	"	"	都屋内	4-7	室内選手権
	1:11.0	"	"	"	"	"
	1:11.7	"	"	別府	5-19	九州女子
	1:11.8	"	"	大谷	5-25	末弘牌高校
	1:11.3	"	"	"	"	"
	1:11.2	"	九州	竹原	6-30	中国対九州
200m バタフライ	Y◎ 2:34.3	高橋栄子	佐伯鶴城	シドニー	2-10	日豪交歓
(世)	Y◎ 2:32.2	"	"	パース	2-19	全豪選手権
	2:36.1	"	"	都屋内	4-6	室内選手権
	2:35.8	"	"	"	"	"
	2:40.9	"	"	別府	5-19	九州女子

種目	時間	氏名	所属	場所	月日	大会名
100m 背泳	2:37.6	高橋 栄子	佐伯鶴城	大谷	5-26	末弘牌高校
	2:41.9	"	九州	竹原	6-30	中国対九州
	◎ 1:09.5	田中 聡子	八幡製鉄	ブリスベーン	2-8	日豪交歓
	(世)Y 1:10.2	"	"	パース	2-15	全豪選手権
	Y 1:10.2	"	"	"	2-22	"
	Y 1:10.2	"	"	"	2-23	"
200m 背泳	1:10.6	"	"	都屋内	4-7	室内選手権
	1:09.6	"	"	別府	5-19	九州女子
	泳(世)◎Y 2:29.6	田中 聡子	八幡製鉄	シドニー	2-10	日豪交歓
(世)◎Y 2:28.9	"	"	パース	2-18	全豪選手権	
(世)◎Y 2:28.5	"	八幡製鉄	"	2-21	全豪選手権	
200m 個人メドレー	◎ 2:42:7	江坂 君子	眉山職員	メルボルン	2-12	日豪交換
400m 個人メドレー	◎Y 5:45.0	江坂 君子	眉山職員	シドニー	2-10	"
	◎Y 5:42.7	"	"	メルボルン	2-12	"
	◎Y 5:42.0	"	"	パース	2-16	全豪選手権
	5:52.5	"	"	都屋内	4-7	室内選手権
	5:51.0	"	"	"	"	"
400m リレー	◎ 4:26.5	(木村 江坂) (斎藤 佐藤)	日本	パース	2-21	全豪選手権
400m メドレリレー	◎ 4:49.3	(田中 山本) (高橋 佐藤)	日本	ブリスベーン	2-8	日豪交歓
	◎Y 4:46.7	(田中 山本) (高橋 木村)	"	パース	2-16	全豪選手権

## 国際水連 1963 年上半期の世界新記録を公認

国際水連理事会は昭和38年6月9日スイスのローザンヌで開かれたが、上半期(1月1日~6月1日)に生れた世界新記録を次のように公認した。又これと合せて東京オリンピック大会ではタイム着順とも人間の審判計時よりも自動審判装置が優先することになった。この場合、1/100秒迄出るタイムは四捨五入せずに切り捨てる。

### 公認された新記録

性別	種目	時間	氏名	国籍	場所	水質	日時
男子	200m 自由形	2:00.3	R. ウィンドル	豪州	東京	淡水	4-21
"	220y 自由形	2:01.1	"	"	シドニー	塩水	1-19
"	800m 継	8:09.8	藤岡 山中 岡部 福井	日本	東京	淡水	4-21
"	110y バタフライ	59.0	K. ベリー	豪州	シドニー	塩水	1-20
"	200m バタフライ	2:08.4	"	"	"	"	1-20
"	220y バタフライ						
女子	220y バタフライ	2:32.2	高橋 栄子	日本	パース	淡水	2-19
"	110y 背泳	1:10.2	田中 聡子	"	"	"	2-16
"	110y 背泳	1:10.0	"	"	"	"	2-23
"	220m } 220y }	2:28.9	田中 聡子	"	"	"	2-18
"	"	2:29.6	"	"	シドニー	塩水	2-10
"	"	2:28.5	"	"	パース	淡水	2-27

# 東京国際スポーツ大会水泳競技大会

オリンピックのリハーサルをかねて、選手強化の効果を確かめようというわけで、オリンピック全種目(22)について行なわれたのがこの大会である。水泳は春に日豪、夏に日米とつづいて国際試合をやったので、この大会には主としヨーロッパの一流選手を招いた。特にハンガリーからは水球チームに来てもらい、まのあたり「世界第一位」の美技に接することができたのは誠に感激であった。

招待した外国選手は次の通りで役員選手合せて61名。この他に東ドイツから視察団が来たが、その中には女子100m平泳の世界記録保持者ゲーベル嬢の姿もみえた。

## 招待外国選手

### ○スエーデン

(7名)

ステン ヘルクビスト (男) 役員  
 ブル オラ リュングレン (女, 15才)  
 自由形 400m 4:48.9  
 アン クリスティーン ハグベリ (女, 15才)  
 自由形 100m 1:01.5  
 カリン ステンバック (女, 17才)  
 自由形 100m 1:04.5  
 バタフライ 100m 1:09.1 200m 2:37.4  
 リンドベリ (男, 24才)  
 自由形 100m 54.3 200m 2:02.9  
 マッツ スペンソン (男)  
 自由形 100m 56.7 200m 2:02.0  
 400m 4:23.6  
 ヤン ルンディン (男)  
 自由形 200m 2:02.7 400m 4:26.3

### ○オランダ

(11名)

コスター ファン フェッグラン (女) 役員  
 ボルマン (男) 役員  
 エリカ デルブストラ (女)  
 自由形 100m 1:03.6  
 クレニイ ビモルト (女, 18才)  
 平泳 100m 1:19.0 200m 2:49.0  
 コリー ウインゲル (女, 19才)  
 背泳 100m 1:10.4 200m 2:32.3  
 アダ コック (女, 16才)

ベッシー ヒューゲルス (女)

平泳 100m 1:22.2 200m 2:53.0

バタフライ 100m 1:06.1 (世界新)

アドリー ラステリ (女, 19才)

自由形 100m 1:03.4 200m 2:18.3  
 400m 4:52.4

400m 個人メドレー 5:27.8

ヨハン ポンテーコー (男, 20才)

自由形 200m 2:04.3 400m 4:25.6

ロナルド クローン (男)

自由形 100m 55.5

ヨハネス イスクート (男)

バタフライ 100m 59.5 200m 2:20.8  
 個人メドレー 5:05.5

### ○西ドイツ

(10名)

ヤノス ザトリ (男) 役員  
 ウイルトルド ウルゼルマン (女, 21才)  
 平泳 100m 1:19.1 200m 2:50.0  
 マルタ ホフマン (女)  
 平泳 100m 1:20.2 200m 2:50.8  
 ハイケ フステード (女)  
 バタフライ 100m 1:09.2  
 ハンス ヨアヒム クライン (男, 21才)  
 自由形 100m 55.9 200m 2:02.6  
 400m 4:29.7  
 ゲルハルト ヘッツ (男, 21才)  
 自由形 200m 2:01.7 400m 4:22.5  
 1500m 17:31.7  
 個人メドレー 4:53.8  
 エルンスト ヨアヒム キュッペルス (男, 21才)  
 背泳 100m 1:02.2 200m 2:16.6  
 個人メドレー 5:10.1  
 ホルム ムラツエク (男, 21才)  
 平泳 100m 1:12.3 200m 2:38.2  
 ウエルナー フライターク (男, 17才)  
 バタフライ 100m 59.9 200m 2:17.2  
 クラウス コンツォル (男)  
 飛込

### ○フランス

(4名)

ベルリオ (女) 役員

クリスチーナ キャロン (女, 15才)  
 背 泳 100m 1:09.6 200m 2:33.5  
 アラン ゴットパレ (男, 22才)  
 自由形 100m 54.6 200m 2:05.2  
 フランク リュイス (男, 16才)  
 自由形 400m 4:28.4 1500m 18:18.6

○スペイン (2名)

ケス オウデヘースト (男) 役員  
 ミグエル トレス (男, 17才)  
 自由形 1500m 17:55.6

○アメリカ (4名)

ジャクソン スミス (男) 役員  
 リンダ クーパー (女) 飛 込  
 ロバート ウェブスター (男) 飛 込  
 ケネス スイツバーガー (男) 飛 込

○ソ 連 (11名)

ロガルスキー (男) 役員  
 ガリナ プロズメンシコワ (女, 14才)  
 平 泳 100m 1:20.0 200m 2:51.5  
 ワレンティナ ヤコブレワ (女, 16才)  
 バタフライ 100m 1:11.1  
 ワレンティン クジミン (男, 22才)  
 バタフライ 100m 1:02.2 200m 2:12.6  
 イワン カレットニコフ (男, 21才)  
 平 泳 200m 2:31.9  
 レオニト コレスニコフ (男, 26才)  
 平 泳 100m 1:10.7 200m 2:34:3  
 ヴィクトル マザノフ (男, 16才)  
 背 泳 100m 1:02.2 200m 2:17.4  
 ユリ スムツオフ (男, 19才)  
 自由形 100m 56.2  
 セメン ベリッツ・ゲイマン (男, 18才)  
 自由形 400m 4:26.5 1500m 17:49.5  
 ユリ フニコフ (男, 22才)

自由形 100m 1:11.4 200m 2:35.7  
 ボリス ガヴリロフ (男, 18才)  
 個人メドレー 400m 5:04.9

○ハンガリー (12名)

カロリ ラキ (男) 役員  
 ヨージェフ カトナ (男, 22才)  
 自由形 400m 4:29.5 1500m 17:43.5  
 デジエ ジヤルマチ (男) 水球選手  
 ミハリ マイエル (男) "  
 オットーボロス (男) "  
 カルマン マルコピッチ (男) "  
 ティバダル カニジャ (男) "  
 ジョルジ カルバテイ (男) "  
 ゴルタン ドモトル (男) "  
 ラスロ フェルカイ (男) "  
 ヤノス コンラド (男) "  
 デネシュ ボイチク (男) "

これに対する日本選手はオリンピック候補の全員を当て少しでも国際試合に慣れるようにつとめた。日本チームの役員は次の通り

競 泳 総監督 田 口 正 治  
 マネジャー 北 村 康 雄  
 トレーナー 鈴 木 茂 二 朗  
 男子監督 村 上 勝 芳  
 コ ー チ 藤垣亮太郎 (主) 古賀学,  
 橋爪四郎, 長沢二郎, 倉橋範彦  
 女子監督 岡 田 正 一  
 コ ー チ 黒佐年明 (主), 浦井保弘,  
 平 山 緯 保  
 ジャペロン 裏辻よし子

飛込 (監督 小柳富男  
 コーチ 馬淵良, 坂本章八, 馬場豊  
 水球 (監督 磯田武  
 コーチ 神田明善  
 マネージャー 岩田隆雄

# 東京国際スポーツ大会の飛込競技

日本チーム飛込監督 小柳 富 男

東京国際スポーツ大会を振り返って見て気のついた点を思うまま述べて見たい。

招待選手は、米国が男子飛板飛込でケーン・シッツパーガー、男子高飛込にロバート・ウェブスターの2名。女子は、飛板、高飛込両種目にリンダ・クーパーの合計3名と、西ドイツより男子高飛込にクラウス・コンツォルの総計4名の選手である。

飛込強化本部としては、他に英国の女子飛板飛込のフィリップ（ローマ大会3位）と、ソヴィエットの男子飛板飛込のフェドロヴァと女子飛板飛込のフニドソヴァをよんでもらいたいと申し立てていたが、実現出来なかったのは残念であった。

競技会の結果は後掲の通りであるが、各種目について気づいた点を書きとめて見る。

先づ、第1日目女子飛板飛込で優勝した渡辺は非常に落ちついて、体重を生かし板をよく待って踏みこれという失敗もなく、米国の女子を破って優勝した事は今後の自信を持つ上においても非常にプラスになるものと確信している。今後足首の強さを増し、飛込に鋭さが増せば一段と強さも加わる事と期待している。優勝を期待されていた馬淵は、競技会の数日前から、腹痛をおこし食事ものどを通らず、目がくぼみ盲腸炎の再発かと思っていたが、（競技後診断の結果、急性腸炎と判明）棄権もならず、そのまま競技会に出場させる事になったが、やはり後半において疲労が出て、ばててしまい、米国のリンダには勝ったものの期待していた得点も得られず、2位に終わってしまった。3位の米国リンダ・クーパーは、旅の疲れか、米国における練習の不足か、余り冴えず、踏切にも学ぶべきものなく、規定飛は、日本選手の方が上まわっていた。然し難易率の高い種目になるとやはり、その片鱗を見せ、特に前宙返り1回半2回捻りはよくきめていた。然し昨年来日したパーバラ嬢に比較すれば、やはり大分ひらきがある様に思われる。クーパー以下、葛目、友江は種目に失敗があり、今後の猛練習を期待したい。

第2日目の男子飛板飛込は、米国のケーン・シッツパーガーの優勝となった。2位の土佐はもう少しのところまで力が及ばなかったが、後半、息切れをしたという感じだ。シッツパーガーの飛込は、今迄日本にきた米国選手に見られた様な美しさはないが、飛板の使い方が思いきりよく、力強い飛込をしている。足先の伸び等に、時々

難点が出ていたが、仲々鋭い思い切った飛込をしていた。中でも、難易率の高い後宙返り1回半2回捻りは、最高の飛込をしていた。2位の土佐は、どうしても勝たねばならないとい意志が強すぎたためか、あがってしまって、身体がこわばり、飛込に迫力が欠け、いつものような、すっきりとした飛込がみられず、最後の前宙返り3回半（抱え型）で失敗をして万事休す。3位長東、4位山野、5位坂手は、各種目とも失敗が目立ち、中でもベテラン山野の失敗が大きく、優勝者との差が付きすぎたのは残念だった。

続いて行なわれた、女子高飛込は、米国のリンダ・クーパーの逆転勝ちで、本人及びコーチのジャクソン・スマスを大喜びさせる結果になってしまったが、渡辺は勝つべき試合に負けたという感じだ。リンダ・クーパーは、高飛込の方が得意であるとの事だが、余り見栄えもいなかったが、やはり難易率の高い後踏切前宙返り2回半（抱え型）を決めて優勝をさらってしまった。2位渡辺も順調に飛んでいたが、後飛（伸型）で身体が捻れてしまい、結果的に考えると、このために負けてしまったようなものだ。然し、もう一種目難易率の高い種目をとる必要がある様に思う。高飛込の得意なリンダ・クーパーに最後の種目まで勝っており、最後で逆転されてしまったが、渡辺の健斗を賞したい。3位の大崎は非常に素直なよい飛込をしているが、選択飛にもっと難易率の高い種目をそろえる様にしなければ、オリンピックには通用しないので、更に積極的にその方の練習をしなければならないと思う。4位、5位、6位の友江、河合、石黒については、選択飛では種目もよくなって来たが失敗が多く、今後の練習で、その種目を確実にこなす事を心がけるべきであろう。

第3日目の男子高飛込においては、ローマ大会の優勝者ロバート・ウェブスターが勝ったが、期待通り思い切ったよい飛込をしている。練習不足の故かローマ大会の時より力が落ちている様な感じを受けた。然しフォームの採り方は非常に正しく、すべての飛込は、高い位置で終了し、余裕のある入水をしていた。前宙返り3回半（抱え型）で失敗はしたがやはり高飛込の第一人者の貫禄は充分だ。2位の金戸は、合宿中に軽い風邪をひき、身体コンディションも最高とはいえなかったが、優勝者を相当おびやかした事は事実だ。ウェブスターが、前宙返り3回半（抱え型）で失敗した時は、顔の色も変

り、真剣な表情で、次の種目のかかりをプールサイドで、やっていたという様な事は今迄にみられなかったことである。金戸が、それほどウェブスターをおびやかしていた事は事実だ。然しこのかかりを練習した後宙返り2回半(抱え型)を見事にこなし、これに反して金戸が前宙返り3回半(蝦型)で、かかりは良かったが伸ばしに失敗したのが、勝敗の別れ目となった。3位西ドイツの、クラウス・コンツォルは、練習不足のためかあまり冴えず、飛込に軽快さがなく、余り強い選手とは思われない。然し、伸ばしは思い切って鋭く行っていたが、これは日本選手も見習うべき事だと思う。4位田原、5位大坪、7位谷口はやはり随所に失敗が見られ、今後の練習に期待したい。

この大会で特に感じた事は、米国選手が試合に対して強いという事だ。もっとも、来日は遅かったが競技会前日迄は練習中がたがたで失敗ばかりしており、期待はづれの感で、日本が全種目の優勝をねらえるのではないかとさえ思っていたのであるが、いざ競技会当日になってみると、思い切った飛込をし、しかも難易率の高い種目を確実に突っ込んでいく事だ。我々もこの点について今後研究する事が必要だと今さら乍ら痛感した。

なお、今年は競技会に追われ、本年の最高目標を本大会におく事が出来なかったきらいはあるが、競技会前の合宿練習が10日間位では選手自身も、自信を持って競技にのぞむ事が出来なかったのではないかと反省している。

## ヨーロッパもあなど難し (競泳雑感)

大会計時主任 菊地 章

米・豪に比べるとヨーロッパ勢はなじみが薄いので、何となく強くないという風に思われ易いが、今度来日した選手はヨーロッパを代表するだけあって、誠に油断のならない相手ばかりであった。

期待通り強かったのは男子では西ドイツのクライン、ヘッツ、フランスのゴットパーレ、ソ連のカレトニコフ、女子ではスウェーデンのハグベリ、ソ連のプロズメンシュコワであった。これ等の人達は今回来日しなかった英国のマクレガーや東独のゲーベルと共に東京オリンピックでメダルを狙う世界のトップクラスの選手であろう。

この中で特に光ったのはクライン、ヘッツの両選手である。

クラインは200mの決勝で2:00.2の世界新記録を出したものの、ショランダーの未公認1:58.4に及ばず、試合終了後単独試泳を申出て1:58.9の新記録を出したが、ターンの際壁に手がふれなかったということで失格を宣せられ公認とならなかった。併しこれで彼はほぼショランダーと同等の実力を持っていることが分り、日本にとっては脅威が一つふえたわけである。

ヘッツの個人メドレーは見事であった。300でスチックルス(米)の世界記録と同じ3:44.0だったので、自由形の得意な彼だからうまくすると新記録かと期待したが、果してその通りであった。日米対抗で期待された世界新記録が出ず、この大会で新記録が出ようとは思わぬ収穫であった。併し彼自身はそれ程気負っていなかったようで、新記録の発表をきいて彼自身がびっくりしていた位だ。1500のヘッツは一寸面白いことをやった。1000迄、カトナ、佐々木とほぼ並んでいたが1000から1050に

かかる時にスパートして2人を3~4米抜きその差を最後迄保って優勝した。

平泳は日ソ対抗の感があったが、期待されたカレトニコフは200で優勝はしたものの、記録はそれ程のことでもなかった。一体にヨーロッパの平泳は昔のラーデマッヘル流のモーシヨンの大きな泳ぎで、ジャストレムスキー式の急ピッチを見なれた目には量感はあるてもスピード感は余りない。

女子では100自200自共にスウェーデンのハグベリが世界トップクラスの泳ぎをみせて楽勝した。100の1:02.1はオーストラリアのフレーザーに次ぐものではなかるうか。外人としては小柄な選手だが泳ぎは見るからに鋭い感じを与えるものである。200平ではソ連のプロズメンシュコワがダイナミックな泳ぎで2:49.6の好タイムで優勝した。2位のピモルト(オランダ)と共に東京オリンピックの優勝候補であろう。バタフライでは世界のNo.1と言われるコック(オランダ)が高橋に苦もなく敗れた。巨大なコックが小さな高橋にやられるのは大鵬が折の海に負けるようなもので、220碼バタの世界記録保持者としての高橋も、これで面目を保ったと言えよう。

コックがおくる祝福の接吻を高橋がテレくさそうに受けていたのが印象にのこる。この大会の一つの焦点であった田中とフランスのキャロンの対戦も田中の自信あふれた試合振りにキャロンが圧倒された形であった。高橋と田中が自信を深めただけでもこの大会は有意義であった。若手では中学生の木原が確実に強くなった。100背で1:11.9ならば今年の彼女として申し分なし。兎も角、ヨーロッパもあなど難しとの印象をはっきり与えた大会であった。



# 東京国際スポーツ大会水泳競技大会

	室内温	水温
10月12日	25.0°	24.6° (晴)
13日	25.4°	24.4° (晴)
14日	25.0°	24.3° (曇)

於 東京都屋内水泳場 (50m)

## 男子100m 自由形

予選 (10/12)

組	順位	選手名	国籍	記録
1組	1	A. ゴットバレ	(フランス)	54.8 (26.0)
	2	後藤 忠治	(日本)	55.5 (26.2)
	3	H. クライン	(西ドイツ)	55.9 (26.8)
	4	庄司 敏夫	(日本)	56.4 (26.5)
	5	福井 清	(日本)	56.6 (26.4)
	6	岡部 幸明	(日本)	56.6 (27.2)
	7	R. クローン	(オランダ)	57.2 (26.0)
2組	1	J. ルンディン	(スウェーデン)	56.3 (26.8)
	2	S. スムツオフ	(ソ連)	56.8 (27.0)
	3	福井 誠	(日本)	56.9 (27.1)
	4	山中 毅	(日本)	57.1 (27.0)
	5	リンドベリー	(スウェーデン)	57.1 (27.1)
	6	岩崎 邦宏	(日本)	57.2 (26.9)
	7	石原 勝記	(日本)	57.5 (26.7)
決勝 (10/12)	1	H. J. クライン	(西ドイツ)	54.9 (26.7)
	2	A. ゴットバレ	(フランス)	55.3 (26.1)
	3	後藤 忠治	(日本)	56.0 (26.3)

4	S. スムツオフ	(ソ連)	56.3 (—)
5	S. ルンディン	(スウェーデン)	56.6 (26.7)
6	岡部 幸明	(日本)	56.8 (26.7)
7	庄司 敏夫	(日本)	56.8 (26.6)
8	福井 清	(日本)	57.3 (26.4)

## 男子200m 自由形

予選 (10/13)

組	順位	選手名	国籍	記録
1組	1	H. J. クライン	(西ドイツ)	2:03.5 (28.6 59.7 1:31.6)
	2	山中 毅	(日本)	2:04.2 (28.2 1:00.2 1:32.1)
	3	M. スペンソン	(スウェーデン)	2:04.2 (27.9 59.7 1:32.0)
	4	庄司 敏夫	(日本)	2:05.2 (— 1:01.3 —)
	5	吉無田 春男	(日本)	2:05.6 (— 1:01.6 —)
	6	藤本 達夫	(日本)	2:07.2 (29.1 1:01.3 1:34.5)
	7	浜口 哲也	(日本)	2:08.9 (28.7 1:01.1 —)
2組	1	岡部 幸明	(日本)	2:04.9 (— 1:00.9 —)
	2	福井 誠	(日本)	2:05.1 (28.5 59.8 1:32.4)
	3	S. ベリッツガイマン	(ソ連)	2:05.9 (28.1 59.5 1:31.7)
	4	後藤 忠治	(日本)	2:06.0 (— 1:01.3 —)
	5	J. ボンテコー	(オランダ)	2:07.1 (— 1:00.7 —)
	6	リンドベリー	(スウェーデン)	2:09.2

7 岩崎 邦宏 (29.4 1:01.9 1:34.7)  
 (日本) 2:10.0  
 (30.3 1:01.7 1:36.5)  
 8 A. ゴットバレ (フランス) 2:10.2  
 (28.6 1:01.2 1:35.0)

C

1 J. ルンデイン (スウェーデン) 2:04.7  
 (28.7 1:00.8 1:33.0)  
 2 山影 武士 (日本) 2:05.4  
 (28.6 1:00.1 1:33.2)  
 3 中野 悟 (日本) 2:08.9  
 (28.6 1:00.1 1:34.1)

決勝 (10/13)

1 H. J. クライン (西ドイツ) 2:00.2  
 (28.4 59.7 1:30.6) (世界新)  
 2 福井 誠 (日本) 2:03.2  
 (28.1 59.3 1:30.9)  
 3 M. スベンソン (スウェーデン) 2:03.5  
 (28.6 1:00.6 1:31.9)  
 4 J. ルンデイン (スウェーデン) 2:04.2  
 (28.1 1:00.4 1:32.1)  
 5 山中 毅 (日本) 2:04.3  
 (28.3 1:00.3 1:32.1)  
 6 庄司 敏夫 (日本) 2:04.9  
 (28.9 1:01.0 1:33.3)  
 7 岡部 幸明 (日本) 2:05.6  
 (29.1 1:01.0 1:33.4)  
 8 山影 武士 (日本) 2:06.8  
 (29.0 1:00.7 1:33.9)

男子 400m 自由形

1組 (10/14)

1 山中 毅 (日本) 4:29.1  
 (1:01.9 2:09.6 3:19.3)  
 2 S. ベリッツガイマン (ソ連) 4:29.6  
 (1:02.4 2:10.5 3:20.8)  
 3 岩本 和行 (日本) 4:34.3  
 (1:03.2 2:12.4 3:23.9)  
 4 F. リュイス (フランス) 4:35.0  
 (1:02.9 2:42.4 3:24.2)  
 5 桑原 茂 (日本) 4:38.4  
 (1:03.8 2:14.5 3:26.9)  
 6 藤島 祥三 (日本) 4:39.0  
 (1:04.3 2:14.1 3:26.0)  
 7 高瀬 悦二郎 (日本) 4:42.8  
 (1:03.5 2:14.6 3:28.0)

2組

1 M. トレス (スペイン) 4:33.5  
 (1:05.0 2:14.4 3:25.1)  
 2 山影 武士 (日本) 4:35.6  
 (1:03.2 2:13.9 3:26.4)

3 藤本 達夫 (日本) 4:36.4  
 (1:03.2 2:12.9 3:24.8)

4 中野 悟 (日本) 4:36.9  
 (1:04.4 2:14.3 3:26.8)

5 榎山 稔 (日本) 4:37.5  
 (1:03.7 2:14.7 3:27.2)

6 庄司 敏夫 (日本) 4:39.3  
 (1:03.2 2:14.2 3:29.1)

7 木田 和夫 (日本) 4:48.2  
 (1:04.5 2:16.5 3:31.9)

3組

1 吉無田 春男 (日本) 4:28.9  
 (1:02.6 2:10.5 3:19.7)

2 M. スベンソン (スウェーデン) 4:30.0  
 (1:04.0 2:13.5 3:23.5)

3 J. ボンテコー (オランダ) 4:31.5  
 (1:03.5 2:12.0 3:21.6)

4 J. カトナ (ハンガリー) 4:31.6  
 (1:03.4 2:12.6 3:23.8)

5 浜口 哲也 (日本) 4:35.3  
 (1:03.8 2:13.4 3:24.0)

6 佐々木 末昭 (日本) 4:40.5  
 (1:04.0 2:15.3 3:28.0)

7 米井 要 (日本) 4:40.8  
 (1:03.8 2:14.0 3:27.4)

8 山田 忠信 (日本) 4:47.9  
 (1:04.6 2:17.6 3:33.0)

決勝 (10/14)

1 山中 毅 (日本) 4:20.9  
 (1:01.2 2:07.5 3:13.5)

2 吉無田 春男 (日本) 4:25.6  
 (1:02.1 2:09.0 3:17.0)

3 M. スヴェンソン (スウェーデン) 4:26.8  
 (1:01.8 2:10.0 3:18.1)

4 S. ベリッツガイマン (ソ連) 4:29.9  
 (1:02.5 2:10.9 3:21.3)

5 J. カトナ (ハンガリー) 4:31.2  
 (1:02.8 2:11.9 3:23.0)

6 J. ボンテュー (オランダ) 4:32.1  
 (1:02.6 2:11.0 3:21.5)

7 M. トレス (スペイン) 4:32.4  
 (1:04.6 2:14.1 3:24.3)

8 岩本 和行 (日本) 4:34.1  
 (1:02.5 2:11.3 3:22.4)

男子 1500m 自由形 (800mは正式)

1組 (10/12)

1 J. カトナ (ハンガリー) 17:59.9  
 (1:06.5 2:16.6 3:27.7 4:40.3 5:53.1  
 7:05.8 8:17.8 9:29.9 10:42.2 11:55.2  
 13:08.2 14:21.0 15:34.9 16:49.0)

2	岩本和行	(日本)	18:17.3 (9:38.8)	2組					(9:54.3)
3	佐々木末昭	(日本)	18:17.7 (9:37.5)	1	G.ヘッツ	(西ドイツ)	18:16. (1:06.2 2:19.7 3:29.2 4:46.3 6:01.9 7:17.6 8:33.2 9:33.2 10:59.8 12:12.4 13:254.4 14:38.5 15:50.9 17:03.6)		
4	吉無田春男	(日本)	18:31.7 (9:54.1)	2	藤島祥三	(日本)	18:19.0 (9:48.6)		
5	M.トレス	(スペイン)	18:31.9 (9:53.9)	3	靱山稔	(日本)	18:26.0 (9:46.6)		
6	米井要	(日本)	18:37.7 (9:54.5)	4	高瀬悦二郎	(日本)	18:29.4 (9:48.9)		
7	F.リュイス	(フランス)	18:41.2 (9:55.8)	5	山田忠信	(日本)	18:30.6 (9:48.4)		
8	桑原茂	(日本)	18:49.3						

1500m自由形途中時間

	ヘッツ	カトナ	佐々木	岩本	靱山	山田	藤島	高瀬
100	1:06.0	1:05.5	1:05.7	1:06.7	1:05.5	1:04.7	1:07.9	1:07.4
200	2:16.5 10.5	2:15.4 9.9	2:15.9 10.2	2:17.6 11.1	2:16.2 10.7	2:15.9 11.2	2:20.8 12.9	2:20.2 12.8
300	3:28.0 11.5	3:26.0 10.6	3:28.0 12.1	3:29.0 11.4	3:28.5 12.3	3:28.4 12.5	3:34.4 13.6	3:32.7 12.5
400	4:39.3 11.3	4:38.3 12.3	4:39.9 11.9	4:42.0 13.0	4:40.5 12.0	4:41.5 13.1	4:47.4 13.0	4:46.0 13.3
500	5:52.0 12.7	5:50.2 11.9	5:52.4 12.5	5:54.1 12.1	5:52.7 12.2	5:55.3 13.8	6:00.7 13.3	6:00.2 14.2
600	7:04.5 12.5	7:02.9 12.5	7:04.7 12.3	7:07.0 12.9	7:05.3 12.6	7:09.5 14.2	7:14.0 13.3	7:14.1 13.9
700	8:15.9 11.3	8:14.7 11.8	8:17.0 12.3	8:19.5 12.5	8:18.3 13.0	8:23.0 13.5	8:27.7 13.7	8:27.7 13.6
800	9:28.6 12.7	9:27.8 13.1	9:28.5 11.5	9:31.9 12.4	9:30.5 12.2	9:37.7 14.7	9:41.3 13.6	9:41.5 13.8
900	10:41.1 12.5	10:40.4 12.6	10:40.9 12.4	10:44.0 12.1	10:43.8 13.3	10:51.3 13.6	10:54.6 13.3	10:54.5 13.0
1000	11:53.7 12.6	11:53.3 12.9	11:53.5 12.6	11:56.1 12.1	11:57.3 13.5	12:05.1 13.8	12:07.4 12.8	12:08.1 13.6
1100	13:03.1 9.4	13:06.1 12.8	13:05.1 11.6	13:08.4 12.3	13:11.8 14.5	13:18.8 13.7	13:19.6 12.2	13:23.2 15.1
1200	14:13.4 10.3	14:17.7 11.6	14:17.1 12.0	14:20.2 11.8	14:26.5 14.7	14:33.2 14.4	14:33.3 13.7	14:39.2 16.0
1300	15:25.5 12.1	15:30.0 12.3	15:29.6 12.5	15:32.0 11.8	15:41.8 15.3	15:47.3 14.1	15:47.3 14.0	15:55.4 16.2
1400	16:37.7 12.2	16:41.6 11.6	16:42.3 12.7	16:44.3 12.3	16:55.7 13.9	17:00.8 13.5	17:02.1 14.8	17:12.5 17.1
1500	17:48.0 10.3	17:49.5 7.9	17:50.6 8.3	17:56.3 12.0	18:06.9 11.2	18:12.3 11.5	8:15.2 13.1	18:28.2 15.7

(800m は正式計時)

6 中野 悟 (日本) 18:32.9  
(9:49.5)

決勝 (10/13)

1 G.ヘッツ (西ドイツ) 17:48.0  
2 J.カトナ (ハンガリー) 17:49.5  
3 佐々木末昭 (日本) 17:50.6  
4 岩本和行 (日本) 17:56.3  
5 榎山稔 (日本) 18:06.9  
6 山田忠信 (日本) 18:12.3  
7 藤島祥三 (日本) 18:15.2  
8 高瀬悦二郎 (日本) 18:28.2

男子 100m 平 泳

1組 (10/12)

1 松本健次郎 (日本) 1:11.7  
(33.6)  
2 中野勇治 (日本) 1:11.8  
(33.8)  
3 石川健二 (日本) 1:12.3  
(34.0)  
4 山南宏一 (日本) 1:13.5  
(33.8)  
5 L. コレスニコフ (ソ連) 1:13.8  
(33.8)  
6 兵藤正時 (日本) 1:13.9  
(34.5)  
7 H. ムラッエク (西ドイツ) 1:14.1  
(34.2)

2組

1 メンソニデス (オランダ) 1:11.3  
(33.8)  
2 J. フニコフ (ソ連) 1:11.9  
(33.3)  
3 鶴峯治 (日本) 1:12.1  
(33.3)  
4 敷石義秋 (日本) 1:12.4  
(33.6)  
5 大渡幹士 (日本) 1:12.9  
(34.5)  
6 I. カレットニコフ (ソ連) 1:14.4  
(35.0)  
7 和気統 (日本) 1:14.6  
(35.4)

決勝 (10/14)

1 松本健次郎 (日本) 1:10.7  
(33:0)  
2 石川健二 (日本) 1:10.7  
(33.5)  
3 敷石義秋 (日本) 1:11.4  
(一)  
4 鶴峯治 (日本) 1:11.8

5 中野勇治 (日本) 1:11.8  
(33.6)

6 メンソニデス (オランダ) 1:12.0  
(33.6)  
7 大渡幹士 (日本) 1:12.8  
(34.4)  
8 J. フニコフ (ソ連) 1:13.2  
(34.0)

男子 200m 平 泳

1組 (10/12)

1 石川健二 (日本) 2:38.1  
(34.3 1:13.8 1:55.5)  
2 鶴峯治 (日本) 2:38.4  
(35.8 1:15.9 1:57.3)  
3 中野勇治 (日本) 2:38.4  
(35:9 1:16.0 1:58.2)  
4 山南宏一 (日本) 2:38.8  
(34.2 1:14.0 1:55.9)  
5 兵藤正時 (日本) 2:39.8  
(35.8 1:16.3 1:58.0)  
6 L. コレスニコフ (ソ連) 2:40.3  
(35.6 1:16.2 1:58.3)  
7 メンソニデス (オランダ) 2:40.8  
(36.2 1:16.5 1:58.8)

2組

1 松本健次郎 (日本) 2:37.4  
(35.7 1:15.6 1:56.8)  
2 J. フニコフ (ソ連) 2:37.5  
(35.7 1:15.2 1:56.4)  
3 I. カレットニコフ (ソ連) 2:37.6  
(35.2 1:14.9 1:58.8)  
4 H. ムラッエク (西ドイツ) 2:38.5  
(35.8 1:15.8 1:57.4)  
5 敷石義秋 (日本) 2:38.8  
(34.7 1:14.7 1:56.4)  
6 和気統 (日本) 2:40.1  
(36.6 1:17.6 1:58.8)  
7 大渡幹士 (日本) 2:45.1  
(35.2 1:16.9 2:00.4)

決勝 (10/12)

1 I. カレットニコフ (ソ連) 2:34.1  
(34.7 1:13.7 2:53.6)  
2 松本健次郎 (日本) 2:34.2  
(34.5 1:14.3 1:54.4)  
3 敷石義秋 (日本) 2:35.4  
(一 1:13.5 一)  
4 J. フニコフ (ソ連) 2:36.9  
(34.7 1:14.9 1:55.7)  
5 中野勇治 (日本) 2:37.0  
(35.1 1:15.4 1:56.7)

6 石川 健二 (日本) 2:38.1  
(35.6 1:15.7 1:56.7)  
7 鶴 峯 治 (日本) 2:39.2  
(35.7 — 1:57.3)  
8 H. ムラツエク (西ドイツ) 2:40.2  
(35.1 1:15.2 1:57.1)

男子 100m バタフライ

1組 (10/13)  
1 中 島 功 (日本) 59.5  
(27.7)  
2 佐 藤 好 助 (日本) 59.6  
(28.0)  
3 J. イスクート (オランダ) 1:00.6  
(28.4)  
4 大 賀 睦 郎 (日本) 1:00.8  
(—)  
5 江 東 正 (日本) 1:03.0  
(29.8)  
6 山 野 内 伸 二 (本 日) 1:04.9  
(29.6)

2組  
1 大 林 敦 (日本) 59.8  
(27.8)  
2 増 永 文 昭 (日本) 1:00.3  
(28.2)  
3 W. フライターク (西ドイツ) 1:00.9  
(28.4)  
4 V. クジミン (ソ 連) 1:01.4  
(27.6)  
5 上 田 紀 男 (日本) 1:01.6  
(28.9)

決 勝 (10/13)  
1 佐 藤 好 助 (日本) 59.8  
(28.0)  
2 大 林 敦 (日本) 59.9  
(27.8)  
3 中 島 功 (日本) 1:00.0  
(27.7)  
4 大 賀 睦 郎 (日本) 1:00.6  
(28.1)  
5 増 永 文 昭 (日本) 1:00.7  
(28.3)  
6 J. イスクート (オランダ) 1:00.8  
(—)  
7 W. フライターク (西ドイツ) 1:00.9  
(27.9)  
クジミン (ソ 連) 棄 権

男子 200m バタフライ

1組 (10/18)  
1 V. クジミン (ソ 連) 2:17.9  
(31.2 1:05.6 1:42.6)

2 大 林 敦 (日本) 2:18.1  
(30.5 1:07.4 1:41.8)  
3 佐 藤 好 助 (日本) 2:20.2  
(31.4 1:06.7 1:42.6)  
4 上 田 紀 男 (日本) 2:20.7  
(1:07.4 — 1:42.5)  
5 大 賀 睦 郎 (日本) 2:20.9  
(30.1 — 1:43.4)  
6 B. ガブリロフ (ソ 連) 2:25.3  
(31.1 1:07.5 1:46.1)

2組  
1 中 島 功 (日本) 2:16.9  
(29.4 1:04.3 1:40.3)  
2 W. フライターク (西ドイツ) 2:19.8  
(30.7 1:06.5 1:43.7)  
3 山 野 内 伸 二 (日本) 2:20.0  
(32.3 1:08.0 1:44.3)  
4 増 永 文 昭 (日本) 2:20.1  
(31.0 1:06.8 1:43.3)  
5 江 本 正 (日本) 2:21.3  
(31.5 1:07.4 1:44.8)

決 勝 (10/14)  
1 佐 藤 好 助 (日本) 2:13.4  
(28.2 1:02.9 1:36.8)  
2 V. クジミン (ソ 連) 2:13.8  
(30.1 1:04.6 1:39.8)  
3 W. フライターク (西ドイツ) 2:14.2  
(30.4 1:05.0 1:40.4)  
4 大 林 敦 (日本) 2:15.5  
(29.9 1:04.2 1:39.6)  
5 増 永 文 昭 (日本) 2:17.5  
(30.4 1:05.3 1:41.1)  
6 中 島 功 (日本) 2:18.9  
(29.0 1:04.2 1:40.0)  
7 上 田 紀 男 (日本) 2:20.4  
(31.0 1:06.1 1:41.5)  
8 山 野 内 伸 二 (日本) 2:21.3  
(— 1:07.2 —)

男子 100m 背 泳

1組 (10/14)  
1 V. マザノフ (ソ 連) 1:02.9  
(30.8)  
2 伊 藤 圭 祐 (日本) 1:04.2  
(30.5)  
3 五 十 嵐 武 清 (日本) 1:04.9  
(31.0)  
4 大 隅 潔 (日本) 1:06.1  
(31.5)  
5 三 木 正 二 郎 (日本) 1:08.3  
(33.1)

## B

1	福島 滋 雄	(日 本)	1:03.6 (30.8)
2	富 田 一 雄	(日 本)	1:03.6 (29.2)
3	E.J. キュッパース	(西ドイツ)	1:03.9 (30.7)
4	田 中 広 征	(日 本)	1:05.0 (34.1)
5	中 原 紀	(日 本)	1:05.1 (31.4)

## 決 勝 (10/14)

1	E.J. キュッパース	(西ドイツ)	1:03.0 (30.1)
2	福島 滋 雄	(日 本)	1:03.0 (30.3)
3	V. マザノフ	(ソ 連)	1:03.0 (30.4)
4	伊 藤 圭 祐	(日 本)	1:03.7 (—)
5	五十嵐 武 清	(日 本)	1:04.2 (30.7)
6	富 田 一 雄	(日 本)	1:04.3 (30.2)
7	田 中 広 征	(日 本)	1:04.9 (—)
8	中 原 紀	(日 本)	1:04.9 (31.1)

## 男子 200m 背 泳

## 1組 (10/13)

1	福島 滋 雄	(日 本)	2:17.7 (30.6 1:04.0 1:41.2)
2	V. マザノフ	(ソ 連)	2:19.1 (32.6 1:07.5 1:43.2)
3	田 中 広 征	(日 本)	2:21.8 (32.4 1:08.0 —)
4	伊 藤 圭 祐	(日 本)	2:21.8 (32.2 1:07.7 1:44.1)
5	五十嵐 武 清	(日 本)	2:22.2 (33.0 1:09.9 1:46.6)

## 2組

1	E.J. キュッパース	(西ドイツ)	2:20.8 (32.3 1:07.7 1:45.6)
2	富 田 一 雄	(日 本)	2:21.0 (31.3 1:06.8 1:43.9)
3	中 原 紀	(日 本)	2:21.8 (32.3 1:08.2 1:44.9)
4	大 隅 潔	(日 本)	2:23.1 (32.2 1:08.4 1:45.1)
5	三 木 正 二 郎	(日 本)	2:32.3 (33.4 1:11.8 1:52.6)

## 決 勝 (10/13)

1	福島 滋 雄	(日 本)	2:11.9 (30.6 1:03.9 1:37.2) (日本新)
2	V. マザノフ	(ソ 連)	2:15.7 (31.7 1:06.5 1:40.9)
3	E.J. キュッパース	(西ドイツ)	2:16.8 (30.9 1:05.6 1:40.5)
4	富 田 一 雄	(日 本)	2:19.7 (30.4 1:05.5 1:41.7)
5	伊 藤 圭 祐	(日 本)	2:20.7 (32.0 1:07.1 1:43.6)
6	田 中 広 征	(日 本)	2:21.3 (32.3 1:08.1 1:44.7)
7	中 原 紀	(日 本)	2:21.7 (32.5 1:08.6 1:45.2)
8	五十嵐 武 清	(日 本)	2:22.1 (32.4 1:08.6 1:45.8)

## 男子 400m 個人メドレー

## 決 勝 (10/12)

1	G. ヘ ッ ツ	(西ドイツ)	4:50.2 (1:03.7 2:19.2 3:44.0) (世界新)
2	山 影 武 士	(日 本)	5:07.3 (1:07.6 2:29.1 4:00.1)
3	B.A. ガブリロフ	(ソ 連)	5:07.5 (1:07.3 2:24.0 3:55.8)
4	片 岡 輝 男	(日 本)	5:13.5 (1:05.7 2:28.2 3:40.1)

## 女子 100m 自由形

## A (10/12)

1	E. テルプストラ	(オランダ)	1:03.8 (29.8)
2	菊 谷 多 鶴 子	(日 本)	1:08.0 (33.4)
3	浅 野 桂 子	(日 本)	1:09.4 (32.5)
4	中 川 静 子	(日 本)	1:10.4 (33.3)
5	小 林 由 美 子	(日 本)	1:10.5 (32.3)

## 2組

1	A.C. ハグベリ	(スエーデン)	1:02.1 (29.5) (国新)
2	東 美 代 子	(日 本)	1:05.9 (30.6)
3	木 村 ト ヨ 子	(日 本)	1:06.2 (31:2)
4	浦 上 涼 子	(日 本)	1:07.9 (30.8)
5	辻 本 妙 子	(日 本)	1:08.8 (—)

決勝 (10/12)

1	A.C. ハグベリ	(スウェーデン)	1:02.2
		(29.2) (国タイ)	
2	E. テルプストラ	(オランダ)	1:03.6
		(29.8)	
3	東美代子	(日本)	1:06.0
		(30.4)	
4	木村トヨ子	(日本)	1:06.1
		(30.8)	
5	菊谷多鶴子	(日本)	1:07.8
		(32.4)	
6	浦上涼子	(日本)	1:08.0
		(30.9)	
7	辻本妙子	(日本)	1:09.3
		(32.4)	
8	浅野桂子	(日本)	1:09.6
		(—)	

女子200m自由形

1組 (10/13)			
1	E. テルプストラ	(オランダ)	2:24.5
		(31.6 1:08.9 1:47.9)	
2	木村トヨ子	(日本)	2:24.8
		(32:9 1:09.5 1:47.0)	
3	江坂君子	(日本)	2:30.7
		(—)	
4	東美代子	(日本)	2:37.4
		(33.3 1:13.0 1:54.7)	
5	浅野桂子	(日本)	2:39.1
		(33.4 1:13.0 1:50.0)	
6	中川静子	(日本)	2:45.6
		(33.9 1:16.2 1:56.0)	

2組			
1	A.C. ハグベリ	(スウェーデン)	2:20.4
		(30.4 1:05.2 1:42.6)	
2	菊谷多鶴子	(日本)	2:28.4
		(32.9 1:10.4 1:50.2)	
3	A. ラステリ	(オランダ)	2:28.8
		(33.3 1:10:7 1:50.6)	
4	辻本妙子	(日本)	2:33.2
		(34.0 1:12.3 1:52.7)	
5	浦上涼子	(日本)	2:35.8
		(33.3 1:12.5 1:53.2)	

決勝			
1	A.C. ハグベリ	(スウェーデン)	2:18.6
		(30.4 1:05.3 1:41.4)	
2	木村トヨ子	(日本)	2:22.8
		(32.3 1:09.1 1:46.5)	
3	E. テルプストラ	(オランダ)	2:23.9
		(31.1 1:08.2 1:46.9)	
4	A. ラステリ	(オランダ)	2:24.5
		(32.6 1.09.6 1:47.1)	

5	江坂君子	(日本)	2:26.0
		(32.5 1.09.4 1:47.3)	
6	菊谷多鶴子	(日本)	2:28.2
		(32.5 1:10.6 1:48.9)	
7	辻本妙子	(日本)	2:29.2
		(33.0 1:14.0 1:49.2)	
8	浦上涼子	(日本)	2:30.3

女子400m自由形

決勝 (10/14)			
1	P.O. リュングレン	(スウェーデン)	5:01.0
		(1:10.7 2:28.0 3:45.2)	
2	木村トヨ子	(日本)	5:05.2
		(1:11.5 2:29.0 3:47.3)	
3	菊谷多鶴子	(日本)	5:11.3
		(1:11.5 2:30.5 3:32.5)	
4	江坂君子	(日本)	5:19.3
		(1:12.8 2:30.2 3:51.7)	
5	村松美智子	(日本)	5:13.7
		(1:12.3 2:32.5 3:57.1)	
6	浦上涼子	(日本)	5:19.6
		(1:12.6 2:34.2 3:57.7)	

女子100m平泳

1組 (10/12)			
1	K. ビルモト	(オランダ)	1:20.1
		(38.3) (国新)	
2	M. ホッフマン	(西ドイツ)	1:20.5
		(37.3)	
3	松本信子	(日本)	1:23.7
		(38.8)	
4	森実芳子	(日本)	1:24.3
		39.4	
5	元川暁美	(日本)	1:25.5
		(40.2)	
6	青木幸子	(日本)	1:26.5
		(40.8)	
2組			
1	山本憲子	(日本)	1:20.3
		(37.4)	
2	G. プロズメンシコフ	(ソ連)	1:20.7
		(37.8)	
3	W. ウルゼルマン	(西ドイツ)	1:20.9
		(38.3)	
4	田上和子	(日本)	1:25.8
		(40.1)	
5	川西繁子	(日本)	1:27.7
		(40.8)	

決勝 (10/12)			
1	G. プロズメンシコフ	(ソ連)	1:19.8
		(37.5) (国新)	
2	K. ビルモト	(オランダ)	1:20.2
		(38.0)	

3	W. ウルゼルマン	(西ドイツ)	1:20.5 (37.9)
4	山本 憲子	(日本)	1:20.7 (37.8)
5	M. ホッフマン	(西ドイツ)	1:21.3 (38.0)
6	森 実 芳 子	(日本)	1:24.9 (39.6)
7	松 本 信 子	(日本)	1:24.9 (39.1)
8	元 川 暁 美	(日本)	1:25.9

女子 200m 平 泳

1組 (10/14)			
1	K. ビモルト	(オランダ)	2:56.0 (39.9 1:24.7 2:10.4)
2	W. ウルゼルマン	(西ドイツ)	2:57.0 (39.4 1:25.0 2:11.0)
3	青 木 幸 子	(日本)	3:01.8 (41.2 1:27.2 2:14.2)
4	田 上 和 子	(日本)	3:02.2 (41.6 1:27.8 2:15.0)
5	森 実 芳 子	(日本)	3:04.9 (— 1:31.6 —)
6	川 西 繁 子	(日本)	3:08.0 (43.5 1:32.1 2:20.9)

2組			
1	G. プロズメンシコワ	(ソ 連)	2:52.5 (38.6 1:22.6 2:07.1) (国新)
2	山 本 憲 子	(日本)	2:58.2 (39.1 1:24.1 2:11.0)
3	M. ホッフマン	(西ドイツ)	2:58.5 (38.0 1:22.9 2:10.4)
4	元 川 暁 美	(日本)	3:01.4 (41.0 1:27.3 2:14.1)
5	松 本 信 子	(日本)	3:04.9 (40.7 1:27.5 2:15.8)

決勝 (10/14)			
1	G. プロズメンシコワ	(ソ 連)	2:49.1 (38.3 1:21.7 2:05.5) (国新)
2	K. ビモルト	(オランダ)	2:51.3 (39.1 1:22.2 2:06.3)
3	W. ウルゼルマン	(西ドイツ)	2:55.2 (38.9 1:23.4 2:08.9)
4	M. ホッフマン	(西ドイツ)	2:56.0 (— 1:23.2 —)
5	山 本 憲 子	(日本)	2:56.8 (39.0 1:24.0 2:10.0)
6	青 木 幸 子	(日本)	3:01.1 (— 1:26.5 —)
7	田 上 和 子	(日本)	3:02.4

			(41.1 1:27.3 2:15.2)
8	元 川 暁 美	(日本)	3:02.9 (41.0 1:29.0 2:14.6)

女子 100m バタフライ

1組 (10/13)			
1	A. コック	(オランダ)	1:10.8 (32.4)
2	H. フーステット	(西ドイツ)	1:11.3 (32.9)
3	佐 藤 公 子	(日本)	1:11.7 (33.4)
4	斎 藤 弘 子	(日本)	1:21.1 (33.2)
5	石 井 雅 子	(日本)	1:15.7 (34.5)
2組			
1	高 橋 栄 子	(日本)	1:08.5 (32.0) (日本新)
2	K. ステンベック	(スエーデン)	1:11.6 (33.6)
3	V. ヤコブレワ	(ソ 連)	1:11.8 (33.6)
4	山 田 佐 代 子	(日本)	1:12.7 (33.8)
5	松 田 奈 津 子	(日本)	1:14.8
6	池 田 婦 美 子	(日本)	1:14.8 (34.1)

決勝 (10/13)			
1	高 橋 栄 子	(日本)	1:09.0 (32.4) (日本新)
2	A. コック	(オランダ)	1:10.2 (32.2)
3	V. ヤコブレワ	(ソ 連)	1:10.8 (32.5)
4	K. ステンベック	(スエーデン)	1:10.8 (32.4)
5	佐 藤 公 子	(日本)	1:10.9 (32.6)
6	斎 藤 弘 子	(日本)	1:11.6 (32.7)
7	H. フーステット	(西ドイツ)	1:12.4 (32.4)
8	山 田 佐 代 子	(日本)	1:12.4 (33.4)

女子 200m バタフライ

1組 (10/14)			
1	斎 藤 弘 子	(日本)	2:41.2 (35.2 1:16.4 1:59.5)
2	K. ステンベック	(スエーデン)	2:42.8 (35.1 1:16.3 1:59.2)
3	佐 藤 公 子	(日本)	2:43.8 (34.5 1:15.2 1:58.5)
4	H. フーステット	(西ドイツ)	2:44.8 (35.3 1:16.5 2:00.3)
5	松 田 奈 津 子	(日本)	2:47.0 (35.2 1:16.0 2:00.5)
6	池 田 婦 美 子	(日本)	2:52.6 (35.7 1:18.6 2:04.5)
2組			
1	高 橋 栄 子	(日本)	2:37.7 (1:13.8)
2	A. コック	(オランダ)	2:42.2 (1:17.3)
3	山 田 佐 代 子	(日本)	2:48.2



4	V. ヤコブレワ	(ソ 連)	(1:17.8) 2:56.0 (1:16.0)
5	石 井 雅 子	(日 本)	2:56.4 (1:22.3)

決勝 (10/14)

1	高 橋 栄 子	(日 本)	2:32.9 (33:2 1:11.6 1:52.0)
2	K. ステンベック	(スエーデン)	2:37.2 (34.9 1:15.1 1:57.4)
3	佐 藤 公 子	(日 本)	2:39.8 (1:15.1)
4	斎 藤 弘 子	(日 本)	2:40.3 (34.8 1:15.7 1:58.1)
5	A. コ ッ ク	(オランダ)	2:41.3 (34.2 1:15.0 1:57.9)
6	H. フーステット	(西ドイツ)	2:41.8 (34.7 1:14.9 1:57.4)
7	山 田 佐 代 子	(日 本)	2:46.7 (35.0 1:15.6 2:00.5)
8	松 田 奈 津 子	(日 本)	2:47.4 (1:15.3)

女子 100m 背 泳

決勝 (10/14)

1	田 中 聰 子	(日 本)	1:09.6 (33:1)
2	C. キ ャ ロ ン	(フランス)	1:10.0 (33.7)
3	C. ウィンケル	(オランダ)	1:10.6 (33.1)
4	木 原 美 知 子	(日 本)	1:11.9 (34.2)
5	四 本 博 美	(日 本)	1:14.2
6	松 永 涼 子	(日 本)	1:16.2 (36.4)
7	岡 田 八 詠 子	(日 本)	1:16.9
8	佐 藤 美 代 子	(日 本)	1:18.7 (36.8)

女子 200m 背 泳

決勝 (10/12)

1	田 中 聰 子	(日 本)	2:30.6 (34.2 1:12.1 1:50.6)
2	C. キ ャ ロ ン	(フランス)	2:34.4 (35.4 — 1:54.3)
3	C. ウィンケル	(オランダ)	2:34.6 (34.2 — 1:52.7)
4	木 原 美 知 子	(日 本)	2:35.3 (36.1 — 1:55.9)
5	四 本 博 美	(日 本)	2:42.0 (35.9 — 1:56.5)

6	岡 田 八 詠 子	(日 本)	2:44.5 (37.1 — 2:01.0)
7	松 永 涼 子	(日 本)	2:45.9 (37.6 — 2:01.6)
8	佐 藤 美 代 子	(日 本)	2:50.4 (35:9 — 1:56.5)

女子 400m 個人メドレー

決勝 (10/12)

1	A. ラ ス テ リ	(オランダ)	5:41.4 (1:14.3 2:46.7 4:25.1)
2	江 坂 君 子	(日 本)	5:43.7 (1:15.5 2:42.5 4:24.1)
3	村 松 美 知 子	(日 本)	5:53.8 (1:21.3 2:48.1 4:31.5)
4	松 田 奈 津 子	(日 本)	6:01.0 (1:13.7 2:51.3 4:34.6)

男子 飛板飛込

決勝 (10/13)

1	K. スイツパーカー	(アメリカ)	156.70
2	土 佐 忠 雄	(日 本)	145.77
3	長 東 悦 郎	(日 本)	129.73
4	山 野 外 嗣 夫	(日 本)	129.36
5	坂 手 昭 治	(日 本)	123.19

男子 高 飛 込

決勝 (10/14)

1	R. ウエプスター	(アメリカ)	150.72
2	金 戸 俊 介	(日 本)	144.06
3	K. コンツォル	(西ドイツ)	140.66
4	田 原 和 夫	(日 本)	137.44
5	大 坪 敏 郎	(日 本)	136.21
6	谷 口 博	(日 本)	127.13

女子 飛板飛込

決勝 (10/12)

1	渡 辺 久 美 子	(日 本)	133.19
2	馬 淵 か の 子	(日 本)	126.03
3	L. ク ー パ ー	(アメリカ)	109.51
4	葛 目 千 鶴 子	(日 本)	101.05
5	友 江 嘉 代 子	(日 本)	97.46

女子 高 飛 込

決勝 (10/13)

1	L. ク ー パ ー	(アメリカ)	88.84
2	渡 辺 久 美 子	(日 本)	88.56
3	大 崎 恵 子	(日 本)	79.46
4	友 江 嘉 代 子	(日 本)	78.96
5	河 合 初 子	(日 本)	77.76
6	石 黒 の ぶ よ	(日 本)	67.61

水球競技については別項 (ハンガリーと対戦して一神田明善) に詳細に掲載してあります。

男子高飛込決勝 (10月14日)

氏名 (所属)	1	2	3	4	5
ロバート・ウェブスター (アメリカ)	逆立宙(A) 11.36	後飛(B) 14.25	前逆飛(B) 13.49	前宙1½(B) 11.68	後踏切前宙1½(B) 14.58
金戸俊介 (日本)	逆立宙(B) 11.52	前逆飛(B) 13.30	後飛(B) 13.30	後踏切前宙1½(B) 12.60	前宙1½(B) 12.32
クラス・コンツォル (西独)	逆立宙(B) 11.04	後飛(B) 13.30	前逆飛(B) 12.73	前宙1½・1捻(D) 15.87	後踏切前宙1½(B) 12.42
田原和夫 (日本)	前宙1½(B) 9.44	前宙1½・1捻(D) 14.72	後踏切前宙1½(B) 11.88	逆立宙(B) 10.72	前逆飛(B) 12.35
大坪敏郎 (日本)	逆立宙(B) 12.16	後踏切前宙1½(B) 12.24	前宙1・(B) 9.60	前逆飛(B) 14.44	後飛(B) 13.49
谷口博 (日本)	逆立宙(B) 10.72	前宙1½(B) 10.24	後飛(B) 12.35	前逆飛(B) 12.35	後踏切前宙1½(B) 12.06

女子高飛込決勝 (10月13日)

リンダ・クーバー (アメリカ)	前飛(A) 10.72	後飛(B) 9.88	前逆飛(A) 12.80	後踏切前飛(A) 9.76/43.16	前宙2½(B) 10.78
渡辺久美子 (日本)	(A) 9.24	前逆飛(A) 13.14	後踏切前飛(B) 10.22	後飛(A) 10.07/42.67	後踏切前宙2½(C) 17.76
大崎恵子 (日本)	(A) 10.88	後踏切前飛(B) 7.84	後飛(A) 11.97	前逆飛(A) 11.60/41.65	後踏切前宙1½(B) 12.60
友江嘉代子 (日本)	(A) 10.24	後飛(A) 13.68	前逆飛(A) 10.08	後踏切前飛(B) 7.42/42.06	前宙2½(B) 7.24
河合初子 (日本)	(A) 9.92	前逆飛(A) 11.70	後踏切前飛(A) 11.04	後飛(A) 11.78/44.44	前宙2½(B) 8.80
石黒のぶよ (日本)	(A) 6.88	後飛(A) 10.26	前逆飛(A) 12.20	後踏切前飛(A) 9.44/38.78	前宙2½(B) 11.88

(註) A—伸型 B—蝦型 C—抱型 D—自由型

6	7	8	9	10	合計	順位
前捻1½・1捻(D) 17.02/82.38	前宙 3½ (C) 8.58	後宙 2½ (C) 19.50	前宙1½・2捻(D) 21.06	宙後踏切前 2½(C) 19.20	150.72	1
前宙1½・1捻(D) 16.10/79.14	前宙1½・2捻(D) 18.20	後宙 1½ (A) 18.20	後踏切前宙 2½(B) 16.10	宙前 3½ (D) 12:42	144.06	2
前宙 1½ (B) 11.68/77.04	逆立・中抜・後飛(B) 16.56	後踏切前宙2½(B) 17.42	前宙 2½ (B) 14.30	宙前 1½・2捻(D) 15.34	140.66	3
後飛(B) 12.54/71.65	逆立宙2回(B) 3.11	後踏切前宙2½(C) 16.80	前宙 3½ (C) 18.20	前宙 1½・2捻(D) 17.68	137.44	4
前宙1½・1捻(D) 15.18/77.11	後踏切前宙 2½(B) 16.38	後宙1½ (A) 10.58	前逆宙1½ (C) 15.40	前宙 3½ (B) 16.74	136.21	5
前宙1½・1捻 15.87/73.59	前宙2½(B) 15.18	前宙 1½・2捻(D) 15.60	後踏切前2½(C) 11.52	前逆宙1½(C) 11.24	127.13	6

後踏切前宙 2½(C) 16.90	前宙1½・2捻(D) 18.00	88.84	1
前宙2½(B) 13.64	前宙1½・1捻(D) 14.49	88.56	2
前宙 2½(B) 10.72	前宙1½・1捻(D) 14.49	79.46	3
後宙 1½(A) 15.41	後踏切前宙 2½(B) 12.22	78.93	4
前宙1½1捻(D) 15.64	後踏切前宙2½(C) 8.88	77.76	5
後宙 1½(A) 7.59	前宙1½・2捻(D) 9.36	67.61	6

男子飛板飛込決勝 (10月13日)

氏名 (所属)	1	2	3	4	5
ケネス・シッツパーカー (アメリカ)	前飛(B) 10.36	後飛(B) 12.41	前逆飛(B) 14.06	後踏切前飛(B) 9.36	前飛半回捻(A) 14.44/60.63
土佐忠雄 (日本)	(A) 11.68	(B) 11.05	(B) 15.20	(A) 10.95	(A) 13.87/62.75
長東悦朗 (日本)	(A) 11.36	(B) 12.07	(B) 12.16	(A) 9.30	(A) 13.49/58.38
山野外嗣夫 (日本)	(A) 10.40	(B) 12.41	(B) 14.06	(A) 10.05	(A) 12.73/59.65
坂手昭治 (日本)	(A) 8.00	(B) 11.05	(B) 12.16	(A) 9.75	(A) 11.02/51.98

女子飛板飛込決勝 (10月12日)

渡辺久美子 (日本)	(A) 11.36	(A) 11.22	(A) 14.04	(B) 9.10	(A) 13.87/59.59
馬淵かの子 (日本)	(A) 11.68	(A) 10.54	(A) 13.11	(A) 10.05	(A) 13.49/58.87
リンダ・クーパー (アメリカ)	(A) 10.56	(A) 10.03	(A) 12.92	(B) 7.80	(A) 11.97/53.28
葛目千鶴子 (日本)	(B) 9.80	(B) 10.20	(B) 9.31	(B) 8.97	(A) 11.40/49.68
友江嘉代子 (日本)	(A) 10.72	(B) 8.67	(B) 6.27	(B) 7.41	(A) 10.83/43.90

(註) A—伸型 B—蝦型 C—抱型 D—自由型

6	7	8	9	10	合計	順位
後踏切前宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 16.90	後宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 19.32	前逆宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 20.16	前宙 $3\frac{1}{2}$ (C) 18.63	後宙 $1\frac{1}{2}2\frac{1}{2}$ 捻り(D) 21.06	156.70	1
前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (A) 18.98	後宙 $1\frac{1}{2}$ (A) 16.50	後踏切前宙 $2\frac{1}{2}$ (B) 17.16	前逆宙 $1\frac{1}{2} \cdot 1\frac{1}{2}$ 捻り(D) 17.42	前宙 $3\frac{1}{2}$ (D) 12.96	145.77	2
前宙 $2\frac{1}{2}$ (B) 15.41	前宙 $1\frac{1}{2}$ 2回捻(D) 13.92	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 15.84	後宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 10.78	後踏切前宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 15.40	129.73	3
前宙 $2\frac{1}{2}$ (B) 16.33	後宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 14.30	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 14.64	後踏切前宙 $2\frac{1}{2}$ (B) 9.36	前逆宙 $1\frac{1}{2} \cdot 1\frac{1}{2}$ 捻(D) 15.08	129.36	4
前宙 $2\frac{1}{2}$ (B) 12.65	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 13.44	後宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 14.74	後踏切前宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 14.30	後宙 $1\frac{1}{2} \cdot 1\frac{1}{2}$ 捻(D) 16.08	123.19	5

前宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 15.12	後宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 14.08	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 15.60	前宙 $1\frac{1}{2} \cdot 1$ 回捻(D) 14.28	後踏切前宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 14.52	133.19	1
前宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 7.98	後宙 $1\frac{1}{2}$ (A) 14.74	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 13.20	後踏切前宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 15.40	後宙 $1\frac{1}{2} \cdot 1\frac{1}{2}$ 捻(D) 15.84	126.03	2
前宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 12.81	後踏切前宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 12.98	後宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 11.22	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (C) 12.98	前宙 $1\frac{1}{2} \cdot 2$ 回捻(D) 6.24	109.51	3
前宙 $2\frac{1}{2}$ (C) 12.18	後宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 9.24	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 7.92	後踏切前宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 13.42	前宙 $1\frac{1}{2} \cdot 1$ 回捻(D) 8.61	101.05	4
前宙 $2\frac{1}{2}$ (B) 10.35	後宙 $1\frac{1}{2}$ (A) 11.44	前逆宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 7.20	後踏切前宙 $1\frac{1}{2}$ (B) 13.86	前宙 $1\frac{1}{2} \cdot 1$ 回捻(D) 10.71	97.46	5

## ハンガリー水球チームと対戦して

日本チーム水球コーチ 神田明善

水球関係者一同永年の宿願である世界最強のハンガリーナショナルチームの来日が実現し、その最高の技術に接する事が出来るのは正に千載一遇の好機であった。

勿論東京オリンピックという偉大なる御題目の為ではあるが、この快挙が実現するまでの日本水泳界の努力、ライキ氏の好意等に対して心から感謝する次第である。

而も東京オリンピックのリハーサルである東京国際スポーツ大会という晴れの舞台上で迎え撃てるとは。

今まで数度の海外遠征が試みられて来たが、それは選手自身の体験が主目的であった。勿論コーチの立場からも色々参考意見が出されて来たが今回の様に数多くの関係者が世界一流プレイヤーの技術に接しあらゆる方向から検討出来ることは今後の強化方針を更に強力なものに方向づけるものと心強く感ずる次第である。

最初はこの好機に出来るだけ多くの選手をぶつけることが望ましいと計画していたが練習ゲームならいざ知らず本大会に於いてあまり力の差のあるチームが対戦することは相手に対しても失礼であり日本チームの活躍を期待して観戦に来る水上競技ファンに対しても申し訳ないので本大会の3試合には現在の最強チームを編成して対戦する事になった。

ローマオリンピック大会以来数度の海外遠征に於ける経験を基礎として選手強化に専念して来た強化コーチの成果を関係者に問う絶好機でもあった。

10月12, 13 14日の本大会を目標に9月25日より日本青年会館に合宿し神宮プール及び都室内プールを使い本年度欧州遠征及びユニバーシアード大会参加チームの体験をもとに機動力(泳耐力も含む)に重点を置き対戦仕上げに邁進した。

### 全日本選抜チーム

監督	鴫田 武	N大OB
コーチ	神田 明善	K大OB
マネージャー	岩田 隆雄	H大OB
選手	荒川 八郎 (主将) (29)	BW テアトル東京 (K大OB)
	高木 弘毅 (26)	FW 東京美装KK (N大OB)
	飯田 矩偉 (24)	GK 安田生命KK (C大OB)
	藤本 重信 (23)	FW BSタイヤKK (N大OB)

青山 礼三 (23)	BW	川島繊維 (N大OB)
清水 洋二 (22)	FW	東急不動産 (K大OB)
横山 隆 (22)	BW	日興証券KK (C大OB)
井上 宏 (22)	BW	K大 4年
皐月 啓左 (21)	FW	W大 4年
竹内 和也 (21)	FW	W大 3年
住谷 栄之助 (20)	GK	K大 2年

### ハンガリーナショナルチーム

監督	L. Laky (47)	
選手	K. Markovics (32)	B.W. 主将
	D. Gyarmati (37)	B.W. 兼 E.W.
	O Boros (34)	G.K.
	T. Kanisa (30)	F.W.
	M. Mayer (30)	B.W.
	Z. Domotor (28)	F.W.
	G. Karpati (28)	F.W.
	L. Felkai (22)	F.W.
	J. Konrad (22)	F.W.
	D. Pocsik (23)	B.W.

第1回戦 10月12日 東京都屋内プール  
審判 丸笹治彦 (W大OB)  
ゴールジャッジ 小谷 (K大OB)  
植中 (K大OB)

日本 1  $\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 0-2 \\ 0-4 \\ 0-2 \end{array} \right\}$  9 ハンガリー

19 O.F 30  
3 M.F 7  
0 P.T 0

### 出場ピリオード

飯田	1. 2. 3. 4	G.K. Boros	1. 2. 3. 4
荒川	1. 2. 4	L.B. Mayer	1. 2. 3
横山	1. 2. 3. 4	R.B. Gyarmati	1. 2
竹内	1. 3. 4	H.B. Markovics	1. 2. 3
清水	1. 2. 3. 4	L.F. Kanisa	1. 2. 4
藤本	1. 3. 4	C.F. Domotor	1. 2. 3. 4
高木	1. 2. 3. 4	R.F. Karpati	1. 2. 3. 4
青山	2	8 Felkai	3. 4

井上	2, 3	9	Konrad	3, 4
泉月		10	Pocsik	4
住谷		11		

来日以来の練習とは異なり、流石本番になると確実なゲーム運びを見せてくれた。どんな小さなチャンスでも全員で得点まで盛り上げる攻防転換の早さ、パスの適確さ、ピンチに於けるフェール等日本チームがこれから身につけなければならぬ点を数々教えてくれる。この様な得点差はむしろ技術や力よりも経験から来る試合の掛け引きに負う所が多い。相手チームの中で多い者は140~150回少ない者でも60~70回の国際試合に出場しているそうである。特に G.K. などに正面向って構えられると一分の隙もなく全く打つ手がなく攻撃力も日頃の半分もなく、徒らに攻守所を換える結果となってしまった。但し実力差のあるゲームを進め乍らあまりに反則の数が違うのは残念であった。日本の反則19、ハンガリー30、併し④マルコビッチは B.W であり乍ら1ゲームを通じて1反則しかしていなかったのは流石に名 B.W だ。それでいて自軍のゴール前にも下れば攻撃にも参加するなど文字通りチームの要であった。攻防転換期の判断などは超一流で⑦キャルパターと共にハンガリー否世界水球界の名伯楽であるライキ氏の秘蔵子であることが充分頷かれる。

第1ピリオードハンガリーが調子の出ない内に先取得点(竹内)をすも直ちに返され同点とされてしまった欧州の一流チームは皆そうであるが特にハンガリーになると得点された後が一つのポイントで猛反撃を繰返し必ず対になるまで全力攻撃を掛けて来る。

第2ピリオード以後は完全にハンガリーペースに巻き込まれてしまった事は誠に残念であるが各得点されたケースを具さに研究し更に今後の強化対策に取り入れ充分訓練せねばならない。何れにせよ相手と四つに組合って防禦体制を敷いた時に得点されたケースは少なく寧ろ攻防転換時に作られるチャンスが一番危険でこの瞬間の反撃を抑える事がこの様な得点差を縮める最大要点である。

第2回戦 10月12日 都屋内プール

審判 名取正也 (K大OB)  
 ゴールチャッチ 菅原 (N大OB)  
 安藤 (W大OB)

日本	1	$\left\{ \begin{array}{l} 0-1 \\ 1-2 \\ 0-2 \\ 0-1 \end{array} \right\}$	6	ハンガリー
----	---	--	---	-------

20	O.F	34
1	M.F	0
0	P.T	1

出場ピリオード

飯田	1, 2, 3, 4	G.K. Boros	1, 2, 3, 4
荒川	1, 2, 3, 4	L.B. Mayer	1, 2
横山	1, 2, 3, 4	R.B. Gyarmati	1, 2
竹内	1, 2, 4	H.B. Markovics	1, 2, 3, 4
清水	1, 2, 3, 4	L.F. Kanizsa	1, 2
藤本	1, 2, 4	C.F. Domotor	1, 2, 3, 4
高木	1, 2, 3, 4	R.F. Karpati	1, 2, 3, 4
青山	3	8 Eelkai	3, 4
井上	3	9 Konrad	3, 4
泉月		10 Pocsik	3, 4
住谷		11	

第1回戦の大敗に鑑みマイボールになってかのボール回転を慎重に確実に繰返してみた今春来日したドイツコーチ連も口をすっぱくして云っていたキープの要領はかなり身につけて来たのであるが未だキープの為のキープに終わってしまい、チャンスに球が通らない欠点がある。この不成功は勿論投げる方にも原因があるが、パスを受ける方がもっと活きたタイミングで動作してやる必要がある。

第2ピリオードまでは互角に試合を進める事が出来たが、このピリオードの後1分という所でペナルティーを取られたのは痛かった。

ハンガリーチームの作戦は何時も山を第3ピリオードにもって来る。そして一気に呵成に勝負を決して来るのが常で欧州遠征の際にも散々苦い経験を嘗めさせられているので藤本、竹内を上げて青山、井上の B.W 陣を戦列に加え万全の防禦体制を敷いてめた。敵もこの第3ピリオードを撃滅期と見てか一気に技術より力で押しまくる作戦に出たのか年寄りを引き込み若手全選手を注入して来た。正に第2回戦の関ヶ原である。敵は実によく動き日本チームが必死に追いつがるが相手を捕える事が出来ず致命的な2点を取られてしまった。このピリオード両軍とも反則数が非常に少なかったことが如何に動きが速かったかが分る。

何の試合でもそうであったが⑦キャルパターの適確無比なる猛中距離シュートには全く悩まされる。

後半に入ってから攻撃は今一步の極め手が鈍くかえって敵の防禦陣の好餌となってしまった。

第3回戦 10月14日 都屋内プール

審判 名取正也 (K大OB)  
 ゴールチャッチ 近藤 (W大OB)  
 菅原 (N大OB)

日本	4	$\left\{ \begin{array}{l} 2-1 \\ 1-1 \\ 0-0 \\ 1-1 \end{array} \right\}$	3	ハンガリー
----	---	--	---	-------

17 O. F 45

1 M. F 4

0 T. P 0

飯田	1. 2. 3. 4	G. K	Boros	1, 2. 3. 4
荒川	1. 2. 3. 4	L. B	Mayer	1. 2. 3. 4
横山	1. 2. 3. 4	R. B	Gyarmati	1. 2. 4
竹内	1. 2. 3. 4	H. B	Markovics	1. 2. 3. 4
清水	1. 2. 3. 4	L. F	Kanizsa	1. 2. 3. 4
藤本	1. 2. 3. 4	C. F	Domotor	1. 2. 3. 4
高木	1. 2. 3. 4	R. F	Karpati	1. 2. 3. 4
青山		8	Felkai	3. 4
井上		9	Konrad	3
皐月		10	Pocsik	3
住谷		11		

必勝の信念も堅く本大会の最終決戦に臨む。

この期を外してはここ当分国際試合に接する機会は望みなく貴重なる対戦である。

勝因の最大要点を上げてみると

- ① 全員が第4ピリオードまで泳ぎ勝ちしたこと
- ② 攻防転換時の敵の出足を完全に制止したこと
- ③ 確実なボールのキープ、回転、パス。
- ④ 第2ピリオード同点と追付かれた後直ちに1ゴール

ルを奪取して敵を突き放したこと

- ⑤ ハンガリーは日本チームのリードに後半攻撃回転がバラバラになりシュートは徒らにパー或いはポストに当てるのみ
- ⑥ 何れの試合でも第3ピリオードが決戦の山であるがここを無得点に抑えたこと
- ⑦ 無駄なシュートをしなかったこと
- ⑧ 全員がタイムアップまで冷静にプレーしたこと

以上総力を挙げて打倒ハンガリーの決意に徹し世界最強チームに一矢を報いる事が出来たことは実に感激の極みで、更にこれを足掛りに日本水球界の実力が尚一層の前進をするものと期待している。

今回来日のチームは水球王国ハンガリーに於いてもめったに組合せることが少ない立派なチームでこの壮挙に尽力してくれたライキ氏及びハンガリー水球協会の好意に心から感謝するものである。

本大会に先立ち来日以来心よく練習手合せ(4日間)に応じてくれた事は誠に喜びにたえない次第で、これ等から得た貴重なる体験並びに本大会に於ける経験をもとにコーチ、選手がチーム力強化に邁進すれば、東京オリンピック大会に好成績を挙げる事が出来るものと確信している。

○ 我々が一般に水泳競技というときは競泳、飛込、水球の三種類をさしているが、オリンピックでは御存知の通り水泳は競泳と飛込を言い、水球は水球で独立した種目となっている。最近オリンピックの種目をへらそうという動きがI.O.Cで活潑となり、東京大会の次のメキシコ大会では柔道、バレーボール等が危いと言われているが、水球も時々話題となるそうである。水球という種目が水泳と別な種目になっているから、このような問題がおこるのだから、早く水泳の種目に含めてしまう必要がある。 「国際水球連盟」というのがあつたわけではないのだから問題はなさそうに思うが、沿革的には競泳、飛込より古い歴史を持っているので、水球の盛なヨーロッパでは、競泳などに対し優越感を持っている向きがあるらしい。

何れにしてもI.O.C内のそうした動きが表面化しない中に一本にまとめてしまう必要があると思われる。

○ アメリカ水泳界の大先輩で日本にもおなじみの深いロバート・キップス氏が6月2日早大伏見プールで行われている早慶対抗水上競技会に、ひよっこ

り顔を出した。インドで開催された体育医学学会に出席した帰りに日本に立ちよつたとのことであるが、72才の高令とはみえない元気で、旧知の人達と親しうに話合っていた。

閉会後のエール交歓では学生達と一しよになって合唱するという親日振りを發揮し居合せた人々を感激させた。

○ 神宮プールを温水にして強化に使用しようというわけで鉄骨の屋根をかけることになったが、11月26日に工事中の屋根が落ちて社会問題となった。たまたま数日前にすぐ隣で工事中の高速道路の橋が落ちて死者を出し大問題となった直後だけに新聞も社会面のトップに書きたてた。

勿論法的には施行業者の責任であるが、実質的の発注者である日本水泳連盟としても大に道義的責任を感じているわけである。朝日新聞の素粒子欄が言う次の記事は耳が痛い。

「神宮プールの屋根がおちる。息せききって急ぐ日本社会の足もとの頼りなさ。ひとり、五輪工事のみではない。」



# 昭和38年度日本選手権水泳競技大会

(兼第6回日米対抗日本チーム選考会)

7月31日～8月5日(神宮プール・目白プール)

	気温	水温	天候
8月2日	29.5	24.5	曇
3日	31.0	25.2	曇
4日	31.0	29.5	曇
5日	28.0	25.0	晴

## 男子の部

### 100m 自由形

予選A (8/4)

1 庄司 敏夫(BSタイヤ)	57.2
2 竹内 和也(早大)	58.2
3 丸山 洋(日大)	58.7
4 浦 満広(八幡製鉄)	59.1
5 松尾 清彦(三水会)	1:00.2
6 正木 昭直(日大豊山)	1:00.3
7 上坂 昭治(法泳会)	1:00.6
8 戸崎 修身(聖ポール)	1:01.3

B

1 門口 伯康(早大)	57.7
2 高嶺 隆二(三水会)	58.7
3 梶原 文雄(法泳会)	1:00.1

C

1 石原 勝記(BSタイヤ)	56.2
2 後藤 忠治(日大)	56.8
3 田代 信一(早大)	57.3
4 梅本 利三(松下電器)	57.9
5 田村 武司(三水会)	1:00.1
6 鈴木 清男(法大)	1:00.4
7 杉山 隆(聖ポール)	1:00.9

D

1 竹本 昭和(早大)	57.9
2 吉見 行雄(日大)	58.2
3 菅 正文(中大)	58.3
4 小島 弦(東大)	59.6
5 横山 徹郎(日大豊山)	1:00.9
6 岡村 健祐(聖ポール)	1:01.5

E

1 岩崎 邦宏(早大)	57.0
2 久保田宇利(日大)	57.8
3 笈田 光治(日本鋼管)	58.0

4 中村 良三(日興証券)	58.6
5 石川 浩(法大)	59.4
6 片岡 輝男(聖ポール)	1:00.1

F

1 岡部 幸明(早大)	56.3
2 福井 清(大洋漁業)	56.9
3 講本 昌男(関西アート)	58.5
4 森 宏(日大)	1:00.0
5 小手川 守(白杵商)	1:00.8
6 相賀 正文(中大)	1:01.0

決勝(8/5)

1 石原 勝記(BSタイヤ)	56.7
2 岡部 幸明(早大)	56.8
3 後藤 忠治(日大)	57.0
4 岩崎 邦宏(早大)	57.2
5 福井 清(大洋漁業)	57.4
6 田代 信一(早大)	57.8
7 庄司 敏夫(BSタイヤ)	57.9
8 門口 伯康(早大)	58.7

### 200m 自由形

予選A (8/3)

1 福井 誠(八幡製鉄)	2:04.4
2 岩崎 邦宏(早大)	2:05.1
3 森田 武男(日大豊山)	2:08.6
4 吉見 行雄(日大)	2:08.9
5 吉田 英機(日大)	2:09.7
6 角田 哲郎(法泳会)	2:16.0

B

1 浦 満広(八幡製鉄)	2:05.9
--------------	--------

2 松木登八郎(日大)	2:06.1
3 大池 巖(愛知学院)	2:07.4
4 小島 弦(東大)	2:10.2
5 西野 勝弘(明大)	2:11.7
6 相賀 正久(中大)	2:11.5

C

1 後藤 忠治(日大)	2:06.6
2 久保田宇利(日大)	2:08.2
3 門口 伯康(早大)	2:09.2
4 梶本 邦昭(中大)	2:11.3
5 仲矢 昌夫( )	2:13.1
6 松尾 清彦(三水会)	2:16.6
7 梶原 文雄(法泳会)	2:16.6

D

1 山影 武士(明大)	2:05.7
2 梅本 利三(松下電器)	2:06.5
3 高嶺 隆二(三水会)	2:12.7
4 正木 昭直(日大)	2:14.3
5 菅 正文(中大)	2:14.9
6 森 宏(日大)	2:16.6
7 岡本 顕(聖ポール)	2:16.6

E

1 岡部 幸明(早大)	2:03.7
2 藤本 達夫(松下電器)	2:05.4
3 講本 昌夫(関西アート)	2:08.9
4 丸山 洋(日大)	2:12.6
5 横山 徹郎(日大豊山)	2:17.9
6 芳川 公昭(聖ポール)	2:24.5

F

1 吉無田春男(八幡製鉄)	2:04.4
2 庄司 敏夫(BSタイヤ)	2:05.9
3 石井 進一(日大)	2:07.6
4 笈田 光治(日本鋼管)	2:07.7
5 桑原 茂(中京中)	2:10.7
6 石垣 正三(日大)	2:11.3

決勝 (8/4)

- 1 藤本 達夫 (松下電器) 2:03.8  
1:00.8
- 2 福井 誠 (八幡製鉄) 2:04.2  
1:01.2
- 3 吉無田春男 (八幡製鉄) 2:04.7  
1:01.1
- 4 岡部 幸明 (早 大) 2:04.9  
1:01.0
- 5 岩崎 邦宏 ( " ) 2:04.9  
1:01.1
- 6 山影 武士 (明 大) 2:06.0  
1:01.8
- 7 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 2:06.2  
1:01.7
- 8 浦 満広 (八幡製鉄) 2:07.0  
1:01.5

400m 自由形

予選A (8/4)

- 1 福井 誠 (八幡製鉄) 4:34.6  
1:01.3 2:10.2 3:21.2
- 2 山田 忠信 (早 大) 4:37.9  
1:04.6 2:15.3 3:27.6
- 3 榎山 稔 (日本鋼管) 4:38.4  
1:03.4 2:14.6 3:27.2
- 4 大池 巖 (愛知学院) 4:39.7  
1:04.4 2:15.2 3:27.7
- 5 藤丸 靖久 (中 大) 4:44.1  
1:04.4 2:18.4 3:32.7
- 6 岩本 修二 (明 大) 4:46.8  
1:04.9 2:17.1 3:32.3
- 7 丸井 久人 (日 大) 4:48.7  
1:04.6 2:16.2 3:31.8
- 8 高沢 隆 (聖ポール) 4:53.7  
1:06.4 2:20.1 3:36.5

B

- 1 藤本 達夫 (松下電器) 4:28.5  
1:01.9 2:10.1 3:20.3
- 2 石井 進一 (日 大) 4:34.3  
1:02.8 2:12.3 3:23.7
- 3 佐々木末昭 (中 大) 4:28.5  
1:02.9 2:11.2 3:02.5
- 4 桑原 茂 (中京中) 4:39.2  
1:04.1 2:14.1 3:25.9
- 5 渡辺 恒夫 (明 大) 4:41.7  
1:04.9 2:16.5 3:29.3
- 6 高橋 豊 (日本鋼管) 4:45.9  
1:04.4 2:13.8 3:28.8
- 7 井原 啓之 (聖ポール) 4:51.6  
1:05.5 2:18.7 3:34.7

C

- 1 佐原 年昭 (中 大) 4:37.4  
1:03.5 2:13.1 3:25.8
- 2 浦 満広 (八幡製鉄) 4:37.8  
1:02.7 2:13.0 3:26.7
- 3 笠井 利昭 (日 大) 4:40.5  
1:04.6 2:15.9 3:28.8
- 4 阿部 紀夫 (法泳会) 4:44.9  
1:04.9 2:16.7 3:32.0
- 5 西野 勝弘 (明 大) 4:45.1  
1:04.7 2:15.8 3:31.0

D

- 1 藤島 祥三 (早 大) 4:28.3  
1:05.1 2:14.2 3:22.5
- 2 吉無田春男 (八幡製鉄) 4:28.4  
1:03.6 2:11.4 3:19.9
- 3 山影 武士 (明 大) 4:28.9  
1:01.9 2:10.9 3:22.2
- 4 中野 悟 (桜宮高) 4:31.4  
1:03.3 2:12.2 3:21.8
- 5 浜口 哲也 (日大豊山) 4:36.8  
1:04.7 2:14.4 3:24.3
- 6 長野 優 (日 大) 4:41.3  
1:04.2 2:14.1 3:27.4
- 7 木田 和夫 (佐伯鶴城) 4:43.1  
1:05.0 2:15.3 3:28.4

E

- 1 山中 毅 (大洋漁業) 4:25.6  
1:02.7 2:08.7 3:16.8
- 2 多田 寿之 (聖ポール) 4:37.5  
1:05.6 2:16.8 3:26.8
- 3 梶本 邦昭 (中 大) 4:41.1  
1:05.5 2:17.1 3:29.5
- 4 森田 武男 (日大豊山) 4:41.2  
1:05.7 2:16.9 3:29.0
- 5 吉田 英機 (日 大) 4:43.5  
1:02.8 2:13.9 3:28.1

F

- 1 奥田 桂次 (早 大) 4:37.0  
1:03.8 2:11.9 3:25.0
- 2 中坊 昌美 (BSタイヤ) 4:38.3  
1:01.8 2:11.9 3:24.9
- 3 高瀬悦二郎 (八代東高) 4:40.3  
1:03.5 2:14.2 3:29.2
- 4 石垣 正三 (日 大) 4:42.2  
1:03.8 2:15.4 3:24.9
- 5 仲矢 昌夫 (中 大) 4:47.6  
1:04.9 2:17.3 3:32.1

決勝

- 1 山中 毅 (大洋漁業) 4:21.2  
1:00.3 2:06.2 3:13.5

- 2 藤本 達夫 (松下電器) 4:25.4  
1:01.5 2:09.4 3:18.0
- 3 吉無田春男 (八幡製鉄) 4:26.6  
1:02.5 2:10.4 3:18.7
- 4 磯島 祥三 (早 大) 4:27.4  
1:04.2 2:12.8 3:21.4
- 5 中野 悟 (桜宮高) 4:27.9  
1:02.5 2:10.2 3:19.3
- 6 佐々木末昭 (中 大) 4:28.2  
1:01.9 2:08.8 3:17.3
- 7 山影 武士 (明 大) 4:35.0  
1:00.9 2:10.9 3:23.3
- 8 石井 進一 (日 大) 4:36.7  
1:01.8 2:12.5 3:25.5

1500m 自由形

予選A (8/2)

- 1 佐々木末昭 (中 大) 17:35.8  
(9:18.4正式)
- 2 榎山 稔 (日本鋼管) 18:17.0
- 3 奥田 桂次 (早 大) 18:23.3
- 4 中野 悟 (桜宮高) 18:24.6
- 5 高瀬悦二郎 (八代東高) 18:37.8
- 6 笠井 利昭 (日 大) 18:40.7
- 7 木田 和夫 (佐伯鶴城) 19:08.5
- 8 野口 和雄 (日大豊山) 20:13.0

B

- 1 山田 忠信 (早 大) 18:20.2
- 2 吉無田春男 (八幡製鉄) 18:38.2  
(9:38.1正式)
- 3 多田 寿之 (聖ポール) 18:45.1
- 4 阿部 紀夫 (法泳会) 19:05.6
- 5 岩本 修二 (明 大) 19:10.3
- 6 丸井 久人 (日 大) 19:27.9
- 7 藤丸 靖久 (中 大) 19:36.8

C

- 1 藤島 祥三 (早 大) 17:55.2  
(9:30.2正式)
- 2 中坊 昌美 (BSタイヤ) 18:29.4
- 3 佐原 年明 (中 大) 18:34.5
- 4 長野 優 (日 大) 18:48.3
- 5 浜口 哲也 (日大豊山) 18:59.0
- 6 渡辺 恒夫 (明 大) 19:04.5
- 7 高橋 豊 (日本鋼管) 19:37.7

決勝 (8/3)

- 1 佐々木末昭 (中 大) 17:34.7
- 2 藤島 祥三 (早 大) 17:38.2
- 3 中野 悟 (桜宮高) 17:57.4
- 4 山田 忠信 (早 大) 18:09.8

1500m 決勝途中時間 (800m は正式)

コース・氏名	2 (中坊)	3 (奥田)	4 (靱山)	5(佐々木)	6 (藤島)	7 (山田)	8 (中野)	9 (佐原)
100	1:05.1	1:06.4	1:06.0	1:04.1	1:05.3	1:06.7	1:04.0	1:05.7
200	2:17.0	2:17.2	2:16.5	2:13.3	2:14.4	2:18.0	2:14.4	2:19.4
300	3:29.8	3:28.6	3:27.9	3:23.9	3:24.5	3:30.6	3:26.1	3:36.0
400	4:43.0	4:42.0	4:40.7	4:34.6	4:33.8	4:45.4	4:37.8	4:52.2
500	5:56.4	5:55.0	5:54.1	5:45.4	5:44.9	5:56.8	5:50.7	6:09.8
600	7:11.3	7:09.2	7:08.7	6:55.8	6:56.2	7:10.8	7:03.0	7:27.4
700	8:25.3	8:24.0	8:23.7	8:06.9	8:07.8	8:24.7	8:15.3	8:47.5
800	<b>9:39.2</b>	<b>9:38.8</b>	<b>9:38.4</b>	<b>9:17.8</b>	<b>9:19.4</b>	<b>9:38.5</b>	<b>9:28.3</b>	<b>10:03.1</b>
900	10:53.4	10:53.6	10:53.4	10:29.5	10:30.9	10:51.7	10:41.7	11:20.4
1000	12:08.9	12:80.8	12:08.3	11:41.3	11:42.7	12:04.7	11:54.5	12:38.3
1100	13:24.9	13:23.9	13:23.4	12:52.8	12:53.2	13:17.8	13:07.8	13:56.4
1200	14:40.8	14:39.0	14:38.8	14:04.0	14:03.7	14:37.2	14:21.3	15:11.4
1300	15:56.4	15:54.2	15:53.7	15:15.5	15:14.8	15:44.7	15:34.8	16:26.3
1400	17:11.6	17:09.1	17:08.8	16:26.4	16:27.7	16:58.6	16:47.6	17:42.5
1500	18:23.4	18:21.4	18:20.1	17:34.7	17:38.2	18:09.8	17:57.4	18:58.9
着 順	⑦	⑥	⑤	①	②	④	③	⑧

- |                         |                      |                       |
|-------------------------|----------------------|-----------------------|
| 5 靱山 稔 (日本鋼管) 18:20.1   | 4 兵藤 正時 (中大) 1:14.2  | 2 石川 健二 (日大豊山) 2:35.5 |
| 6 奥田 桂次 (早大) 18:21.4    | 5 外山 佳行 (三水会) 1:15.2 | 1:12.4                |
| 7 中坊 昌美 (BSタイヤ) 18:23.4 | 6 合田 伸嘉 (法泳会) 1:15.6 | 3 中野 勇治 (宇部興産) 2:37.9 |
| 8 佐原 年昭 (中大) 18:58.9    | 7 佐藤 章 (鹿本高) 1:16.1  | 1:14.6                |
| 100m 平 泳                |                      |                       |

予選A (8/4)

- |                       |                        |                       |
|-----------------------|------------------------|-----------------------|
| 1 石川 健二 (日大豊山) 1:10.4 | 1 山南 宏一 (早大) 1:11.6    | 5 小笹 勝二 (聖ポール) 2:45.7 |
| 2 大渡 幹士 (諫早商高) 1:12.0 | 2 高島 光生 (日大) 1:15.2    | 1:19.4                |
| 3 和気 統 (日大) 1:13.1    | 3 重松 親征 (BSタイヤ) 1:16.4 | 6 福永 恵輔 (日大) 2:47.2   |
| 4 重松 盛人 (八幡製鉄) 1:13.4 | D                      |                       |
| 5 吉田 正明 (白桦高) 1:15.3  | 1 山南 宏一 (早大) 1:11.6    | 7 辻 孝男 (佐伯鶴城) 2:48.8  |
| 6 西口 寿悦 (関学大) 1:17.7  | 2 高島 光生 (日大) 1:15.2    | 1:19.4                |
| 7 高木 憲一 (旭化成) 1:19.2  | 3 重松 親征 (BSタイヤ) 1:16.4 | 8 大川 静夫 (逗子開成) 2:48.2 |

決勝 (8/5)

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 石川 健二 (日大豊山) 1:10.9 | 8 大川 静夫 (逗子開成) 2:48.2 |
| 2 松本健次郎 (早大) 1:10.9   | 1:19.3                |

B

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 中野 勇治 (宇部興産) 1:12.6 | 1 和気 統 (日大) 2:36.3 |
| 2 敷石 義秋 (日大) 1:12.6   | 1:14.2             |

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 3 小寺 隆昭 (明大) 1:13.2  | 2 伊藤 靖博 (BSタイヤ) 2:39.9 |
| 4 古川 剛 (諫早商高) 1:13.2 | 1:16.1                 |

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 5 野々村嘉昭 (中大) 1:13.8 | 3 古川 剛 (諫早高) 2:41.0 |
| 6 福永 恵輔 (日大) 1:14.8 | 1:15.9              |

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 7 辻 孝男 (佐伯鶴城) 1:16.1 | 4 小寺 隆昭 (明大) 2:41.8 |
| 8 古屋 英昭 (法大) 1:16.8  | 1:15.9              |

- |                      |
|----------------------|
| 5 高木 憲一 (旭化成) 2:45.4 |
| 1:18.7               |

- |                      |
|----------------------|
| 6 脇内 竹則 (法泳会) 2:45.8 |
| 1:16.7               |

- |                     |
|---------------------|
| 8 小寺 隆昭 (明大) 1:12.7 |
|---------------------|

C

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 松本健次郎 (早大) 1:11.6 | 1 敷石 義秋 (日大) 2:35.6 |
| 2 栗林 徳治 (日大) 1:13.5 | 1:12.9              |

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 3 伊藤 靖博 (BSタイヤ) 1:13.9 | 2 重松 盛人 (八幡製鉄) 2:37.8 |
|                        | 1:14.6                |

- 3 兵藤 正時 (中 大) 2:42.5  
1:16.3
- 4 吉田 正明 (白 杵 高) 2:43.5  
1:16.2
- 5 平川弘三郎 (法 泳 会) 2:43.5  
1:16.8
- 6 小牧 紘一 (三 水 会) 2:46.0
- 7 古屋 英昭 (法 泳 会) 2:48.6

D

- 1 山南 宏一 (早 大) 2:36.0  
1:14.8
- 2 栗林 徳治 (日 大) 2:39.1  
1:15.2
- 3 野々村嘉昭 (中 大) 2:39.1  
1:16.4
- 4 高島 光生 (日 大) 2:41.0  
1:16.4
- 5 合田 伸喜 (法 泳 会) 2:45.1  
1:16.2
- 6 重松 親征 (S S タイヤ) 2:46.0  
1:18.5
- 7 佐藤 章 (鹿 本 高) 2:48.4  
1:18.9

決 勝 (8/4)

- 1 松本健次郎 (早 大) 2:33.9  
34.2 1:14.2 1:54.4
- 2 和気 統 (日 大) 2:34.3  
1:15.2
- 3 石川 健二 (日大豊山) 2:34.4  
34.3 1:14.0 1:53.2
- 4 山南 宏一 (早 大) 2:35.2  
1:16.0
- 5 敷石 義秋 (日 大) 2:32.6  
1:14.1
- 6 中野 勇治 (宇部興産) 2:37.6  
1:15.2
- 7 重松 盛人 (八幡製鉄) 2:39.8  
1:15.9
- 8 栗林 徳治 (日 大) 2:39.8  
1:16.1

100m バタフライ

予選 A (8/3)

- 1 佐藤 好助 (八幡製鉄) 59.4  
(日新)
- 2 大林 敦 (中 大) 1:00.6
- 3 管 隆則 (日 大) 1:02.3
- 4 遠藤 英康 ( " ) 1:04.1
- 5 鈴木 竜蔵 (中 大) 1:04.9
- 6 北村 修一 (修 徳 高) 1:05.0

B

- 1 増永 文昭 (日本鉱業) 1:02.4
- 2 須藤 洋一 (明 大) 1:02.6
- 3 神坂 忠一 (聖ポール) 1:03.1
- 4 田中 英雄 (早 大) 1:03.9
- 5 馬場 政儀 (中 大) 1:04.1
- 6 田井 次郎 (法 泳 会) 1:04.7
- 7 松山 昭男 (宇部興産) 1:04.9
- 8 辻尾 崇夫 (日 大) 1:05.1

C

- 1 福田 憲二 (日大豊山) 1:02.8
- 2 井筒 賢造 (早 大) 1:02.8
- 3 三好 恭弘 (三好製紙) 1:03.1
- 4 中村 康博 (聖ポール) 1:03.1
- 5 向井 岩喜 (法 泳 会) 1:04.1
- 6 若井 英雄 (日本鋼管) 1:04.2
- 7 赤毛 秀次 (聖ポール) 1:05.0
- 8 芥川己之助 (三 水 会) 1:08.1

D

- 1 中島 功 (S S タイヤ) 59.1  
(日新)
- 2 大賀 晴郎 (明 大) 1:00.6
- 8 上田 紀男 (法 泳 会) 1:01.0
- 4 岩本 先司 (早 大) 1:02.3
- 5 渡辺 春男 (東 芝) 1:03.4
- 6 藤田 修孝 (日大豊山) 1:03.9
- 7 金親 義弘 (日 大) 1:04.8
- 8 山野内伸二 (佐伯鶴城) 1:05.3
- 9 橋本 功 (桜 宮 高) 1:06.4

決 勝

- 1 大林 敦 (中 大) 59.3  
(日新)
- 2 中島 功 (B S タイヤ) 59.8  
27.8
- 3 大賀 睦郎 (明 大) 1:00.2
- 4 増永 文昭 (日本鉱業) 1:00.3
- 5 佐藤 好助 (八幡製鉄) 1:00.9
- 6 上田 紀男 (法 大) 1:00.9
- 7 岩本 先司 (早 大) 1:01.7
- 8 管 隆則 (日 大) 1:02.4

200m バタフライ

予選 A (8/2)

- 1 佐藤 好助 (八幡製鉄) 2:14.7  
1:04.3
- 2 田中 英雄 (早 大) 2:19.1
- 3 神坂 忠一 (聖ポール) 2:20.2
- 4 北村 修一 (修 徳 高) 2:25.0

- 5 飯田 智康 (小松サービス) 2:28.1
- 6 鈴木 竜蔵 (中 大) 2:28.9
- 7 遠藤 英康 (日 大) 2:31.0

B

- 1 中島 功 (B S タイヤ) 2:17.3
- 2 井筒 賢造 (早 大) 2:17.3
- 3 増永 文昭 (日本鉱業) 2:17.9  
1:04.2
- 4 須藤 洋一 (明 大) 2:19.4
- 5 馬場 政儀 (中 大) 2:19.8
- 6 松山 昭男 (宇部興産) 2:27.5
- 7 辻尾 崇夫 (日 大) 2:27.5

C

- 1 大村 敦 (中 大) 2:17.0
- 2 管 隆則 (日 大) 2:18.2  
1:04.7
- 3 上田 紀男 (法 泳 会) 2:19.0
- 4 中村 康博 (聖ポール) 2:20.3
- 5 大賀 睦郎 (明 大) 2:20.9
- 6 山野内伸二 (佐伯鶴城) 2:22.8
- 7 福田 憲二 (日大豊山) 2:25.0

D

- 1 岩本 先司 (早 大) 2:16.5  
1:04.7
- 2 三好 恭弘 (三好製紙) 2:18.0
- 3 金親 義弘 (日 大) 2:21.3
- 4 赤毛 秀次 (聖ポール) 2:21.6
- 5 渡辺 春男 (東 芝) 2:25.0
- 6 田井 次郎 (法 泳 会) 2:26.3
- 7 藤田 修孝 (日大豊山) 2:28.0

決 勝 (8/3)

- 1 佐藤 好助 (八幡製鉄) 2:13.9  
30.5 1:03.8 1:37.2
- 2 増永 文昭 (日本鉱業) 2:15.8  
1:05.9
- 3 大林 敦 (中 大) 2:16.0  
1:05.0
- 4 井筒 賢造 (早 大) 2:16.6  
1:05.7
- 5 三好 恭弘 (三好製紙) 2:16.8  
1:06.2
- 6 岩本 先司 (早 大) 2:17.6  
1:04.9
- 7 管 隆則 (日 大) 2:17.9  
1:04.9
- 8 中島 功 (B S タイヤ) 2:18.2  
1:06.2

100m 背 泳

予選A (8/4)

- 1 福島 滋雄 (日 大) 1:03.9  
30.6
- 2 伊藤 圭祐 (早 大) 1:03.9
- 3 田中 広征 (早 大) 1:04.5
- 4 中原 紀 (八幡製鉄) 1:05.4
- 5 大隅 潔 (明 大) 1:05.4
- 6 菅 征夫 (中 大) 1:07.6
- 7 宮良 高志 (日大豊山) 1:08.8
- 8 松田 史剛 (聖ポール) 1:09.3

B

- 1 渡辺 和夫 (東京トヨベ) 1:05.3  
31.0
- 2 林 祐士郎 (中 大) 1:05.6
- 3 三木 隆二 (日本鋼管) 1:06.5
- 4 杉山 悟 (明 大) 1:06.6
- 5 青木 守喬 (日 大) 1:07.3
- 6 角間 三雄 (早 大) 1:08.0
- 7 猪野 正久 (日大豊山) 1:09.0
- 8 鈴木 勝幸 (中 大) 1:09.7

C

- 1 富田 一雄 (BSタイヤ) 1:03.5  
30.1
- 2 五十嵐武清 (日 大) 1:03.9
- 3 沢田 義勝 (中 大) 1:08.5
- 4 三杉 庄治 (早 大) 1:09.1
- 5 田中 晴夫 (修徳高) 1:09.3
- 6 小林 東昭 (関学大) 1:10.2
- 7 平沢 瑞夫 (法泳会) 1:10.6

決勝 (8/5)

- 1 福島 滋雄 (日 大) 1:02.9  
30.1
- 2 五十嵐武清 ( " ) 1:03.8  
30.0
- 3 伊藤 圭祐 (早 大) 1:03.8  
30.4
- 4 富田 一雄 (BSタイヤ) 1:03.9  
30.4
- 5 田中 広征 (早 大) 1:04.2  
30.7
- 6 中原 紀 (八幡製鉄) 1:04.6  
30.7
- 7 渡辺 和夫 (東京トヨベ) 1:05.4  
30.4
- 8 林 祐士郎 (中 大) 1:06.6  
30.4

200m 背 泳

予選A (8/3)

- 1 大隅 潔 (明 大) 2:19.6  
1:07.8
- 2 五十嵐武清 (日 大) 2:20.5  
1:07.8
- 3 田中 広征 (早 大) 2:20.8
- 4 中原 紀 (八幡製鉄) 2:21.2
- 5 角間 三雄 (早 大) 2:24.1
- 6 沢田 義勝 (中 大) 2:27.4
- 7 宮良 高志 (日大豊山) 2:28.6
- 8 菅 征夫 (中 大) 2:30.0

B

- 1 伊藤 圭祐 (早 大) 2:19.8  
1:05.4
- 2 林 祐士郎 (中 大) 2:23.8  
1:07.9
- 3 三木 隆二 (日本鋼管) 2:24.2  
1:08.2
- 4 渡辺 和夫 (東京トヨベ) 2:25.8
- 5 杉山 悟 (明 大) 2:26.1  
1:09.9
- 6 青木 守喬 (日 大) 2:28.1  
1:10.0
- 7 猪野 正久 (日大豊山) 2:30.2
- 8 鈴木 勝幸 (中 大) 2:32.3

C

- 1 福島 滋雄 (日 大) 2:14.9  
31.2 1:05.8 1:40.5
- 2 富田 一雄 (SSタイヤ) 2:19.9  
1:06.6
- 3 松田 史剛 (聖ポール) 2:29.5
- 4 三杉 庄治 (早 大) 2:32.3
- 5 平沢 瑞夫 (法泳会) 2:33.0
- 6 小林 東明 (関学大) 2:36.8

決勝 (8/4)

- 1 福島 滋雄 (日 大) 2:12.9  
(日新)  
31.6 1:03.4 1:37.6
- 2 大隅 潔 (明 大) 2:17.2  
1:06.9
- 3 伊藤 圭祐 (早 大) 2:18.3  
1:06.0
- 4 中原 紀 (八幡製鉄) 2:20.3  
1:06.7
- 5 田中 広征 (早 大) 2:20.8  
1:07.6
- 6 五十嵐武清 (日 大) 2:20.8  
1:07.1

- 7 林 祐士郎 (中 大) 2:25.6  
1:08.9

失格 富田一雄 (BSタイヤ)

400m 個人メドレー

予選A (8/2)

- 1 福島 滋雄 (日 大) 5:11.9  
1:06.2 2:13.2 3:59.0
- 2 片岡 輝男 (聖ポール) 5:14.8
- 3 田井 次郎 (法泳会) 5:19.8
- 4 森田 武男 (日大豊山) 5:20.8
- 5 松山 昭男 (宇部興産) 5:30.5

決勝 (8/3)

- 1 福島 滋雄 (日 大) 4:53.7  
(日新)  
1:05.2 2:15.2 3:46.8
- 2 山影 武士 (明 大) 5:08.0  
1:06.5 2:29.6 3:59.7
- 3 片岡 輝男 (聖ポール) 5:11.9  
1:06.5 2:26.5 3:59.9
- 4 藤丸 靖久 (中 大) 5:16.6  
1:07.9 2:33.5 4:06.4
- 5 久保田宇利 (日 大) 5:19.2  
1:10.9 2:36.5 4:08.5
- 6 森田 武男 (日大豊山) 5:20.3  
1:10.0 2:37.2 4:12.4
- 7 井上 敦雄 (日 大) 5:20.7  
1:08.1 2:30.8 4:06.4
- 8 田井 次郎 (法泳会) 5:22.7  
1:08.9 2:34.9 4:08.8

100m 自由形

予選A (8/4)

- 1 木村トヨ子 (筑紫女学) 1:06.0  
31.1
- 2 菊谷多鶴子 (五条高) 1:06.2  
31.8
- 3 辻本 妙子 (東洋レ) 1:07.7
- 4 浅野 桂子 (二階堂高) 1:09.5
- 5 青木いち子 (旭化成) 1:10.2
- 6 大岩 香苗 (早 大) 1:11.4

B

- 1 浦上 凉子 (筑紫女学) 1:06.2  
30.8

2 東 美代子 (五 条 高) 1:07.2  
31.0

3 小畑 昭子 (ロート製薬)

4 横井真由美 (横 学 高) 1:09.7

5 北鹿渡郁子 (成女学園) 1:10.7

C

1 江坂 君子 (榎 泳 会) 1:07.2

2 高松 千歳 (宇部興産) 1:08.0

3 高島 美枝 (成 女 学) 1:08.8  
31.0

4 宮本 聖子 (五 条 高) 1:09.1

5 中川 静子 (筑紫女高) 1:10.9

6 道家 高子 (東 洋 レ) 1:11.9

決 勝 (8/5)

1 菊谷多鶴子 (五 条 高) 1:05.6  
31.5

2 東 美代子 ( " ) 1:06.2  
31.1

3 浦上 凉子 (筑紫女高) 1:06.2  
31.0

4 木村トヨ子 ( " ) 1:06.2  
31.0

5 辻本 妙子 (東 洋 レ) 1:06.9  
32.9

6 江坂 君子 (榎 泳 会) 1:07.2  
30.9

7 高松 千歳 (宇部興産) 1:08.7  
32.5

8 高島 美枝 (成女学園) 1:09.1

200m 自由形

予選A (8/3)

1 浦上 凉子 (筑紫女学) 2:24.6  
1:09.3

2 菊谷多鶴子 (五 条 高) 2:25.5  
1:09.2

3 辻本 妙子 (東 洋 レ) 2:27.9

4 常田 汐子 (二階堂高) 2:32.0

5 村松美智子 (ロート製薬) 2:32.6

6 青木いち子 (旭 化 成) 2:34.7

B

1 新子 正子 (東 洋 レ) 2:29.5  
1:12.0

2 小林由美子 (ロート製薬) 2:30.1

3 横井真由美 (横 浜 女 学) 2:31.9

4 東 美代子 (五 条 高) 2:32.1

5 中川 静子 (筑紫女学) 2:41.2

C

1 木村トヨ子 (筑紫女高) 2:22.1  
1:08.7

2 宮本 聖子 (五 条 高) 2:31.9  
1:12.3

3 寺井 貴子 (ロート製薬) 2:32.5

4 田崎 栄子 (東 洋 レ) 2:35.6

5 若月 幸恵 (成女学中) 2:36.4

D

1 小畑 昭子 (ロート製薬) 2:29.1  
1:10.8

2 高松 千歳 (宇部興産) 2:29.7  
1:10.3

3 高島 美枝 (成 女 高) 2:34.0

4 大岩 香苗 (早 大) 2:43.6

決 勝 (8/4)

1 木村トヨ子 (筑紫女高) 2:22.1  
1:09.0

2 菊谷多鶴子 (五 条 高) 2:22.5  
1:09.2

3 浦上 凉子 (筑紫女高) 2:25.0  
1:09.5

4 辻本 妙子 (東 洋 レ) 2:27.1  
1:09.6

5 新子 正子 ( " ) 2:27.7  
1:11.5

6 高松 千歳 (宇部興産) 2:28.4  
1:10.0

7 小畑 昭子 (ロート製薬) 2:29.4  
1:11.5

8 小林由美子 ( " ) 2:30.3  
1:12.5

400m 自由形

予選B (8/4)

1 小林由美子 (ロート製薬) 5:17.0  
1:14.4 2:35.2 3:55.9

2 常田 汐子 (二階堂高) 5:22.2  
1:14.7 2:37.5 3:54.6

3 加藤 毬子 (淑 德 高) 5:25.4  
1:15.2 2:37.6 4:01.7

4 田崎 栄子 (東 洋 レ) 5:31.0  
1:17.6 2:42.4 4:07.8

5 釜掘 福子 (旭 化 成) 5:36.7  
1:16.7 2:43.2 4:10.8

6 内田 久江 (筑紫女高) 5:37.0  
1:17.8 2:42.8 4:10.8

A

1 木村トヨ子 (筑紫女高) 5:13.6  
1:13.3 2:35.1 3:53.7

2 寺井 貴子 (ロート製薬) 5:19.4  
1:14.3 2:34.7 3:57.1

3 若月 幸恵 (成 女 中) 5:28.2

4 青木いち子 (旭 化 成) 5:30.3  
1:14.5 2:37.1 4:03.3

5 清水 善子 (五 条 高) 5:32.8  
1:15.3 2:41.1 4:08.5

C

1 早川 一枝 (吉原市高) 5:08.2  
1:12.9 2:30.5 3:49.2

2 村松美智子 (ロート製薬) 5:17.8  
1:14.0 2:35.1 3:58.5

3 後藤 章子 (五 条 高) 5:17.9  
1:15.2 3:36.4 3:58.5

4 新子 正子 (東 洋 レ) 5:18.4  
1:14.1 2:35.8 3:58.2

5 簾 千枝子 (筑紫女学) 5:25.7  
1:16.3 2:40.4 4:03.4

決 勝 (8/5)

1 早川 一枝 (吉原市高) 4:58.2  
1:11.8 2:26.5 3:43.1

2 木村トヨ子 (筑紫女学) 5:08.5  
1:12.2 2:29.2 3:48.1

3 村松美智子 (ロート製薬) 5:13.3  
1:14.2 2:33.8 3:54.1

4 新子 正子 (東 洋 レ) 5:15.9  
1:13.2 2:34.2 3:56.0

5 後藤 章子 (五 条 高) 5:17.4  
1:15.4 2:36.9 3:58.9

6 寺井 貴子 (ロート製薬) 5:17.5  
1:14.7 2:34.4 3:56.4

7 小林由美子 ( " ) 5:20.7  
1:14.6 2:36.3 3:57.4

8 常田 汐子 (二階堂高) 5:30.2  
1:14.2 2:36.0 4:03.4

800m 自由形

予選 (8/2)

1 早川 一枝 (吉原市商) 10:32.3  
1:14.1 2:33.7 3:53.9 5:14.4  
6:34.7 7:53.9 9:13.7

2 清水 善子 (五 条 高) 11:16.4

3 釜掘 福子 (旭 化 成) 11:34.5

4 内田 久江 (筑紫女学) 11:36.0

B

1 加藤 毬子 (淑 德 高) 10:59.4  
1:14.9 2:38.0 4:20.8 5:26.5  
6:49.9 8:13.8 9:37.1

2 後藤 章子 (五 条 高) 11:04.6

3 簾 千枝子 (筑紫女高) 11:23.2

4 玉井 伸子 (五 条 高) 11:25.7

決 勝 (8/3)

1 早川 一枝 (吉原市商) 10:04.6  
(日新)

- 2 後藤 章子 (五 条 高) 10:57.8
- 3 加藤 穂子 (淑 徳 高) 11:01.4
- 4 清水 善子 (五 条 高) 11:04.3
- 5 飯 千枝子 (筑紫女学) 11:06.9
- 6 玉井 伸子 (五 条 高) 11:21.7
- 7 釜堀 福子 (旭 化 成) 11:33.2
- 8 内田 久江 (筑 紫 女) 11:35.5

100m 平 泳

予選 A (8/4)

- 1 葉室 加奈 (筑 紫 女) 1:24.3
- 2 青木 幸子 (東 洋 レ) 1:26.1
- 3 池本 真弓 (宇 部 興 産) 1:26.1
- 4 山重百合子 (横 浜 学) 1:28.0
- 5 渡辺 和子 (ロート製薬) 1:28.5
- 6 磯村 昌子 (淑 徳 高) 1:29.8
- 7 中井 宏子 (五 条 高) 1:30.5

B

- 1 山本 憲子 (八幡製鉄) 1:21.3  
37.6
- 2 川西 繁子 (五 条 中) 1:25.4
- 3 松本 直桃 (筑紫女高) 1:28.5
- 4 生田 敏子 (旭 化 成) 1:29.0
- 5 吉沢 和子 (横 学 高) 1:29.0
- 6 葉室カヤ子 (羽 衣 学) 1:30.0

C

- 1 松本 信子 (佐 伯 高) 1:22.4  
38.2
- 2 岡子 玲子 (ロート製薬) 1:24.7
- 3 田上 和子 (佐伯鶴城) 1:25.3
- 4 浅井 弘美 (淑 徳 高) 1:27.9
- 5 牧谷 仁子 (佼 成 中) 1:29.0
- 6 国島由美子 (成 女 中) 1:29.4

決 勝 (8/5)

- 1 山本 憲子 (八幡製鉄) 1:21.0  
37.9
- 2 松本 信子 (佐 伯 高) 1:22.5  
38.4

- 3 青木 幸子 (東 洋 レ) 1:23.9  
39.8
- 4 葉室 加奈 (筑 紫 女) 1:24.1  
39.5
- 5 田上 和子 (佐伯鶴城) 1:24.9  
40.0
- 6 岡本 玲子 (ロート製薬) 1:25.1
- 7 川西 繁子 (五 条 中) 1:25.7
- 8 浜本 真弓 (宇 部 興 産) 1:25.9

200m 平 泳

予選 A (8/3)

- 1 山本 憲子 (八幡製鉄) 2:59.5  
1:23.8
- 2 松本 信子 (佐 伯 高) 3:01.2
- 3 浜本 真弓 (宇 部 興 産) 3:03.8
- 4 松本 直桃 (筑紫女高) 3:03.8
- 5 浅井 弘美 (淑 徳 高) 3:07.9
- 6 渡辺 和子 (ロート製薬) 3:08.2
- 7 吉沢 和子 (横 学 高) 3:09.2
- 8 国島由美子 (成 女 中) 3:12.8
- 9 葉室カヤ子 (羽 衣 学) 3:13.7

B

- 1 青木 幸子 (東 洋 レ) 2:58.0  
1:25.7
- 2 田上 和子 (佐伯鶴城) 3:01.6
- 3 葉室 加奈 (筑紫女学) 3:02.2
- 4 川西 繁子 (五 条 中) 3:02.9
- 5 岡本 玲子 (ロート製薬) 3:05.1
- 6 生田 敏子 (旭 化 成) 3:06.0
- 7 牧谷 仁子 (佼 成 中) 3:08.0
- 8 磯村 昌子 (淑 徳 高) 3:10.3

決 勝 (8/4)

- 1 青木 幸子 (東 洋 レ) 2:57.5  
40.4 1:25.2 2:10.2
- 2 山本 憲子 (八幡製鉄) 2:58.5  
39.8 1:25.7 2:12.8
- 3 田上 和子 (佐伯鶴城) 3:00.0  
1:26.7

- 4 松本 信子 (佐 伯 高) 3:00.1  
1:26.7
- 5 松本 直桃 (筑紫女学) 3:02.9  
1:28.6
- 6 葉室 加奈 (筑紫女高) 3:03.1  
1:29.1
- 7 川西 繁子 (五 条 中) 3:03.3
- 8 浜本 真弓 (宇 部 興 産) 3:05.7  
1:31.0

100m バタフライ

予選 A (8/3)

- 1 山田佐代子 (ロート製薬) 1:13.8
- 2 池田婦美子 (鹿 本 高) 1:13.8
- 3 松田奈津子 (五 条 高) 1:14.4
- 4 和田 靖子 (東 洋 レ) 1:15.3
- 5 佐々木千鶴子 (二階堂高) 1:24.1

B

- 1 斎藤 弘子 (相 泳 会) 1:13.1
- 2 佐藤 公子 (天 理 学) 1:13.8
- 3 土屋 節子 (二階堂高) 1:16.5
- 4 中西美智代 (五 条 高) 1:17.3
- 5 伊藤 咲子 (淑 徳 高) 1:17.6
- 6 麻生真由美 (横 学 高) 1:17.7

C

- 1 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 1:09.5  
(日新)
- 2 諸林八重子 (旭 化 成) 1:15.3
- 3 川上 静江 (淑 徳 高) 1:16.1
- 4 加藤 靖子 (ロート製薬) 1:17.0
- 5 高橋 淑子 (成 女 学) 1:19.4

決 勝 (8/4)

- 1 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 1:10.2  
32.4
- 2 佐藤 公子 (天 理 高) 1:12.4
- 3 山田佐代子 (ロート製薬) 1:13.4
- 4 池田婦美子 (鹿 本 高) 1:13.5
- 5 斎藤 弘子 (相 泳 会) 1:13.8
- 6 松田奈津子 (五 条 高) 1:14.3

800m自由形 途 中 時 間

	早 川	後 藤	加 藤	清 水	飯	玉 井	釜 堀	内 田
100m	1:11.3	1:15.8	1:13.9	1:14.0	1:18.6	1:16.8	1:17.7	1:19.5
200m	2:26.0	2:39.1	2:36.4	2:37.3	2:42.9	2:41.1	2:43.7	2:45.4
300m	3:42.1	4:02.3	4:00.9	4:01.4	4:06.7	4:07.3	4:11.3	4:13.0
400m	4:58.9	5:26.3	5:25.0	5:25.9	5:31.2	5:33.8	5:39.7	5:41.9
500m	6:15.4	6:50.1	6:49.3	6:51.3	6:55.8	7:00.9	7:08.1	7:10.8
600m	7:32.9	8:13.9	8:13.7	8:17.2	8:20.5	8:28.5	8:37.2	8:39.8
700m	8:50.0	9:36.5	9:38.1	9:42.6	9:45.0	9:56.0	10:06.4	10:09.4

- 7 和田 靖子 (東洋レ) 1:15.1  
8 諸林八重子 (旭化成) 1:15.4

**200m バタフライ**

予選A (8/2)

- 1 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 2:36.7  
1:12.7  
2 山田佐代子 (ロート製薬) 2:50.3  
3 中西美智代 (五条高) 2:51.6  
4 麻生真由美 (横浜学) 2:58.2  
5 池田婦美子 (鹿本高) 3:00.4

B

- 1 松田奈津子 (五条高) 2:46.2  
2 加藤 靖子 (ロート製薬) 2:49.5  
3 諸林八重子 (旭化成) 2:51.2  
4 川上 静江 (淑徳高) 2:52.3  
5 高橋 淑子 (成女高) 3:05.2

決勝 (8/3)

- 1 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 2:36.2  
33.3 1:12.4 1:53.5  
2 山田佐代子 (ロート製薬) 2:43.3  
1:15.1  
3 松田奈津子 (五条高) 2:44.9  
4 加藤 靖子 (ロート製薬) 2:45.2  
1:18.3  
5 中西美智代 (五条高) 2:46.8  
1:19.4  
6 川上 静江 (淑徳高) 2:46.8  
1:19.4  
7 諸林八重子 (旭化成) 2:52.6  
1:20.2  
8 麻生真由美 (横学高) 2:57.8

**100m 背 泳**

予選A (8/4)

- 1 四本 博美 (白木屋) 1:17.1  
2 松元 妙子 (旭化成) 1:17.8  
3 岡田八詠子 (五条高) 1:18.6  
4 水落志保美 (成女学) 1:20.6  
5 大宮美枝子 (淑徳高) 1:20.6  
6 武樋 マキ (二階堂高) 1:20.8  
7 田端 恵子 (筑紫女) 1:20.8  
8 長島 正江 (横学中) 1:23.6  
9 秋田 照美 (成女中) 1:26.5

B

- 1 田中 聰子 (八幡製鉄) 1:16.2  
2 松永 凉子 (ロート製薬) 1:17.5  
3 佐藤美代子 (成女中) 1:17.7  
4 内野 典子 (五条高) 1:19.5  
5 林 かをり (東洋レ) 1:21.5

決勝 (8/5)

- 1 田中 聰子 (八幡製鉄) 1:09.8  
33.5  
2 四本 博美 (白木屋) 1:15.1  
35.5  
3 松永 凉子 (ロート製薬) 1:16.3  
36.4  
4 岡田八詠子 (五条高) 1:16.7  
36.6  
5 佐藤美代子 (成女中) 1:16.7  
37.0  
6 松元 妙子 (旭化成) 1:16.7  
36.5  
7 内野 典子 (五条高) 1:19.1  
38.0  
8 水落志保美 (成女高) 1:20.6

**200m 背 泳**

予選A (8/3)

- 1 田中 聰子 (八幡製鉄) 2:34.2  
35.2 1:14.7 1:54.4  
2 松永 凉子 (ロート製薬) 2:44.8  
3 佐藤美代子 (成女中) 2:50.1  
4 大宮美枝子 (淑徳高) 2:51.1  
5 内野 典子 (五条高) 2:52.1  
6 田端 恵子 (筑紫女高) 2:53.4  
7 林 かほり (東洋レ) 2:56.9

B

- 1 四本 博美 (白木屋) 2:42.8  
1:17.5  
2 岡田八詠子 (五条高) 2:43.5  
3 松元 妙子 (旭化成) 2:45.1  
4 水落志保美 (成女高) 2:57.9

決勝 (8/4)

- 1 田中 聰子 (八幡製録) **2:28.2**  
(世新)  
34.4 1:11.7 1:50.0  
2 岡田八詠子 (五条高) 2:40.6  
1:17.1  
3 四本 博美 (白木屋) 2:42.2  
1:19.5  
4 松永 凉子 (ロート製薬) 2:43.4  
1:19.0  
5 松元 妙子 (旭化成) 2:45.8  
1:20.3  
6 佐藤美代子 (成女中) 2:47.2  
1:21.9  
7 内野 典子 (五条高) 2:49.2  
1:23.7  
8 大宮美枝子 (淑徳高) 2:49.9  
1:22.8

**400m 個人メドレー**

予選A (8/2)

- 1 斎藤 弘子 (梶泳会) 5:57.1  
2 加藤 靖子 (ロート製薬) 5:57.3  
3 松田奈津子 (五条高) 5:58.2  
1:16.5 2:52.5 4:36.2  
4 木村 遊子 (東田中) 6:16.2  
5 高橋 淑子 (成女高) 6:18.7

B

- 1 江坂 君子 (梶泳会) 5:54.3  
5:18.3 2:50.5 4:35.4  
2 大宮美枝子 (淑徳) 6:18.4  
3 村松美智子 (ロート製薬) 6:23.7

決勝 (8/3)

- 1 江坂 君子 (梶泳会) 5:46.1  
1:17.8 2:46.7 4:29.3  
2 村松美智子 (ロート製薬) 5:46.7  
1:16.6  
3 斎藤 弘子 (梶泳会) 5:56.5  
1:18.5 2:52.1 4:37.8  
4 加藤 靖子 (ロート製薬) 6:01.0  
1:33.8 3:11.0 4:58.1  
5 松田奈津子 (五条高) 6:02.7  
1:16.6 2:53.8 4:38.4  
6 大宮美枝子 (淑徳高) 6:07.6  
1:24.3 2:53.4 4:42.3  
7 高橋 淑子 (成女高) 6:18.0  
1:23.2 3:03.6 4:52.3  
8 木村 遊子 (東田中) 6:18.4  
1:21.1 2:49.2 4:30.3

**男子飛板飛込**

- 1 土佐 忠雄 (稲泳会) 136.94  
2 金戸 俊介 (リッカー) 136.78  
3 山野外嗣夫 (北陸軽金) 131.44  
4 谷口 博 (稲泳会) 118.61  
5 有先 洋広 (日大) 115.95  
6 長東 悦朗 ( " ) 114.44

**高 飛 込**

- 1 金戸 俊介 (リッカー) 144.09  
2 土佐 忠雄 (稲泳会) 133.74  
3 谷口 博 ( " ) 130.47  
4 田原 和夫 (東洋時計) 129.40  
5 山野外嗣夫 (北陸軽金) 127.22  
6 有先 洋広 (日大) 123.07

**女子飛板飛込**

- 1 馬淵かの子 (倉敷レ) 126.13  
2 渡辺久美子 (リッカー) 122.42  
3 友江嘉代子 (日本ダンロップ) 104.00



4 葛目千鶴子 (日体職員) 103.00	2 大崎 恵子 (日体大) 71.63	6 石黒のぶよ (大通) 57.64
5 石黒のぶよ (大通) 97.88	3 友江嘉代子 (日本ダンロップ) 69.87	(水球とシンクロについては年鑑号参照)
6 大崎 恵子 (日体大) 96.25	4 河合 初子 (大阪) 64.19	
高 飛 込	5 浅香 輝子 (天理大) 59.91	
1 渡辺久美子 (リッカー) 87.98		

大会終了後選考委員会を開き日米対抗日本チームの役員7名と代表候補選手27名(競泳25, 飛込2)を次の通り決定した

役員——日米対抗の記事参照(1頁)

代表候補選手

競 泳	山 中 毅 (大洋漁業)	吉無田 春 男 (八幡製鉄)
	石 原 勝 記 (BSタイヤ)	藤 島 祥 三 (早 大)
	岡 部 幸 明 (早 大)	中 野 悟 (桜宮高)
	後 藤 忠 治 (日 大)	佐々木 末 昭 (中 大)
	福 井 清 (大洋漁業)	松 本 健次郎 (早 大)
	岩 崎 邦 宏 (早 大)	石 川 健 二 (日大豊山高)
	藤 本 達 夫 (松下電器)	山 南 宏 一 (早 大)
	福 井 誠 (八幡製鉄)	敷 石 義 秋 (日 大)
	和 気 統 (日 大)	佐 藤 好 助 (八幡製鉄)
	伊 藤 圭 祐 (早 大)	中 島 功 (BSタイヤ)
	五十嵐 武 清 (日 大)	大 林 敦 (中 大)
	大 隅 潔 (明 大)	福 島 滋 雄 (日 大)
	山 影 武 士 (明 大)	
飛 込	金 戸 俊 介 (リッカー)	土 佐 忠 雄 (早 大)

### ソ連とフランスのオリンピック標準記録

ソ連とフランスのオリンピック候補標準記録を参考迄にお目につく。日本に比較して男子は稍低く、女子は稍高いのが目につく、ソ連の男子100m自由形は日本と同じく低調だが、フランスはゴットパーレのような国際級のスプリンターがいるせいか可なり標準が高い。

	ソ 連	フ ラ ンス
男 子 100m自由形	56.5	55.6
200m自由形	2:06.0	—
400m自由形	4:28.0	4:25.0
1500m自由形	18:00.0	18:00.0
100m平 泳	1:12.0	—
200m平 泳	2:36.0	2:37.0
100mバ タ	1:01.0	—
200mバ タ	2:18.0	2:16.5
100m背 泳	1:02.5	—
200m背 泳	2:18.0	2:18.0
400m個人メ	5:05.0	5:08.0

女 子 100m自由形	1:04.0	1:04.0
400m自由形	5:00.0	4:57.0
200m平 泳	2:53.0	2:54.5
100mバ タ	1:12.0	1:12.0
100m背 泳	1:12.0	1:11.0
400m個人メ	5:45.0	5:43.0

### 東西合同のドイツチームの実力

西ドイツのクラインやヘッツの実力は東京国際スポーツではっきり分ったが、これに平泳陣の強い東ドイツが加わった東西合同のドイツチームの勢力は相当なものとなる。勿論当面のライバルは米・豪であるが、第3勢力としてのドイツ、特にリレーチームの実力を高く評価しておかないと、メルボルン大会の800mリレーのようなことになる。此の時は、予想もしなかったソ連にも敗れて4位となり、パリ大会以来の惨敗と、新聞に叩かれた。

# 昭和38年度夏季定例代議員会

## 議 事 録

日 時 昭和 38 年 8 月 3 日 (土)  
場 所 国 立 競 技 場 講 堂

### ○ 開会宣言 (根上理事長)

加盟団体51の内、現在迄に過半数の31が出席しているから一応成立とみて代議員会を開催する。短時間であるから報告事項を主として進めたい。

### ○ 開会挨拶 (高石会長)

水泳連盟は昨年を引きつづき加盟団体各位の絶大な御協力と関係者一同の努力によってオリンピックを中心とした施設の整備と選手強化を着々と進めているが今後尚一層の御援助を賜りたい。

### ○ 全般的報告事項

#### 1. 連盟人事関係 (根上理事長)

イ、本年5月11日に常務理事栗村中丸氏(編集担当)が、又5月13日に顧問の野村駿吉氏が逝去された。御両名は永年の間日本水泳界のために多大の貢献をされた方であり、心から哀悼の意を表したい。(一同黙悼)

ロ、本年1月の定例代議員会に於いて報告した、常務理事の内、志村文一郎氏は社用で渡米したので理事となってもらい、又逝去された栗村中丸氏の後任に穴道洋一氏を編集担当の常務理事になってもらうことにした。

ハ、強化本部長の小池礼三氏が辞任されたので会長兼任とした。

ニ、競泳委員長の太田光雄氏が兼務多忙のため辞任されたので藤岡達昂氏を委員長代理とした。

ホ、近代5種連合役員改選で中野太郎、大渡雅士の両氏が理事となった。

ヘ、国体常任委員には勝村肇氏が再任された。

ト、体協理事には引きつづき高石会長が再任。

#### 2. 体協関係 (根上理事長)

イ、理事改選、竹田恒徳氏は専務理事を辞任し、JOCの委員長専任となり、大庭哲夫氏が体協専務理事となった。

ロ、国体委員会従来の制度を拡充し、委員長制度とする。

ハ、強化本部会を改組して強化し特別強化委員会を

設け委員長には東俊郎氏。

強化本部長には大島鎌吉氏が就任した。

ニ、オリンピック記念館地下2階、地上5階延坪3,500坪のものを昭和39年7月迄に代々木ワシントンハイツあとにたてる。これはオリンピックが終る迄組織委員会と20競技団体が使用する。水連も大会後ここに一室とりたいと考えている。(原宿駅から歩いて6~7分の所)

ホ、オリンピック関係水泳の行なわれる総合体育館は現在約20%の進捗状況である。過日行なわれたオリンピックデーは皇太子及秩父宮妃がお見えになり極めて盛大であった。

水連からはオリンピック選手を代表して、高石、鶴田、兵藤(旧前畑)古川の4氏が参加した。

#### 3. 全国高校体育大会の件 (高石会長)

高体連がNHKの後援によって同一場所、同一日に総合的体育大会を開催しようとするもので、文部省もかなり力を入れているらしいが、各競技団体のこれに対する態度はマチマチである。中にはこの際、総合体育大会に任せたいという団体もあるが、何れにしても現在各個に開催している競技会の参加人員は約5万人であるからこれを如何にしてシボるか、国体の1万人でも誠に大事業であるのに、これを更に上廻る大体育会をもつということは誠に重大な問題である。

要は高校スポーツの健全な発達に役立てば結構なことであるが、前述のような点で大きな問題をはらんでいる。

#### 4. 選手強化関係 (高石会長)

選手強化特別委員会で対策を立案し、強化対策本部で実施する。水連としては一般強化の時期は終って、これからは重点強化の時期にはいる。従って一般強化の費用として従来地方に配布した予算は今年からやめることにする。

本年度はいつてからは3次、4次(体協予算の關係上昭和37年度予算によるもの)1次、2次(同じ

く昭和38年度予算によるもの)の合宿を成功裡に終了した。

5. オリンピック関係(根上理事長)

イ、6月19日に連盟内にオリンピック運営準備委員会を作り10名程の委員で具体的な問題を検討することにした。

ロ、6月9、10日にスイスのローザンヌでFINA理事会が開かれたので水連から根上理事長、古橋常務理事がオブザーバーとして出席した。

この理事会で世界新記録を公認し、オリンピック競技日程を日本案の若干修正で決定した。

ただ、女子100mバタフライと女子200m平泳予選が5組以上となるので準決勝が必要となり、これをどこに入れるかを今後きめなければならない。

水球は16チームに決定した。ボールは革製、プラスチック製の両方を希望によって使用する。希望が異なるときは革製のものを使用することに決定。

競泳の審判は電子式自動審判機を使うことになったが、万一この機械が作動しない時はストップウォッチとオッシログラフにより、更にビデオテープ等で完璧を期することにする。

即ち優先順位としては次のようになる。

1. 電子式自動審判機
2. ストップウォッチとオッシログラフ
3. ビデオテープ

水温はローマ大会より稍低く22°~24°Cとする。

ハ、東京大会のプールの水中照明は水球テクニックの審判のためにも甚だ有効であるから是非つけたと思っている。(現在の計画ではつけることになった)

ニ、入場券、会場の未定の分があったので予約販売の決定がおくれた。開会式、閉会式、水泳等に人気が集まっているので、水泳関係者に対する切符の割当数が打合の都度減ってくる。水連に対する開会式の割当は50枚以下となりそうだから余り期待されると困る。

ホ、日本選手団 役員75名、選手400名、計475名位になる見込である。その内水泳関係は、選手74名、役員若干名で選手74名の内訳は下記の通り

男子	競泳、飛込	33名
女子	“ ”	30名
水球		11名

6. 室内選手権と日濠対抗

(根上理事長)

イ、室内選手権は4月6、7日の両日、東京都屋内プールで挙行、多くの新記録が出たが、収入は収容人員が少ない関係上僅かであった。この競技の結果によって日濠対抗の日本チームを編成した。

(村上勝芳監督以下選手14名)

ロ、日濠対抗 第2回日濠対抗に出場の濠チームはホランド監督以下14名4月15日来日、東京、別府で対抗競技、呉で親善競技を行なった。

東京大会(4月20、21日)49-23で日本の優勝200m自でウインドル、800mリレーで日本チームが世界新を出した。

別府大会(4月27日)29-15で日本の優勝。

呉の親善競技は4月24日海上自衛隊の室内プールで行なわれた。(国際社会事業団後援)

7. 役員選手海外派遣(根上理事長)

イ、1月26、27日西独ブレーメンで開かれる国際室内水泳競技会に日本も招待されたので竹林寺文雄監督と藤本達夫、福島滋雄の両選手が参加した。

ロ、西独から水球のコーチとして次の3名を招聘し2月13日から3月26日迄の6週間指導を受け多大の効果があった。

エミール・ビルドスタイン (G.K. 29才)

ハンス・シエパー (B.W. 32才)

フリーデル・オッセルマン (F.W. 32才)

ハ、2月15日から9日間オーストラリアのパスで開かれた全濠水上選手権大会に小柳清志監督以下男子(高校)12名、女子10名の選手を派遣し、世界新10、日本新24、高校新29、中学新9という輝やかな成果を収めた。

ニ、3月20~23日、米国ニューヘブーンで開かれた全米室内選手権の飛込競技に金戸、土佐の2選手を派遣した。

ホ、3月末から4月始めにかけて藤垣亮太郎監督以下の中学生チーム(男子7名、女子5名)を米国西部及カナダに派遣し主としてエイジ・グループの試合に参加させた。

ヘ、6月1日に日本になじみの深いロバート・キップス氏が印度からの帰りに立寄り旧交をあたためた。

ト、6月9、10日FINA理事会(前述)

チ、6月15日ソ連の招待により小柳富男監督以下土佐、馬淵の両飛込選手がモスクワの国際飛込競技大会に参加し土佐が飛込に優勝した。

リ、米国からドン・ハーバー氏を飛込コーチとして6月中旬から2カ月半の予定で招聘した。

ヌ、7月24日 関西大学OBの山本新吾氏がタイ国の招待で同国に出発した。

ル、カンボジア、ペルー、ルーマニアからも水泳のコーチを派遣してくれと言ってきている。

ヲ、今後の海外遠征

○水泳チーム 欧州派遣

神田明善監督選手13名 8月11日 出発、主として中部ヨーロッパに行く。

○ユニバーシアード派遣、8月31日から10日間ブラジルのポータレグレで開かれるこの大会には次のチームを派遣する。

競泳 北村康雄監督選手6名

飛込 馬淵良監督選手2名

水球 近藤静夫監督選手10名

なお村瀬友三郎氏が国際水球審判兼水球コーチとして参加する。

## 8. 各委員会報告

イ、競泳委員会（藤岡委員長代理）

競技規約の案をつくったから御検討願いたい。

ロ、飛込委員会（柴原委員長）

○仙台の合宿は水温が低く条件がよくなかった。

○全米室内選手権に参加したが米国の選手層は極めて厚く僅かの失敗が大きくひびく。

○ソ連行は雨つづきで大変寒かった。

○東京大会の準備としてボード8枚を輸入する、神宮、屋内、及びオリンピック候補のいる地区に分ける、今年は100万円の予算で11枚購入する予定。

○現在の日本の実力ではオリンピック3位入賞は困難。

ハ、普及委員会（上野委員長）

○8月1日国民皆泳（第11回学童大会）を東京小金井で行なった。文部大臣、高石会長以下参列、盛大であった。

○優秀学童を表彰したいから記録の報告を是非御願いたい。（9月上旬）

ニ、日本泳法委員会（小林委員長）

○2月中旬 神奈川県湯河原で日本泳法研究会を行なった。

参加者87名

○本年度の大会は8月10、11日天理で挙行するが、この大会の優秀者を日米対抗のエキシビジョンに出場させる。

ホ、シンクロ委員会（島崎委員長）

3月17日からYWCAで講習（参加者50名）

5月16日 東京で種目別練習競技会を開催。

7月13、14日 東京大会を開催（参加者55名）はじめて職場チーム（三菱銀行）が参加した。今後地方の普及に努力したい。

ヘ、記録委員会（根上理事長）

従来は新記録を年1回まとめて発表することになっているが、最近のように冬でも海外遠征等で多数の新記録があらわれ、又春の室内大会、日濠対抗と本年はすでに上半期（6月末）で78の新記録が出たのでこれを整理しないと混乱を生ずるので、「年1回以上公認」ということに改めた。

9. 日米対抗及国際スポーツ大会の準備状況（根上理事長）

○第6回日米対抗 8月17～19日、神宮で行なう。

日本選手は選手権大会の結果により選考し、又米国は8月9日から行なわれる全米戸外選手権大会の結果によってきまる。

東京の他に大阪で対抗競技を又名古屋で親善競技を行なうことになっているが、この他については審議の結果岡山で親善競技を開催することになったから、申出のあった広島、高知、富山は御諒承願いたい。

○国際スポーツ大会、10月に行なわれるが、水泳は都の屋内プールを使用する。出場者は300名位で、大会の経費は体協負担、入場料は水連がもらうことになっている。

日本チームはオリンピック候補を中心として編成する。外国選手は夫々招待の案内を出してあるが、競泳飛込41名、水球12名、計53名が参加する予定である。参加選手確定次第招待状を発送する。

10. 勤労者大会について（根上理事長）

勤労者大会は現在のままでは毎年勝つ人、勝つ団体が同じ顔ぶれとなり妙味がないので何とかならないかという声が共催団体におこっている。陸上は明年からなくなる可能性もあるようだが、この大会に力をいれて今日迄努力した水連としては更に発展させたいと願っているので、厚生省ともよく相談して善処したいと思っている。

11. 各地の準備状況

国体（山口）高校大会（大阪）中学生大会（愛知）勤労者大会（浜名湾）の説明あり。

以上

（文責任・宍道）

# 日本水泳連盟競技規約について

従来競技の運営や役員構成については日本水泳連盟競技規定の中の競泳規則できめられていたが、条文が簡単であいまいな点もあったので、これを大巾に改めて、説明的なものとした「競技規約案」を作り、昭和38年の夏の代議員会で説明し、又秋の国際スポーツ大会の直前に全国から担当者をして実際の運営講習会を行なった。

今後多少の手直しはあると思われるが、近い中に決定して昭和39年度の競技会はこれによってや  
って行きたいと思う。  
(競泳委員会)

## 日本水泳連盟競技規約(案)

### 審判長

- ① 審判長は、選手及び競技役員に対して、完全な統轄権をもつ。
- ② 審判長は、副審判長を設け、その任務を代行させる事が出来る。
- ③ 審判長は、競技役員を指揮、命令し、競技の運営が円滑に行なわれる様に努力する。故に、競技の運営について及び競技役員についての意見、忠告、苦情等はすべて審判長を通して行なう。審判長は、それらの中で、必要と認めたものは、各主任を通して処理する。
- ④ 審判長は、選手が召集員によってスタート台後方に誘導され、召集員より間違いない旨報告を受けた後、競技役員(審判員、監察員、計時員、出発合図員)が所定の位置についた事を十分に確めた後、出発合図員に競泳の開始を命ずる。
- ⑤ 審判長は、競泳規則に違反の疑いある時は、何時でも競技を中止して、調査する事が出来る。
- ⑥ 審判員の間で意見が異なっている時は最終的決定を下す。
- ⑦ 審判員の判定に困難をきたす恐れある時は、審判員の中にあらかじめパート審判を設けさせて、少しでも正確な判定が下る様に努力させる。
- ⑧ 監察主任より反則についての報告があった場合に、最終的決定を下す。
- ⑨ 監査員の人員が不足して、監察の仕事に支障をきたす恐れある場合に、審判員にスタート台側の監察の職務を命ずる。最近泳法、ターニングについて技術的に著しい進歩がみられ、監察員の仕事がプールの広範囲にわたる様になって来た為である。
- ⑩ 競技会の進行について、運営委員(仮称)とも相談して、随時指示を与える事が出来る。
- ⑪ 競技中に起った事項についての抗議及苦情を書面で受付ける。総ての抗議、苦情は日本水泳連盟とその加

盟団体によって任命された総務委員によって検討し、裁定される。但し、反則の決定、着順の決定は最終のものとする。

- ⑫ 競技中、選手が自分のコースから逸脱したり、インターフェアを行なった場合及同様の事を監察主任より報告があった場合は、選手は失格とする。尚この反則が故意になされたときは、主催団体及反則者の所属する団体に事情を通報する。
- ⑬ 他の選手の妨害によって、選手が入選又は入賞の機会を失なった時は、やり直しさせ又は、その選手を次回の子選又は準決勝に出場させる事が出来る。決勝の時は、やり直しをさせる事が出来る。
- ⑭ 選手の水着が適法でない場合(原則として見苦しいと判断される場合)出発を中止させる事が出来る。

### 審判員

#### 1. 任 務

- ① 出発合図のあった時から、選手に対する審判権を持ち、1位より最下位までの到着順位をコース名により、審判用紙に記入して、署名の上主任に提出する。
- ② 審判員の判定は、他の役員(計時員)の判定より優先される。故に審判の判定をより正確にする為に、電子式自動審判機及着順判定機(オシログラフ)を使用する場合がある。その場合、自動審判機、着順判定機の判定を最優先とする。
- ③ 審判主任は、各審判員より提出された審判用紙の判定に基いて、着順を判定する。
- ④ 到着順位の判定が困難を予想される場合に、審判主任はパート主任を設けて、ある部分の判定をさせる事が出来る。
- ⑤ 審判長より、審判主任を通じて特に監察員の任務を命令される場合がある。その場合は審判員の任務と合せて、スタート側についての監察を行なう。

2. 編 成

- ① 5～9名の奇数人数をもって編成し、人員は両側に(2-3・3-4・4-5)分け、決勝線の延長線上の位置におかれた審判台にて判定を行なう。
- ② 審判員は全競技終了まで一定した位置に配置する。
- ③ 主任の外に、デスクに一名の補助を置き、審判用紙の集計等の審判に関する事務を行なわせると便利である。
- ④ 自動審判機を使用する場合には、記録事務、機械操作等に万全を期す為に、それに必要な人員を増員する。
- ⑤ 長時間に競技が行なわせる場合は、二組の審判員を用意して、交代により行なう。

3. 着順決定の方法

- ① 自動審判機を使用する場合は、その判定を最優先とする。
- ② 自動審判機を使用する場合でも、従来通り審判員の目による判定は行なわれる。
- ③ 審判員による着順決定方法について
  - イ) 名審判員は選手の到着を目で見て、ゴールタッチした者から順次1位から最下位までの到着順位を判定し、審判用紙にコース名をもって記入し、署名して主任に提出する。

審 判 用 紙		
No.1 200M自由型 予選 A組		
順 位	コース名	メ モ
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
		氏 名

ロ) 審判用紙

- ① プログラムナンバー
- ② 種目, 男女別, 組, 予選, 準決勝, 決勝
- ③ 到着順位は上から, コース名を数字で記入する。
- ④ メモの空白になっている所は, 審判判定の困難な時や反則, その他について, メモを取る時の為である。

ハ) 審判員は選手が, 同時にゴールタッチして判定が困難になった時に, 分った者のみを審判用紙に記入し, 分らない所は斜線を引いて, 判定出来な

かった順位と, コース名を明確にしておく。

(例)

(順)	1	5	(着)
	2	3	
	3	7	
	4	/	
	5	/	
	6	8	
	7	2	
	8	9	

4位と5位が判定不能であって, コース名は6コースか4コースであった。

この場合に他の審判員と相談したり聞いたりして不明の部分を入力する事は絶対にして

はいけない。

ニ) 如何に判定が困難な場合でも, それを判定することが審判員の任務であり, 競技会に於いては審判の着順決定が出来なかったというわけには行かないので, 審判員は日頃から自分の目と勘を養っておく努力が要求される。練習を積む事によってかなりむづかしい判定でも誤りなく判定出来る様になるものである。

ホ) 選手が一斉にゴールインしてくるので, 一人一人到着するのを確認してから審判用紙に記入する事が困難な場合は, 先づその瞬間の順序を良く目で見ておいて頭に入れてから思い出して審判用紙に記入した方がやりやすいと思う。用紙のメモ欄を利用して下さい。

ヘ) 審判の判定をより正確にする為に, 計時員による時間による着順判定を一人の審判員とみなし一票として採用する事が望ましい。計時に於いてデカトロンを使用する場合は更にもう一票加える事になる。

ト) 審判主任は各審判員より審判用紙を集め, それを審判集計用紙に記入し, 各審判員の判定を一票として, その合計をもって順位の決定とする。そ

(例) 審判集計用紙

No.1 男子200M自由型決勝										
審判員 順位	A B C D E F G							計時	デカ トロ ン	判定
	1	5	5	5	5	5	5			
2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
3	6	6	7	6	6	7	6	6	6	6
4	7	7	6	7	7	6	7	7	7	7
5	3	3	2	8	2	3	3	2	3	3
6	2	2	3	2	3	8	2	3	2	2
7	8	8	8	3	8	2	8	8	8	8
8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

(デカトロンを使用しない場合は, デカトロンを削除する)

それでも決定を見ない場合は, 審判長の決定を最終

的決定とする。

- 1位 5コース—9票
- 2位 4コース—9票
- 3位 6コース—7票 7コース—2票
- 4位 7コース—7票 6コース—2票
- 5位 3コース—5票 2コース—3票 8コース—1票
- 6位 2コース—5票 3コース—3票 8コース—1票
- 7位 8コース—7票 8コース—3票 2コース—1票
- 8位 9コース—9票

チ) 審判主任は、審判長又は出発合図員より選手の失格について通知があった場合は到着順位を訂正する。

リ) 審判主任は、以上の結果から判定された到着順位を記録用紙の順位の項に記入し、署名して計時主任へ回付する。

- ④ 独泳の場合、選手は全距離を泳ぎ切る事によって、勝利者としての資格を得る。
- ⑤ パート審判について

パート審判は、審判員の審判台上からの目による判定を一層正確にする為に取りられる手段であって、その役割はあくまで補助的、部分的である。

(例) 審判員の判定集計が

- 順位 1位 (5コース—6票  
4コース—1票)
- 2位 (4コース—6票  
5コース—1票)

と出て、1位5コース、2位4コースと決定される。この場合、パート審判員が2名ではっきり見ていたら5コースのタッチが流れていたもので、4コースが1位と認めたとすると、審判の集計結果は

- 1位 (5コース—6票  
4コース—3票)
- (4コース—6票  
5コース—3票)

となるだけで、1位5コース、2位4コースという着順判定は、現行の審判方法からすると、くつがえず事は出来ないのである。

パート審判の判定が尊重されるのは、審判員の判定が5-4、4-3、4-4とせり合った場合のみになるのである。パート審判についての細かい運用はその状況によっても異なるので、その際の審判長、審判主任の判断に一任すべきである。

パート審判の編成は、2~3名程度としてその位置は原則としてその目標とする。判定が一番見易い所ならば何処でも良いと思う。スタート台の上でもプールサイドでも良い。但しスタート台上は2名の判

定の際は見易いけれど、3名以上の判定については案外に視野が狭いものである。

方法はそれぞれのレース毎に競り合うグループがある。それを重点的に判定する。

(例) 2位~4位が4コース、3コース、8コースで競り合ってきた場合

3位~5位が3コース、7コース、8コースで競り合った場合

(例) の場合にそのレース毎に、その判定の重点を困難と思われる所に置いてみるのが適当と思う。

## 出発合図員

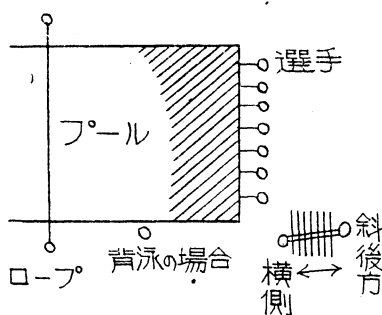
### 1. 任 務

- ① 審判長から競技の開始を命ぜられたならば(審判長の笛が鳴ったら)選手はスタート台の上に立たせ、出発の予令を下し(用意)選手が出発の構えをするのに十分な時間をおいて後、ピストル号音等の合図によって、選手を一斉に出発させる。

### 2. 編 成

- ① 人員は2~3名にて編成する。
- ② 位置は原則として、選手全員を見渡せる場所で選手から出発合図員の動作の見えない場所とする。プールのスタート台の横側から斜後方に位置するのが良いと思うが、それぞれのプールの構造によって考慮する。

但し、背泳の場合はプールサイドに位置する。



- ③ 出発合図補助員を設け(2名程度)プールのスタート台より20m位の所にロープを張り、ファールスタートした場合に選手を止めるロープを落させる役割をさせる。

### 3. 方 法

- ① 出発合図員は、競技の前に次の事を説明する。
  - イ) 出発の予令の言葉と出発の合図
  - ロ) 行なわれる競技の種目、距離及終る場所
- イ) については、国内の競技会では問題はないが、国際試合の場合は外国選手に「用意」「ドン」で出発ある旨事前に教えておいた方が良いと思う。
- ロ) については、出場選手が十分に確認している場合はいわなくても良い。(召集員の任務となる)
- ② 選手は召集員によって誘導され、スタート台後方

にて待機する。召集員は選手を確認し、間違いがなければ審判長に報告する。

- ③ 審判長は、召集員の間違いない旨報告を受けたら、各競技役員が所定の位置についた事を確認し、競技開始の合図（笛）をする。
- ④ 選手は審判長の合図（笛）があったらスタート台に立つ。
- ⑤ 出発合図員は、選手がスタート台上に並んで立ったら「用意」の予令を下す。
- ⑥ 予令をしてから、選手が出発の構えをするのに十分な時間をおいて後、選手が一斉に出発出来る状態になったと判断したら、出発の合図（ピストルを打つ）をする。その時選手は出発の構えをしたら、出発の合図（ピストルの打つ）があるまで、あらゆる動作を起してはならない。
- ⑦ 選手の中で故意に出発の構えを遅らせている選手が一人でもいる場合は、審判長か出発合図員のどちらかが全選手に出発のやり直しを命じ、その選手に注意を与える。これは自分の出発の構えに合わせて、出発合図員の合図をさせようとする選手がいるからである。
- ⑧ 用意の予令をかけてもある選手がいつまでも出発の構えをしない場合は、出発の構えをしたものとして出発の合図を行なっても良い。

#### 4. フェールスタートについて

- ① フェールスタートがあった場合は直ちに競技を中止の合図を行なう（ピストルの二発目を打つ）それでも一部の選手が泳ぎ始めた時は、出発合図補助員にストップロープを下げさせて止めさせる。
- ② 1回目、2回目のフェールスタートがあった場合、選手を水中より呼び戻して注意する（例）（5コースフェールスタート1回）
- ③ 3回目のスタートに際しては全選手に3回目にフェールスタートした者は失格となる事を注意する。
- ④ 3回目にフェールスタートした場合は、そのまま競技は行なわせる。スタートを改めてやり直す必要はない。3回目に於いて一人がフェールスタートをして他の一人がそれにつられてプールに落ちた場合でも両方共に失格となる。
- ⑤ 出発合図員は、フェールスタートによって失格した場合、失格者のコース名をもって審判主任に失格の旨を通知する。
- ⑥ フェールスタートにより一部の選手が50m以上泳いで不利となった場合、審判長にその指示を求め、出発の組を差しかえても良い。

#### 5. その他の注意事項

- ① 背泳の場合、選手の足の指が水面上に出ているか否かを特に注意する。
- ② 用意の予令とピストルの号音との間の取り方について、なるべく一定となる様にし、又そのタイミングについても十分注意する。
- ③ 選手は「用意」の予令が聞えたら、何時でも出発出来る様にしておかなければならない。
- ④ ウォーミングアップについては、事前に審判長、召集員とも相談しておく様にする。原則としては行なわせない方が良い。決勝の場合、試合進行時間にゆとりがあれば考慮しても良い。
- ⑤ ピストル、弾薬等の器具については、事前に十分調査手入れをしておく様にし、俄雨などの際に弾薬を濡らさない様にする。ピストルは二発弾薬をつめておくか、又は2台を用意しておく。

## 監 察 員

### 1. 任 務

- ① 監察員は競泳中の選手について次の事項を監察し、反則の有無を判定し、監察主任を通して審判長に報告する。反則の最終的決定は審判長が下す。  
イ) 泳法 ロ) ターニング動作 ハ) ゴールタッチ ニ) リレーの引継 ホ) 水路の逸脱 ヘ) インターフェアア ト) 水底を歩き、又水底を蹴って競技を続けた場合 チ) コースロープを握った場合 リ) 競技中、選手に有利になると思われる器具を利用又は着用した場合 ヌ) ペースメイキングを使用した場合、又はその効果を有する装置を用いたり、計画を採用した場合 ル) 競技の進行中のコーチ
- ② 監察員の厳正という事から、反則は厳しく取上げるべきであるが、反則についての判定は非常に重要な事であるから、慎重果断に行なわれる事が望まれる。
- ③ 監察の仕事はその性質上、一人の選手の反則について全員でそれを確認する事は不可能である。その為に選手の反則については、なるべく二人以上の監察員が確認出来る様な方法を考える事が望まれる。それでも一人の監察員によって、反則を判定しなければならぬ場合も屢々起るのである。
- ④ 以上の様な監察員の性質上、日頃から競泳規則の反則についての研究及実技の研究を行ない、各監察員は競泳規則の反則について、共通した一定の見解を持たなければならない。即ち各監察員が共通の一定した見解によって監察が行なわれなければ、公平なる監察は行なわれなくなる。



⑤ 故に、競技会に於いてその開始前に特に監察主任は各監察員を集めて、反則についての見解の再確認と打合せをする事、この様にして反則が起り、それがたった一人の監察員の確認であっても、それは取上げるべきだと思う。

⑥ 選手の立場から見た場合に、競泳規則の範囲内で行なう泳法ならば反則とならないので、その範囲の限度一杯まで追求してくる事は当然である。そしてその様な努力がバタフライを生み出し、又ドロフィンキックとかクイックターンを考案して水泳の進歩、発展させて来たのである。

⑦ 故に選手にとって、失格という事が選手のすべての努力が水泡に帰してしまうのであるから、監察員も選手自身、監督、コーチも十分に注意し、日頃の練習の時に正しい泳法を身につける様に、心がけて戴きたい。

⑧ 競技会の前に催される監督会議に於いても反則についての説明、打合せを行なう必要がある。

⑨ 審判長の命令により、監督員の人員が不足している場合に、審判員にスタート台側における監察員の職務を代行して貰う。最近は泳法、ターニングについての技術的な進歩が著しく、監察員の仕事が広がる一方であり、屢々人員が不足になり勝ちである。

⑩ 自由型長距離の際、距離の確認及コールと打鐘を受持つ場合がある。

## 2. 編 成

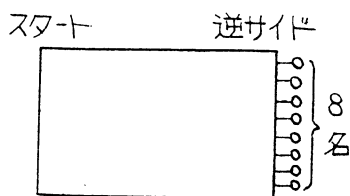
① 人員は8~12名程度をもって編成する。

② 原則は1コース1名以上となっているが、最近では1コース1名では不足となって来ている。

### ③ 配 置

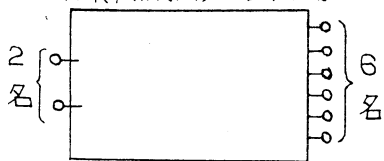
イ) 8名の場合(1コース1名の場合)

a) 短距離 全員逆サイドにて監察する。スタート台側は審判員に頼む。



1コース1名づつターニングを見る。8名  
平泳、バタフライ、背泳の場合は逆サイド6名、スタート台2名とするのが良い。

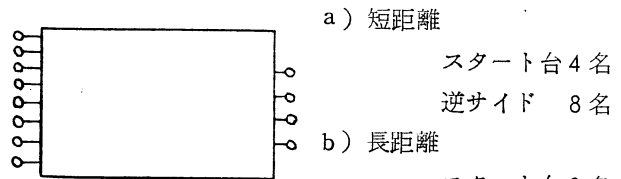
平泳、背泳、バタフライの場合



b) 長距離  
スタート台5~6名 逆サイド2~

3名として、コール、鐘の用意をする。

ロ) 12名以上の場合



a) 短距離

スタート台4名  
逆サイド 8名

b) 長距離

スタート台8名  
逆サイド 4名

ハ) 平泳、バタフライの場合、反則の疑いある場合はプールサイドに2名~4名配置する。

## 3. 監察の方法

① 競泳中の選手について競泳規則によって反則の有無を判定するのであるが、反則についてもはっきり分るものと、仲々判定し難い反則とがある。前者は問題はないが、後者については出来る限り多くの監察員に確認して貰う事が大切である。そしてこの場合「疑わしきは罰せず」という原則の下に処理する。

② 監察員の一人が選手の反則を発見した時、他の監察員にその旨を伝え、その後も反則を続けるかどうかを注意して見る。その際に監察員同志でサインを作っておくと良い。

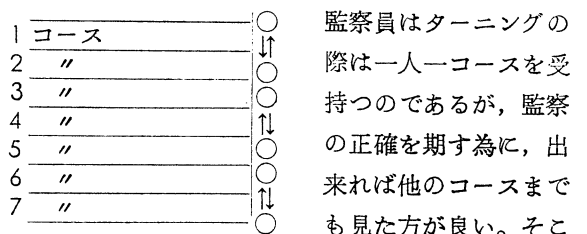
(例) ① 200 平泳3コース50mターニング違反した場合。100m 150m のターニングで再び違反を繰り返すかどうかを見る。

(例) ② 泳法違反の時は監察員にも余裕があるので、出来るだけ多く監察員に見てもらって協議して判定する。

③ 判定のむつかしい反則は泳法についての反則であり、競泳規則でも大体の事しか記入されていないので、監察員は実技について研究をして戴きたい。

④ 監察は大抵の事はスタート台及逆サイドに位置して出来るが、泳法違反の疑いある場合、プールサイドに出て監察を行なう様にする。尚、スタート台、逆サイドにいる監察員も選手が全員ゴールインする迄、その位置を動かずに監察を続ける。

⑤ ターニングの監察について



監察員はターニングの際は一人一コースを受持つのであるが、監察の正確を期す為、出来れば他のコースまでも見た方が良い。そこで二人で二コースを見れば、一人の選手を二人の監察員で監察する事となり、一層正確になると思う。即ち、1人は1コースの端にもう1人は2コースと3コースの間に立つ。そして2人で左と右から1コースと2コースを見る。

次に2コースと3コースの間に1人と4コースと5コースの間に1人をおき、3コース、4コースを両方から見る。この様にして、2人をして2コースを監察させる様にする。

- ⑥ 反則が起った場合、これを認めた監察員は競技中でも事情が許せば直ちに主任に報告する。そして他の監察員とも連絡をとり確認する。監察員は自分の受持ち範囲でなく、絶えず他の監察員の範囲にも気をつける努力をして戴きたい。
- ⑦ 選手が非常に疑わしい泳法とか動作を行なった場合に、「疑わしきは罰せず」の原則で処理するのであるが、監察員としては競技終了後その選手に一応疑わしい旨、注意を与えておいた方が親切であると思う。
- ⑧ 主任は反則の報告を受けたら、その近くの監察員に事情を聞き、十分に検討してから反則か否かを判定し、審判長に報告する。
- ⑨ 審判長は反則と認めたら、その失格者のコース名と失格理由を審判主任に通知し、記録用紙に記入する、この事は監察主任が審判長の代行をしても良い。

#### 4. 泳法についての着眼点(競泳規則も合せて読んで下さい)

##### ① 自由型

イ) ターニング・クイックターンが非常に多くなり、その方法も大変に進歩しているので、ターニングの際に手をふれたかどうかを、確実に監察する。

ロ) ゴールタッチ 手がふれたかどうかを見る。

##### ② 平泳

イ) スタート、ターニングの際に、一掻き、一蹴りは水面下でも良いが、浮上りに際しては、頭が水面上に表われてから二掻き目が開始されたかどうかを見る。

ロ) ターニング、ゴールタッチは両腕を同時に水平面に於いて、両肩の高さに伸ばしてタッチする。ターニングの際に手がプールの端壁にタッチしてから、体を廻すのであって、早くターニングを行なおうとしてタッチする前に体の片方を沈めたりして、ターニングの動作を起してはならない。

ハ) 頭が水平面より沈んでいる場合は潜水法とみなして反則となる。頭が水面すれすれで水をかぶっている場合は良いが、沈んでしまうのは反則とする。プールサイドから泳者を横から見ると見易い。

ニ) 顔、頭は横を向いても良いが、両肩は水平に保

つ様にする。

ホ) アオリ足は反則となる。

ヘ) 選手が無意識にでも泳法違反を行なった場合は反則となる。

##### ③ バタフライ

イ) 両手を水面上に同時に前へ運び後方へ掻く、腕は必ず水上に抜けていなくてはならない。コースロープに引っかかって片腕が抜けない場合でも反則になる。

ロ) 呼吸の際に顔は横を向けても良いが、両肩は水平を保つ様にする。

ハ) 足の動作は同時に行なう。上下交互に動かす事は反則となる。

ニ) ドルフィンキックとカエル足とはどちらでも使用して良い。そしてそれを泳いでいる間に交代しても良い。但し交代する事に違反をしない様にする事。

ホ) ターン、ゴールのタッチは両手を同時に両肩と同じ高さの水平面にする、この際に泳ぎの調子でプールの端壁に手の先が少し(35~50cm)余ってしまい、あと一掻きするわけにも行かない時に、水中で腕を下方に動かしてタッチする選手が多い。これは(イ)の腕は水上を抜いて前方へ運ぶという規則に違反して反則となる。(水中の一掻きと認められる)

この場合の正しい泳法は水中で腕を伸ばしたまま足のみで進んでプールの端壁にタッチする様にする。

ヘ) 最近ではクイックターンがこの種目に行なわれる様になって来たので、タッチに際し(ホ)の項についての注意をする。

##### ④ 背泳

イ) スタートに際し選手は水中に入ってプール端又は把手を握る。両足は水面下に置く、若し足の指をプールの水面上に出ている者があつたら、直ちに出発合図員に連絡してスタートを中止させる。足の指をプールの端壁にかけてスタートを有利にしようとする者に対しての対策である。

ロ) ターニング、ゴールタッチの際に手が確実にタッチする前に、背泳としての正常な体位(仰向けの姿勢)を崩してはならない。ターニングの動作を早く行なおうとして、タッチする前に体位を崩している人が多くなっている、背を90°以上廻すと反則となる。

ハ) 出発の合図の前に手を放すと反則となる(ソールスタート)

ニ) ターニング、ゴールタッチの際に片手又は両手で端壁にふれなければならない。ターニングはタッチしてからターニングの動作に移り、方向を変えるのであるが、足が壁から離れる時に正常な体位であれば良い。

ホ) 他の泳法とも共通であるが、水路の逸脱については、身体の中心線（特に頭を見る）によって判断する。

#### ⑤ リレー

イ) リレーは定められた人数により定められた距離を継泳する。

ロ) 引継は前の泳者が壁にふれないうちに、次の泳者の足がスタート台から離れたときに反則となる。

監察員は泳いで来る選手の手と、次の選手の足首を良く見ている事で、選手のタッチする手と選手の足の先とが一つの視野に入る様な位置で見えていなくては行けない。それぞれのコースのスタート台が一番見易い。

ハ) 但し、フライングスタートをした引継者が、スタートの壁まで戻ってから競技を続ければ反則とならない。

#### ⑥ メドレーリレー

イ) 定められた人数により、定められた距離を、次の順序によってそれぞれの泳法の規則に従って泳ぐ。

①背泳 ②平泳 ③バタフライ ④自由型  
但し、④は①②③の泳法で泳いだときは反則となる。

ロ) 引継は⑤と同じ。

#### ⑦ 個人メドレー

イ) 定められた距離を次の順序によって、それぞれの泳法の規則に従って泳ぐ

①バタフライ ②背泳 ③平泳 ④自由型  
但し、④は①②③の泳法で泳いだときは反則となる。

ロ) 一つの種目はそのゴールタッチまでその種目とみなし、タッチしてから体を廻転し、蹴り出した時は次の泳法となる。泳法の切り換えに注意する。

## 時 計 員

### 1. 任 務

① 計時は出発合図があった瞬間から開始され、選手が競技に要した時間を計る。但し、1コース3名以上の計時員によって計時され使用する時計は、本連

盟又は加盟団体によって正確である事が保証されたものでなければならない。

電気器具の使用の際は、本連盟によって公認されたものに限る。公認された電気器具で記録された時間は正式に認められるが（例えばデカトロンタイマー）電気によると人間によるとを問わず、如何なる場合でも、3人以下の計時であってはならない。

② 予選がタイムレースになっている時は、計時が非常に大きな役割を果すので、計時員は十分にその重要性を認識して戴きたい。

③ 選手の途中時間、正式時間を計時する場合があります、その時は別に定めておくが良い。

### 2. 編 成

① 人員は30名以上をもって編成する。

② 計時員は多数の人員を必要とするので、計時員の中で一つの組織を作ってその統制をとる様にする。

③ 計時主任の下に副主任及計時に関する事務を記録する者（計時集計員）を置き、又一方それぞれのコース毎にコース主任の下に主任を含めて3名以上を割当てる。

計時主任 → 計時集計員

→ コース主任（3名以上でコースを受持ち、コース主任がそれぞれのコースの時間をまとめて提出する）

→ 途中時間、正式時間を計時する者

④ 計時は1コース3名を原則とする（世界新記録、日本新記録等は3名の計時員の署名を必要とする。3名の署名がない時は公認記録とならない）そしてそれぞれのコースにコース主任を作り、主任を含めて3人で計時し、主任がそれをまとめて計時集計員に提出する。

⑤ 途中時間、正式時間を計時する者を事前に用意しておく。正式時間の場合は3名以上とし、途中時間は1名でも良い。

⑥ 自動審判機を計時にも利用する時は、その計時結果の記録員を必要とする。

⑦ 交代要員を用意しておく事。

### 3. 方 法

① 自動審判機、自動計時機等を使用する場合は、自動審判機、自動計時機により計時された時間を計時員の時計によって計時された時間よりも優先する。その場合でも計時員の時計による計時も同時に行なわれる。

② 時計（ストップウォッチ）による時間の測定方法について

イ) 計時主任は競技会以前に時計の正確さを確かめておかなければならない。

ロ) 時計の扱い方

a) 時計は常に紐を首にまいて、胸のポケットに入れて静止させておく。

b) ゼンマイは親指と中指の腹で巻き、人差指は使用しない。

c) 時計を始動又終止する時水平に保ち、体につけて竜頭を押す事。その際に竜頭の第一段を押さえておいてから第二段をこの瞬間に押す様にする。デカトロンタイマーを使用する時も同様である。

d) 時計を振ったり、移動させながら始動終止してはならない。

e) 始動させる時は、出発合図員のピストルの煙を見て押す。

f) 第一針と第二針とがある時計で途中時間、正式時間を計時する際に、第二針を（ラップ用の針）使用した後は、先ず第二針を第一針に戻してから、第一針と共に針を元の位置に戻す事、第二針のみを戻すと故障の恐れがある。

ハ) 計時員の位置は計時員席に待機しているのであるが、選手の出発に際しては出発合図員のピストルの煙の見える場所にいななければならない、計時員席でピストルの煙が見えない場合は（プールの構造上屢々ある）見える位置に一斉に移動して時計を押す。

ゴールインの際は、計時員席からそれぞれの分担のコースのスタート台へ一斉に揃って出て行き、そこで計時する。時計を押して計時がすんだらすぐに計時員席に戻り、席についてからコース主任にそれぞれの計時した時間を報告する。計時員の出入、進退は観客から見一斉に揃って、きびきびした動作をしないと見苦しいものである。

ニ) 計時に際してはなるべく低い姿勢で（観客が見えない事と少しでも選手に近づいた方が正確に計時出来る）計時し、選手のスピードとか泳ぎのリズム等につられない様に、確実にゴールタッチした瞬間を確認してから時計を押す。タッチが流れたか否かを良く見る事で、その時多少水をかけられて濡れても我慢して戴きたい。

ホ) 計時員は自分の計時した時間に自信と責任をもつ事、他の計時員と自分とが計時した時間が多少違っていてもかまわない。故に自分の計時した時計の針は、コース主任が計時用紙に記入する迄は戻さない様にする。

ヘ) コース主任はそれぞれのコースで計時が終わったら、急いで計時員席に戻り受持ちのコースの計時員から時間の報告を受け、それを計時用紙に記入し、コースの正式の時間を規則に従って算出しそれも記入して署名し、計時主任に提出する。

計 時 用 紙	
No.3 男子100M自由型	
A 組 予選	
3 コース	
A	56.0
B	56.1
C	56.3
D	
正式時間	56.1
氏 名	サイ ン

ト) 計時主任はコース主任よりの計時用紙を集計し、それぞれの選手の所要時間を規則に従って決定する。

尚、計時員によって計時された時間による着順を審判の判定に入れる場合は、計時主任は直ちにその着順を作製し、審判主任へ回付する。

チ) 審判主任より着順判定が記入された記録用紙が計時主任に回付されたらば、主任はそれぞれの選手の決定された時間を記録用紙に記入し署名し、通告主任へ回付する。

リ) 審判主任の判定した着順と、計時主任の決定した時間の遅速とが一致しない場合は審判主任の決定した着順を優先する。その場合の時間の取扱いについては規則に従って行なう。

ヌ) 時間の決定方法

a) 時計の読み方

(1)  $\frac{1}{10}$  秒計は秒以下の偶数、奇数共に読む

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 0

(2)  $\frac{1}{5}$  秒計は秒以下の偶数のみを読む

2. 4. 6. 8. 0

針が目盛の中間に止まった場合は遅い方を読む。

(例)

57.0      58.0  
|      |  
↑  
針

$\frac{1}{5}$  秒計に於いては時計の針が57.0から少しでも過ぎていれば、そ

の時の時間は57.2とする。 $\frac{1}{5}$  秒計で57.4という時間は計時出来ないのである。

以上の例から見て予選がタイムレースによ

て行なわれる場合は、主として $\frac{1}{10}$ 秒計を使用の方が良い、特に100Mの場合は不公平となる可能性もある。

- b) 計時は何分、何秒、何と分、秒、以下をはっきりという事、又60秒0は1分00秒0という。  
c) 計時員3人がそれぞれ同じ時間の場合はその時間とする。

(例) A 56.0 B 56.0 C 56.0

(正) 56.0

- d) 計時員3の中2人の時間が一致し、他の一人が異なる場合は一致した2人の時間をとる。

(例) A 56.0 B 56.0 C 56.2

(正) 56.0

- e) 計時員3人がそれぞれ異なる場合は真中の時間とする。

(例) A 56.0 B 56.1 C 56.3

(正) 56.1

これは3人の平均値ではなく、真中の人の時間である。

- ル) 審判主任の判定と、計時主任の時間の遅速と異なった場合、即ち下位になった者の方が、上位に判定された者の時間より良い場合である。

上位及下位の選手の双方について計時された時間の総和の平均を両者の正式時間とする。(但し小数第二位は切捨てる)

(例) 審判判定

5コース 1位……1:14.4

4コース 2位……1:14.0 の場合は

計時の内訳を調べてみると

5コース  $\left\{ \begin{array}{l} \text{A} \ 1:14.3 \\ \text{B} \ 1:14.4 \\ \text{C} \ 1:14.5 \end{array} \right\} \rightarrow 1:14.4$  と時間を決めた

4コース  $\left\{ \begin{array}{l} \text{D} \ 1:14.0 \\ \text{E} \ 1:14.0 \\ \text{F} \ 1:14.3 \end{array} \right\} \rightarrow 1:14.0$  と時間を決めた

5コース、4コースの計時員(A~F)6人の時間を合計して平均を出す。

A~F合計7分15秒5

$7分15秒5 \div 6人 = 1分14秒24$

(小数二位の4を切捨てる)

5コース、4コースの正式時間は1分14秒2となる。

- ヲ) 途中時間、正式時間のとり方

- a) 途中時間はコース主任がコース毎に指示して計時し、途中時間表に記入して計時用紙を提出する時に一緒に提出する、距離は50M又は100

M毎に計時する。

又、選手の中の一着の者の途中時間については専門の計時員を設けて、その都度マイクを通じて発表する。

- b) 正式時間については、その競技の開始される前に予告をして、3名の計時員によって計時す

途中時間表			
No.3 男子1500M自由型決勝			
3コース			
100		900	
200		1,000	
300		1,100	
400		1,200	
500		1,300	
600		1,400	
700			
800			
氏名 サ イ ン			

る。その記録は時間の発表の際に同時に行なわれる。

(例) 1,500m自由型に於ける800mの正式計時リレーの場合は第一泳者のみ正式時間を取る事が出来る。

(例) 800リレー第一泳者の200m正式計時400メドレーリレーの第一泳者100m Backの正式計時

- c) 途中時間、正式時間については審判長及計時主任が必要と認めた時に指示する。

## 記 録 員

### 1. 任 務

- ① 競技会の記録事務を迅速確実に行ない、競技の諸記録を完全に管理する。
- ② 競技会の進行は記録員の作成した記録用紙を中心に、それを軸として行なわれる。即ち、記録用紙は記録→通告→審判→計時→通告→記録と回付されて行く。
- ③ 記録員は記録用紙を作製し、各役員を回付し、それを最後にまとめ保管する。そしてそれに関連して決勝、準決勝の入選者の選出及其の組合せ、決勝の場合は得点計算、速報の作成等を行なう。
- ④ 記録員は競技役員としてはその中心となるべき記録用紙を作製するのであるが、実際の競技については直接の仕事はなく、競技役員としては補助役員の性格をもっているが、その事務処理についての範囲は、競技そのものよりも外部に向ってもっと広範囲

にわたっているのです、むしろ大会役員の様な性格をも持っているのです。

## 2. 構成

① 人員は7～9名によって編成される。

## 3. 記録の実務方法（記録用紙を中心としてみる）

### ① 記録用紙の作製

イ) 用紙に編成されたプログラムを基本として、種目、組、氏名、所属を記入する。

ロ) そして召集員からの連絡により棄権者の抹消とリレーオーダーの記入を行なう。

### ② 通告（通告員）

イ) 記録用紙によって、これから行なわれる競技の内容を通告する。

(例) 男子 200M 自由形予選, A組, コース順, 氏名, 所属を発表

### ③ 着順記入（審判主任）

イ) 審判主任が着順を記入する。

ロ) 出発合図員が出发に関して反則のあった時は、その選手を失格の旨記入する。

ハ) 監察関係で反則があった時は、審判長、監察主任は失格とその理由を記入する。

### ④ 時間記入（計時主任）

イ) 審判の着順に従って時間を記入する。

ロ) 備考欄に途中時間、正式時間の記入をする。

ハ) 新記録の記入を行なう。

### ⑤ 通告（通告員）

イ) 競技の結果を通告する。

### ⑥ 整理、保管（記録員）

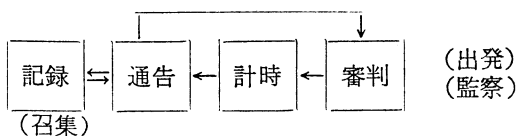
イ) 予選、準決勝の入選者の選出をする。

ロ) 準決勝、決勝の組合せをする。

ハ) 得点計算を作る。

ニ) 余裕があれば速報を作る。

以上の廻路を図示すれば



役員席を上図の様に配置すると、事務処理上大変便利である。

⑦ 記録員は世界新記録、日本新記録（その他高校、中学新記録）についての諸記録を未公認の新記録をも含めて確実に準備、調査しておく。

⑧ 競技会に於いて新記録が生まれた場合には、競泳規則に従ってその処理を間違いなく行なわなくてはならない。

⑨ 速報は役員、選手、監督（速報板ならば観客）（報導関係者）について大変便利なものであるの

で、出来るだけ努力して戴きたい。複写機の利用等を考えると便利ではないだろうか。

## 4. 組合せ及コース順の決定方法

① コースナンバーはプールに向って右端を第一コースとする。

② 予選及準決勝を通過する資格はあらかじめ決定し、プログラム等を通じて公表しておく。

③ 組合せは、予選では抽選とする。

### ④ コース順の決定

イ) 予選は抽選とするが、同組に同所属の者になるべく入らない様に配慮する。

ロ) 準決勝、決勝では予選（準決勝）に於いて、最も良い記録の者又はチームを

a) 奇数コースのプールでは 中央のコースに

b) 6コースのプールでは 第3コースに

c) 8コースのプールでは 第4コースに

配置し、2番目によい記録の者又はチームをその左側に、以下、右、左と交互に配置する。

(左端)

(右端)

コース名	9	8	7	6	5	4	3	2	1
着順	⑧	⑥	④	②	①	③	⑤	⑦	

ハ) 予選、準決勝に於いて同記録の者のコース順については

a) 異なる組の時は、先に競技を行なった組の選手又はチームを優先する。

b) 同じ組の時は、着順の上位の者又はチームを優先する。これはコース順の決定方法であって、タイムレースによる決勝選出資格決定とは自ら異なるのである。

### ⑤ 準決勝、決勝の組合せ決定方法

イ) あらかじめ公表された通りに、予選、準決勝の記録により、その順位によって決定する。

ロ) 準決勝 2組の場合

A組	コース名	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	予選順位	⑬	⑫	⑧	④	①	⑤	⑨	⑬	
B組	コース名	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	予選順位	⑮	⑪	⑦	③	②	⑥	⑩	⑭	

ハ) 準決勝 3組の組合せ

A組	コース名	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	予選順位		⑫	⑥	①	⑦	⑬			
B組	コース名	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	予選順位			⑪	⑤	②	⑧	⑭		
C組	コース名	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	予選順位				⑩	④	③	⑨	⑮	

ニ) 決勝

コース名	9	8	7	6	5	4	3	2	1
順位	⑧	⑦	④	②	①	③	⑤	⑦	

⑥ 予選、準決勝で同記録の場合の入選者の決定方法  
予選タイムレースの為に、同記録の場合は相当増える見込である。

イ) 同記録2名で1名入選の場合

a) 同組の場合は上位者を入選とする。

(例) A組	(1位)	5コース	57.0
	2位	4コース	57.0

b) 異なる組の場合は抽選とする。

(例) A組	1位	5コース	57.0
B組	2位	4コース	57.0

ロ) 同記録3名で1名入選の場合

a) 2名が同組で1名が異なった組の場合、同組の上位と異組の者と抽選する。

(例) A組	1位	5コース	57.0	} 抽選
B組	2位	4コース	57.0(落選)	
C組	2位	3コース	57.0	

b) 3名が異なる組の場合は抽選とする。

A組	1位	5コース	57.0	} 抽選
B組	2位	4コース	57.0	
C組	3位	3コース	57.0	

ハ) 同記録3名で2名入選の場合

a) 3名が異なった組の場合は抽選とする。

A組	1位	5コース	57.0	} 抽選によって2名入選する
B組	2位	4コース	57.0	
C組	3位	3コース	57.0	

b) 3名の中、同組2名で異なった組1名の場合  
は、同組上位と異組の者を入選とする

A組	1位	5コース	57.0	} 入選となる
A組	2位	4コース	57.0(落選)	
B組	3位	3コース	57.0	

## 通 告 員

### 1. 任 務

① 通告員は競技会の運営及競技についてすべての通告を行なう。

② 競技についての通告は競技委員としての任務であり、競技の運営についてその発表を行なうので必要な事であるが、競技会の運営についての通告は競技役員の任務を越えたものであり、むしろ大会役員の任務と見るべきである。

(例) 競技に関する通告

イ) 競技の開始前に……種目、組、コース順、氏名、所属の発表

ロ) 競技の終了後に……着順、氏名、所属、時間、得点等の発表

ハ) 準決勝、決勝への入選者、及そのコース順の発表、その他

(例) 競技会の運営についての通告

イ) 開会式、閉会式等の式典について

ロ) 外国選手の紹介

ハ) 入賞選手の表彰、及表彰者の紹介

ニ) 観客へのサービス、及要望

③ 通告の原則は与えられた原稿を読む事であって、原稿を作る事ではない。故に競技に関する通告ではすべて決定している事を通告するだけなので問題はないが、競技会運営についての通告は、その通告する原稿は通告員の中から選出して作らせるか、大会役員の中から特にお願いするかしなければならない。

④ 競技会の運営についての通告は時々突発的な出来事が起り、その通告について特に観客等に起った事については通告員の判断では決められない事もあり、実際面では悩みの種となっている。主催者側としては責任ある人を指名しておいて、その様な時でもすぐに応急の処置が出来る様に心がけて戴きたい。

### 2. 編 成

- ① 2～3名をもって編成し、随時交代して行なう。
- ② 通告の原稿を作製する。通告の中での記録員を作っておくと良い。
- ③ 国際試合では、外国語(特に英語)の出来る人を用意して戴きたい。

### 3. 通告の方法

- ① 設備について
  - イ) マイクは2本以上備える事が望ましい。
  - ロ) 設備について事前に技術者(装置、操作する人)によって十分調整しておく事。

② 競技場の全体を見て、競技の進行が円滑に行く様に通告を行なう。

イ) 競技の開始前と終了後の通告をする。

ロ) 準決勝、決勝の入選者及そのコース順についての通告をする。

ハ) 各所属団体の種目毎の得点、及得点累計を通告する。

ニ) その他の必要事項について通告する。

(例) ① 「審判長の笛が鳴りましたらお静かに願います」

② 「大変混雑して来ましたから、観客の皆様はお互いにおつめ合せ願います」

観客への要望事項が多くなる、競技役員と観客とを継ぐ唯一の方法、手段である。

ホ) 競泳の結果は出来るだけ早く行なう。予選の場合など進行時間の関係上次の組の選手が泳いでいる間にその合間を見て行なう。その際に、スタート、ゴールインの様な競技場全体が緊張する時をさけて行なうものとする。

- ③ 通告員は話し方の研究(マイクを通じて)をする場合がある。遠くまではっきり聞こえる様に語尾も明確に字句も間違いなく正確に行なう。又、役員、選手、観客の聞き手に聞きとり易い様にゆっくりと通告する、これはプログラムに記入しやすい様にする為である。

重要な通告は、ゆっくり繰返して行ない、出来れば掲示すると良い、通告の際に必ずしも口調に抑揚をつけなくても良い。

- ④ 呼称の統一をはかる

(例) ①背泳……○せおよぎ ×はいえい

② 1分00秒0として、60秒0としない

③ 途中時間、正式時間といって、途中計時、正式計時とはいわない。

#### 4. 観客へのサービスとしての通告について

従来は競技会で競技についての通告のみを行なって、なるべく余計な事は通告しない様に努めて来たが、水泳の普及の為にも、大会の雰囲気盛り上げる為にも、ある程度はサービスの通告を行なっても良いのではなかろうか。

しかしその際は大会役員の中から責任者を作って、その人の指示の下に行なう様にする。その限界をどの様にするかは、その時の状況判断と良識によって行なう。

又、事前に資料の研究、調査を十分に行なって戴きたい。

(例) 予測的な通告「只今のレースで○○君は、世界新記録を作った模様であります」、これは原則としてニューレコード(未公認記録を含めて)が出た場合には行なっても良いのではないだろうか。

## 召 集 員

### 1. 任 務

- ① 召集員はプログラムに基いて、選手を迅速に、正確に点検し、出場及欠場の有無を確認し、競技の開始に支障ない様にする。
- ② 競技の開始前に選手をタスタート台まで誘導し、決められたコースに選手をつけた事を確認してから審判長に報告する。
- ③ 召集員は選手、監督、コース等の競技を行なう者に関して、すべての窓口となる。

故にそれに関する事柄はすべて召集員が行ない、これを受付けた場合は記録主任に報告する。

イ) 棄権者

ロ) リレーオーダーの提出

ハ) 選手、監督、コーチよりの苦情

- ④ 競技会の開催期間中に於いて生ずる選手の動静を把握し、又、他の競技役員より申し出ある場合は報告する事。

- ⑤ 決勝終了後入賞者を表彰する時は、その入賞者を集めておいて表彰を容易にさせる。又場合によってはそのまま表彰係を兼任する事もある。

### 2. 編 成

- ① 5~8名をもって編成する。

- ② 女子の競技がある場合は、女子の召集員を含めておく事とする(2名程度)。

- ③ 選手、役員間の連絡員を作っておくと便利である。

- ④ 表彰を行なう場合には、記念品、賞状を持参する人、国旗の掲揚がある場合は、その担当者及入賞者を集めておく人々等を用意する。

### 3. 召集の方法

- ① 選手を所定の時間(レース開始前10~20分位)までに、確実に召集の受付まで集合させる。

- ② 召集員は選手が集合したら点呼をし、選手は指定された場所で各組毎に編成され待機する。その際に選手が本人であるか否かを確認する。

- ③ 選手が特別の事情で席を離れる時は、必ず召集員に知らせると共に指定された時間内に戻る事。

- ④ 召集員と選手の控室の間にマイク又テレビ(工業用)をおいて、試合の進行状況及選手の召集状況などを通告すれば、お互い大変便利かと思う。

- ⑤ 競技会前の監督者会議が催される場合は、その時に選手の集合時間について徹底する様に努力する。

- ⑥ 集合時間を公表しておいて尚且つ集合時間に遅れた者については、審判長の指示を受け失格としても良い。

- ⑦ 召集員は前の組の最終泳者がゴールインしてから、その組の競技が開始される前に選手をスタート台の後方に誘導し、再度の点呼をして間違いがなければ審判長に報告する。

- ⑧ 競技開始前のウォーミングアップについては原則として行なわせない。事前に審判長とも打合せを行ない、決勝に於いて時間的余裕があれば行なわせても良い。

選手にその事については事前によく話しておく事。



- ⑨ リレーオーダーの提出は召集員に於いて受付けるが、指定の時間に提出なきチームは棄権とみなされる。
- ⑩ 選手は試合終了と同時に、スタート台側より直ちに撤去する様に指導する。

## 報道関係員

### 1. 任 務

- ① 競技会の運営競技の進行をさまたげたり選手の迷惑にならない様に、報道関係員の取材を制限する。競技会の前に打合せを行なって競技会の当日争い事のない様にする。(東京、大阪、福岡には幹事会社があり、それを通じて行なう事とする)
- ② 報道関係員についての窓口となり、各役員もその取締りは、すべて報道関係員を通して行なう。
- ③ 競技役員というよりも大会役員であり、その方の責任者の指示を仰ぐ事。

### 2. 編 成

- ① 2～3名をもって編成する。

### 3. 方 法

- ① 事前の打合せを良くしておいて、競技会当日はその約束を確実に守らせる様にする。

イ) テレビ関係——カメラの位置、操作員、場外での車、その他について

ロ) ラジオ関係——放送席を設ける。

ハ) 新聞関係——新聞記者席を設ける。  
写真関係者については、プールサイドの取材範囲をはっきりとさせる。

(イ)ロ)については観客席を使用する場合もあるので、大会責任者ともよく打合せておく事。

#### ② 取材方法

イ) インタビューについては  
場所をはっきりさせてそこで行なわせる。プールのスタート台では行なわせない。テレビの場合でも別にインタビュー席を作りそこにカメラを運んで貰うと良い。

ロ) 立入禁止については厳格に守って貰う。  
プールの構造にもよるが、役員席、表彰の場合の特例、プールサイドの片側を使用して貰う等、主として写真についての要望が多い。

ハ) 選手の控席に入らせない事。

ニ) 役員席に入って来て、準決勝、決勝の組合等を事前に筆記に入ってくるのを取締る。

- ① 競技中に起った事項に関する抗議は発生後30分以内に文書を以って審判長に提出する事。

- ② 但し、競技開始前に判った事項は、その競技の出発合図の前に申出なければならない。

(例) ① プログラムのミスプリント

② 出場選手の出場資格に疑いがある場合  
(年令制限、出場する級の相異等)

③ 出場選手が本人でないとと思われる場合

- ③ すべての抗議及苦情はその競技会を公認する日本水泳連盟及加盟団体から任命された総務委員によって検討し裁定される。

- ④ 本連盟及加盟団体によって任命された役員による反則の決定、着順の決定は最終のものとし、これらの事柄に対しての抗議もしくは上訴は許されない。

## 競技役員の心得

- ① 日本水泳連盟及加盟団体は、国際アマチュア、水泳連盟並びに日本体育協会のアマチュア規程に基いて、アマチュアスポーツの精神に従って役員及選手にアマチュア資格を厳守させると共に、その資格の保護、監督する責任を有する。

- ② アマチュアスポーツの役員及選手とは、楽しみの為、又肉体的精神的利益の為に或いは自己の属する社会の利益の為にのみスポーツを行なうものにして、役員及選手にとってスポーツがレクリエーション以外の何ものでもないようなものをいう。

- ③ アマチュア資格については、日本水泳連盟規約によるものとする。

- ④ 競技役員は競技会の運営に当って、アマチュアスポーツ精神に従って公平、厳正でなければならない。

- ⑤ 競技役員は常に多数の観客、選手の注目する所である事を自覚し、その服装、態度、行動については、十分注意を払う必要がある。

- ⑥ 競技役員は自分に割当てられた職務を十分に果す様に努力する。

- ⑦ 競技役員は日頃から規則、実技共に訓練し、その判定に誤りのない様に努力する。そして自分の判定した結果については、自信と責任をもって毅然とした態度で処理する事。

- ⑧ 競技役員として当り前のことであるが、例え自分に直接関係ある選手が出場する場合でも、冷静、沈着な態度で、公平なる行動をしなければならない。

- ⑨ 競技役員は競技開始前(開会式ある時はその前)30分に競技場の役員席に集合する事、但し、総務、通告員、召集員、式典係(開会式の準備)等競技開

## 抗 議

始前に役員としての仕事のある者は、その仕事の準備に必要な時間だけ早く集合して、準備に万全を期する事。

- ⑩ 審判長は役員が集合したら、各主任を集めて競技会についての指示を与える。又、各主任はそれぞれの役員にその意向を伝えて、競技の開始及進行に支障のない様に準備を整えてから、それぞれの役員席で待機している。

施設、設備を担当している役員は、前日には一応その準備、調整を完了しておく事。

- ⑪ 各役員は各主任の指示に従って、規律正しく機敏な態度で行動する事。  
⑫ 各役員は役員席では禁煙の事、喫煙は役員控室に

行って戴きたい。

- ⑬ 各役員は定められた席を離れる場合は、必ず主任に連絡してから出かける事。  
⑭ 競技役員は相互の連絡に事前にサインを決めておく事。大声を張り上げたりみだりにプールサイドを行ったり来たりしない事。  
⑮ 役員席で待機している時も、なるべく静粛にして騒がしくない様にする。  
⑯ 各役員が使用する競技用具の使用、管理については十分注意する事。  
⑰ 競技会が長時間にわたり、試合日程も大分強行する場合も多いので、役員の交代についても十分配慮する事。

### ((編集後記))

本号の発行が大変おくれて何とも御詫びの中上げようがありません。日米、国際と繁忙な大会がつづき、関係者は目の廻るような忙しさで、遂にこんなことになってしまいました。前委員長栗村氏のあとを受けた第1号がこのような不手際となり誠に恥しい次第であります。

愈々オリンピックの本番となりました。今年はおくれないように努力するつもりでおります。

(編集委員長 宍道)

編 集 委 員 (いろは順 ◎印編集委員長)

市村 一, 奥平 幸夫, 金田平八郎, 坂本亮四郎, 三枝美貴子, 佐藤 幸男, 菊池 章  
島田桃一郎, 島田 博史, 鈴木 祐一, ◎宍道 洋一

日 本 水 泳 連 盟  
機 関 誌

水 泳

第 152・153 号

昭和 39 年 1 月 10 日 印 刷  
昭和 39 年 1 月 15 日 発 行

日 本 水 泳 連 盟

編 集 兼 伊 藤 謹 平  
発 行 人

印 刷 所 株式会社 成島印刷所  
東京都中央区日本橋本石町3の4  
電話 日本橋(241)1701.6509.7082

東京都千代田区丸ノ内2-2  
丸ビル722区

発 行 並 日 本 水 泳 連 盟  
申 込 所

電 話 和 田 倉 (212) 7941~3番  
振 替 口 座 東 京 5 1 7 8 番



## ● 学校体育関係の方へ

さァ今度は東京オリンピック… 水上日本の期待はピチピチした少年少女の肩にかけています 〈水の子〉たちを大腸菌どもと競泳させてはなりません

来年の夏こそ みんなの夢「飲料水で泳ぐ」を実現しましょう いまがチャンスです！  
ジョースイのプール循環浄水装置をご研究ください ヘヤーキャッチャー／循環ポンプ／薬品自動注入装置／口過機／塩素滅菌装置をくみあわせ 汚れた水を洗ってもういち度使う循環式ですから

- 1, 水が極端に節約できます
- 2, 浮遊する細菌や微生物 バクテリアなどが完全に浄化できます
- 3, 連続的に給水できます 水替えのためプールを空にして使用を中断しなくてもよいのです

工業用水・廃水処理装置から市町村の上下水道まで “水処理のプラント・メーカー”  
ジョースイの生んだ傑作です

世界の水準をゆく

# ジョースイ

## プール循環浄水装置

株式会社 浄水工業所

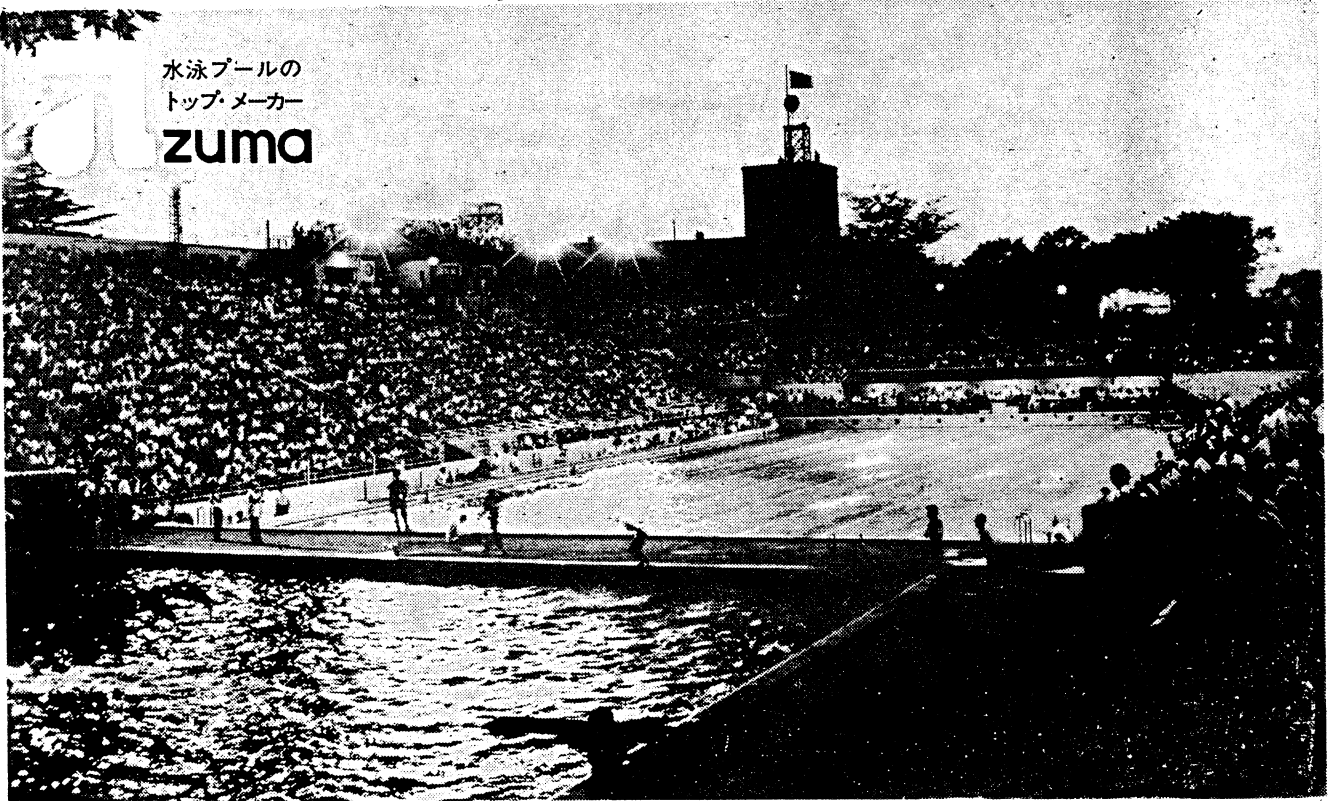
本社 尼崎市浜字十二 Tel大阪代表(401)-7001  
(591) 9771-3  
支店 東京都港区芝西久保桜川町24(梶ビル) (501) 0406-7

営業所 札幌・仙台・広島・福岡・小倉

安宅産業株式会社

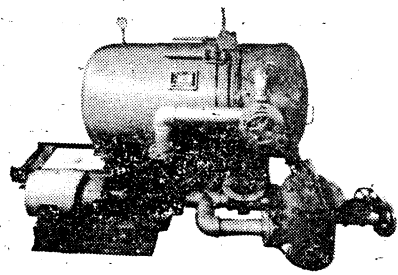
水泳プールの  
トップ・メーカー

**zuma**



## 水泳プール循環浄化装置

新発売・硅藻土方式  
ワンタッチ・クリスタル



最高の技術・性能・優れたアフター・サービス

**東浄水 機械工業株式会社**

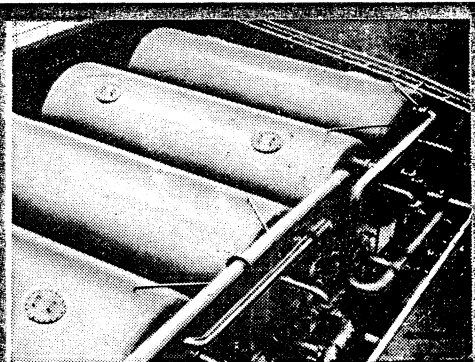
本社／東京都港区芝白金台町2-34 (441) 2161代

大阪／大阪市南区順慶町4-79 (251) 6497代

九州／福岡市蓮池町26-2 (2) 6064代

近づいた東京オリンピック

過去の国際試合で輝やかな記録を残した日本水泳界にとって東京オリンピックはその感激を新たにすべく又とないチャンスです。この機会に健康の増進・体位の向上を目ざして水泳熱を高めましょう。東浄水は全国400余ヶ所のプールを設計・施工したトップメーカーです。プールを計画中の方はぜひ一度ご相談下さい。



砂濾過方式  
前橋市営プール

●見学・設置・カタログのお申込みはお手近な営業所のS-38係へ